



クイックスプレー

超速硬化ウレタン防水システム

QUICK SPRAY

クイックスプレー

免責事項:シーカ製品の施工および使用に関する推奨その他の情報は、当社の現時点での知識および経験に従ったものであり、通常の条件下で当社の推奨に従い適切に保管・処理・施工されることを前提としております。実際には、材料・接着面・現場の条件がそれぞれ異なるため、ここに記載されている情報、書面による推奨その他のアドバイスは、商品性や特定目的への適合性について保証するものではなく、また法的関係に基づく責任を生じさせるものではありません。ユーザーは、シーカ製品がユーザーの意図する施工方法および目的に適しているかどうかを、必ず事前に確認してください。特に、施工、施工管理及び施工に関する報告書の作成はユーザーの責任において行うものであることにご留意ください。

当社は、第三者の財産権を尊重し、製品の特性を変更する権利を有します。すべての注文は、当社の最新の販売・納品条件に従って受注します。ユーザーは常に、使用する製品のプロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版をご参照ください。プロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版は、ご請求いただければ当社がご提供いたします。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たにシーカ・ジャパン株式会社としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのお問い合わせフォームよりお願い申し上げます。
<https://jpn.sika.com/ja/system/contact-us.html#construction>



2025年 5月版

(25.5月現在) 25.05. 2,000 SJ

シーカ・ジャパン株式会社

東京都港区元赤坂1-2-7 赤坂Kタワー7F TEL. 03-6434-7291

BUILDING TRUST



BUILDING TRUST



この^{反 応 性}**Response**が
強さを生み出す。

「超速硬化ウレタン」。

あまり聞き慣れなかったこの防水材料が、
今では「信頼できる防水材」の代名詞になろうとしています。
その施工性・追従性・優れた納まり性と改修更新性が支持を受け、
シェアが拡大しつつある「ウレタン塗膜防水材」の優位性はそのままに、
“短時間の指触乾燥と硬化”、“優れた塗膜物性”、
そして専用システムの機械施工による
“安定した品質”を得たのが「超速硬化ウレタン」です。
私たちは、この「超速硬化ウレタン」の工法開発を積極的に推し進め、
信頼性の向上と用途拡大を実現してきました。

今日も、そしてこれからも。

「超速硬化ウレタン」を^まと纏った建築構造物が新たに誕生しています。

その^{可 能 性}**Potential**に
期待は広がる。

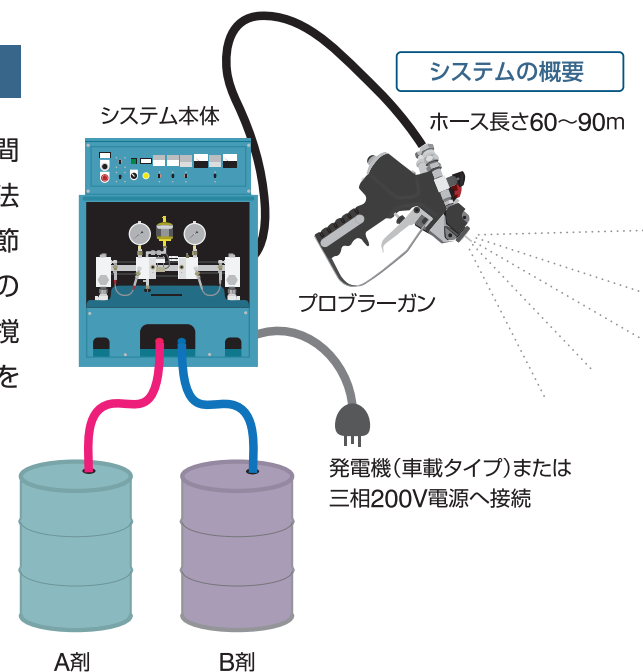


その要望に 「専用システム」が応えます。



超速硬化ウレタン施工専用システム

A剤とB剤の混合直後にゲル化し、さらに極めて短い時間で硬化する「超速硬化ウレタン」の施工を可能とする方法は、唯一「専用システムによる吹付け施工」だけです。季節に左右されず材料を最適な温度に保ちながら、常に一定の流量になるようシステムがコントロールします。また最も攪拌効率が良くとされている世界標準の“衝突攪拌”方式を採用することで、均一かつ高い品質を確保します。



「DFX」シリーズ

また当社では、システム本体(ポンプ+ヒーター)・ホースおよび発電機を全て車両に搭載した「オール・イン・ワン」タイプの専用システムを独自に開発しています。施工現場内の移動を容易とし、さらに吹付け箇所の間近まで接近させられるため、作業効率を飛躍的に向上させます。



その答えを 「超速硬化ウレタン」が持っています。

1

極めて短い時間で指触乾燥そして硬化

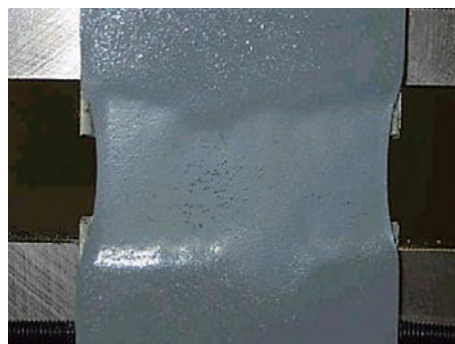
超速硬化ウレタン最大の特長、それは名前の通り“極めて短い時間で指触乾燥・硬化”することです。施工部位の短期間での仕上げを可能とするだけでなく、勾配・傾斜部や複雑な形状においても膜厚が確保できます。



2

高い塗膜物性

ウレタン塗膜防水材特有の下地挙動に対する追従性を持ち、より高い抗張積を獲得。引張強度・引裂強度に優れ、強靱な防水層を形成します。



3

専用システムによる機械化施工

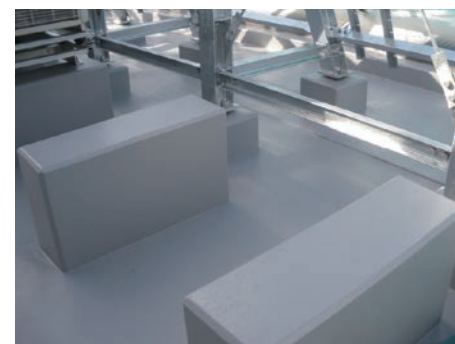
反応硬化が極めて早い超速硬化ウレタンの施工方法はただ1つ、“専用システムによる吹付け施工”だけ。品質に大きな影響を与える“温度”と“流量”を完全に管理し、均一かつ高い品質の防水層をご提供します。



4

優れた水密性と納まり性

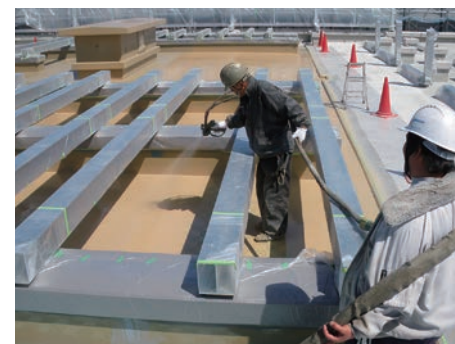
施工面全面にジョイントの無い、“シームレス”な防水層が形成されるため、優れた水密性を有しています。また雨水の浸入箇所となることが多い防水層の末端には押え金物を使用しないためシンプルな納まりとなり、防水層の信頼性も一層向上させます。



5

安全性

超速硬化ウレタンはF☆☆☆☆を取得済み。またトルエンやキシレン等の溶剤、および特定化学物質も含有していません。さらに超速硬化ウレタンの施工時にはバーナー等の火気も一切使用しません。つまり“安全・安心”な材料と施工方法です。



6

改修更新性

次回以降の改修方法はウレタン塗膜防水層の塗重ねによる「オーバーレイ改修」。計画的にメンテナンスを行うことで、防水層の維持保全コストの大幅な低減に貢献します。



その条件を満たすのが これらの製品です。

クイックスプレーシリーズで用いられる超速硬化ウレタンは、
ロングセラー製品「エバーコート SP-100」をはじめとする下記4製品です。
全ての製品でホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆を取得、またトルエンやキシレンを含まず、
さらに特定化学物質も無配合の「世界標準の安全」を備えた製品です。
クイックスプレーシリーズは、これらの製品を使用用途に合わせ、最適な構成で仕様が組みられています。

エバーコート SP-100 Evercoat SP-100

超速硬化ウレタン

長年、当社の超速硬化ウレタンのスタンダードとして様々な場面で使用され、最も施工実績が豊富なのが、この「エバーコート SP-100」です。
最大の特徴は「JIS A6021屋根用塗膜防水材ウレタンゴム系」の「高伸長形」と「高強度形」双方の規格値を備えていることです。優れた伸び性能と高い抗張積により強靱なウレタン塗膜防水層を形成するため、一般屋上をはじめ開放廊下や金属屋根にも使用しています。



〈JIS A6021 屋根用塗膜防水材ウレタンゴム系の規格値との比較〉

項目	高伸長形	高強度形	エバーコートSP-100
引張強さ[N/mm]	2.3 以上	10 以上	10
引裂強さ[N/mm]	14 以上	30 以上	58
破断時の伸び率[%]	450 以上	200 以上	510
抗張積[N/mm]	280 以上	700 以上	1,100

プラマックス500／プラマックス450P (ND) Plamax 500／Plamax 450P (ND)

超速硬化ウレタン

「プラマックス500」は「エバーコート SP-100」に比べ、より高い耐摩耗性を備えた超速硬化ウレタンです。このことによりウッドデッキやインターロッキング、押えコンクリートの設置も可能としています。
また「プラマックス450P (ND)」も露出駐車場防水で使用される高い耐摩耗性を備えた超速硬化ウレタンで、競技場観客席など比較的歩行頻度の高い部位での使用が最適です。



PM-5000 PM-5000

超速硬化ポリウレア

防水性能をはじめ、さらに緑化に必要とされる“耐根性”“耐菌性”“耐薬性”を備えた緑化専用の超速硬化ポリウレア樹脂です。
また「プラマックス500」と同様に耐摩耗性も高いため、緑化部から連続するウッドデッキ部にも使用が可能です。



エバーコート Zero-1H Evercoat Zero-1H

1成分形ウレタン

複合密着工法 (UPM工法／V-UF工法) の下層で使用する手塗りウレタンには、施工性に優れた1成分形ウレタン塗膜防水材「エバーコート Zero-1H」を採用しています。超速硬化ウレタン・ポリウレアと同様に、品質面はもとより安全面においても優れた製品です。
※本製品は超速硬化ウレタンではありません。



クイックスプレー 適用一覧

工 法	仕 様	新築／改修	掲載ページ	平均塗膜厚	主な用途	外断熱仕様	保護仕様
複合密着工法	UPM-10	新築	P.15	3.0	屋上		
	UPM-10C	新築	P.15	3.0	屋上		○
	UPM-10CF	新築	P.16	3.0	屋上	○	○
緑化専用工法	V-UF	新築・改修	P.17	3.0	緑化		
地下防水	CVスプレー	新築	P.20		地下構造体		

密着工法	SPM-160SK	新築・改修	P.27	1.6	金属屋根		
	SPM-200SK	新築・改修	P.27	2.0	金属屋根		
	SPM-160KY	新築・改修	P.29	1.6	勾配屋根		
	SPM-200KY	新築・改修	P.29	2.0	勾配屋根		
	SPM-160KR	新築・改修	P.31	1.6	開放廊下		
	SPM-200KR	新築・改修	P.31	2.0	開放廊下		
	SPM-160IY	新築・改修	P.31	1.6	室内床		
	SPM-200IY	新築・改修	P.31	2.0	室内床		
	SPM-200KK ハイグレード	新築・改修	P.19,33	2.0	競技場観客席（スタンド）		
	SPM-200KK スタンダード	新築・改修	P.19,33	2.0	競技場観客席（スタンド）		
	SPOR-200	改修	P.35	2.0	既存ウレタン塗膜防水層		
	SPM-200	新築・改修	P.40	2.0	庇・狭小部位		
通気緩衝工法	SPT-200	新築・改修	P.37	2.0	屋上		
	SPT-300	新築・改修	P.37	3.0	屋上		
機械的固定工法	SPR-200	新築・改修	P.38	2.0	屋上		
	SPR-300	新築・改修	P.38	3.0	屋上		
機械的固定・外断熱工法	SPRF-200	新築・改修	P.18,39	2.0	屋上	○	
	SPRF-300	新築・改修	P.18,39	3.0	屋上	○	
公共建築工事標準仕様	SPX-1	新築・改修	P.41	3.0	屋上		
	SPX-2	新築・改修	P.41	3.0	屋上		
独立行政法人都市再生機構仕様	SURM-150	改修	P.43		階段室床		

仕様記号の読み方

クイックスプレー
全仕様共通

工法種類

厚み

適用

mm×100で表記
例:1.6mm→160

適用

工法種類

M：密着工法
T：通気緩衝工法
OR：塗り重ね改修工法
R：機械的固定工法
RF：機械的固定外断熱工法
X-1：公共建築工事標準仕様対応工法X-1相当
X-2：公共建築工事標準仕様対応工法X-2相当

SK：折板・瓦葺屋根
KY：勾配屋根
KR：開放廊下
IY：一般床
KK：競技場観客席
L：立上り

※ 一般的ではないが適用可能。または過剰品質
○ 適用可能
△ 条件付きで適用可能

室内歩行	非歩行	非歩行	軽歩行	軽歩行	軽歩行	歩行	重歩行	重歩行	金属 屋根	スレート 屋根	緑化	RC PCa	ALC
一般床	庇	屋根・勾配屋根 (階下が居室で ない)	ベランダ	開放廊下	屋根 (階下が居室) ルーフ/バルコニー	運動場	競技場 スタンド	開放広場				○	△
※	○	○	○	○	○	○	△					○	△
※	※	※	※	※	○	○	○	○				○	△
※	※	○	※	※	○	○	○	○				○	△
※	※	※	※	※	※						○	○	△
												○	△

									○	○		－	－
									○	○		－	－
	○	○										○	△
	○	○										○	△
			○	○								○	△
			○	○								○	△
○												○	△
○												○	△
	※	※	○	○			○					○	△
	※	※	○	○			○					○	△
既存防水層の使用用途による													
○	○				△							○	△
○	○				△							○	△
※	※		※	※	○							○	△
※	※		※	※	○							○	△
※	○				△							○	△
※	○				△							○	△
※	○				△							○	△
※	○				△							○	△
※	※		※	※	○							○	△
※	○		○	○	△							○	△
			○	○								○	△

非歩行	ゴム底の靴やサンダル等防水層に損傷を与えない履物で、歩行頻度が少なくかつ使用者が限定される。
軽歩行	ゴム底の靴やサンダル等防水層に損傷を与えない履物で、使用者が限定される。
歩 行	ゴム底の靴やサンダル等防水層に損傷を与えない履物で、使用者が比較的限定される。
重歩行	ゴム底の靴やサンダル等防水層に損傷を与えない履物で、使用者は限定されない。 ただし、保護層を設置する場合は履物の種類も限定されない。

09 QUICK SPRAY

QUICK SPRAY 10

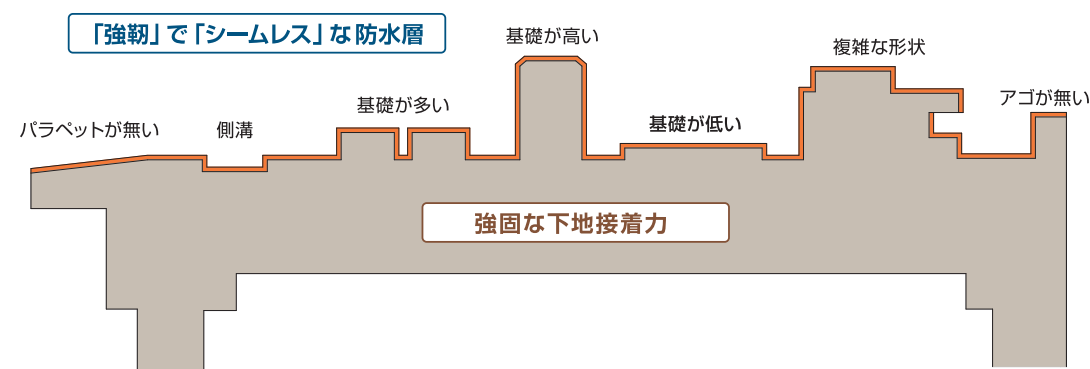
新築	12
UPM-10	15
UPM-10C	15
UPM-10CF	16
V-UF	17
SPRF	18
SPM-KK	19
CVスプレー	20
施工条件と注意事項【新築】	21
改修	24
SPM-SK	27
SPM-KY	29
SPM-KR／IY	31
SPM-KK	33
SPOR	35
SPT	37
SPR	38
SPRF	39
SPM	40
公共建築工事標準仕様	41
公共建築改修工事標準仕様書	42
独立行政法人都市再生機構仕様	43
施工条件と注意事項【改修】	44
製品	48
ウレタン塗膜防水材	49
プライマー	51
トップコート	53
通気緩衝シート／その他	57
副資材	61
脱気装置	63
下地処理材／目地処理材	64
使用材料一覧	67
製品の取り扱いに関する注意事項	69
資料	70
消防法関連	71
使用上の注意事項	73
メンテナンス／保証	74
納まり図	75

新 築

For
new
construction

1 最高品質の部材、そしてシンプルな構成。 「対応力」を備えた防水層を実現させます。

■〔例〕複雑な形状の躯体を施工した場合（イメージ）



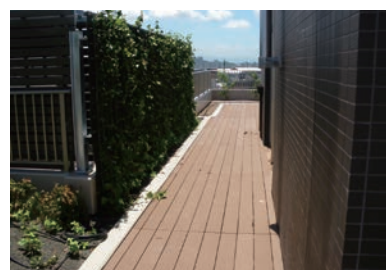
■様々なニーズに対応した、豊富なラインナップ

一般屋上「UPM-10」



仕様は P.15 ▶

ウッドデッキ「UPM-10」



仕様は P.15 ▶

開放広場「UPM-10C」



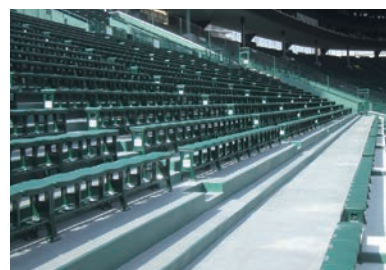
仕様は P.15 ▶

緑化部「V-UF」



仕様は P.17 ▶

競技場観客席「SPM-KK」



仕様は P.19 ▶

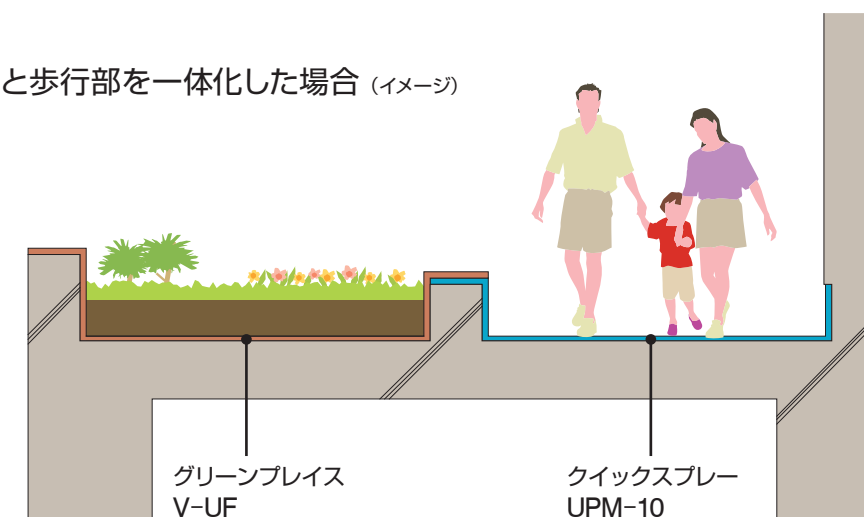
地下外壁「CVスプレー」



仕様は P.20 ▶

2 異なる仕様の組合せでも「連続」かつ「一体化」した防水層。 「信頼性」を備えた防水層を形成します。

■〔例〕緑化部と歩行部を一体化した場合（イメージ）



■使用用途の異なる場合でも、それぞれに対応した仕様で全面を一体化

緑化部「V-UF」+ウッドデッキ「UPM-10」／押えコンクリート「UPM-10C」



谷樋部「SPRF」+金属屋根下「SPX-2」

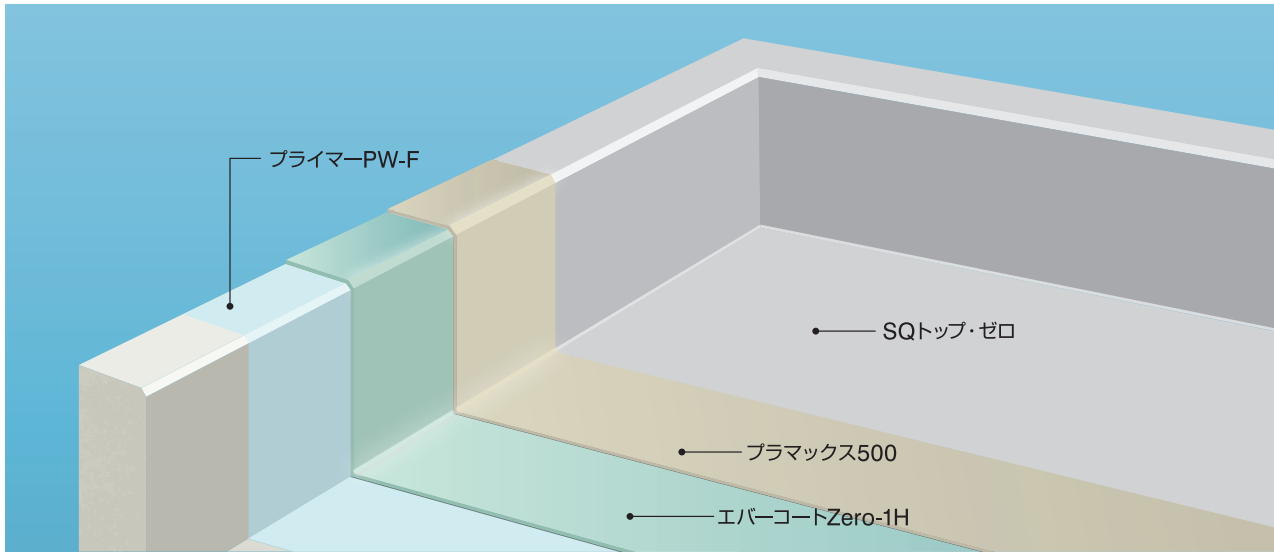


インターロッキング「UPM」



UPM工法

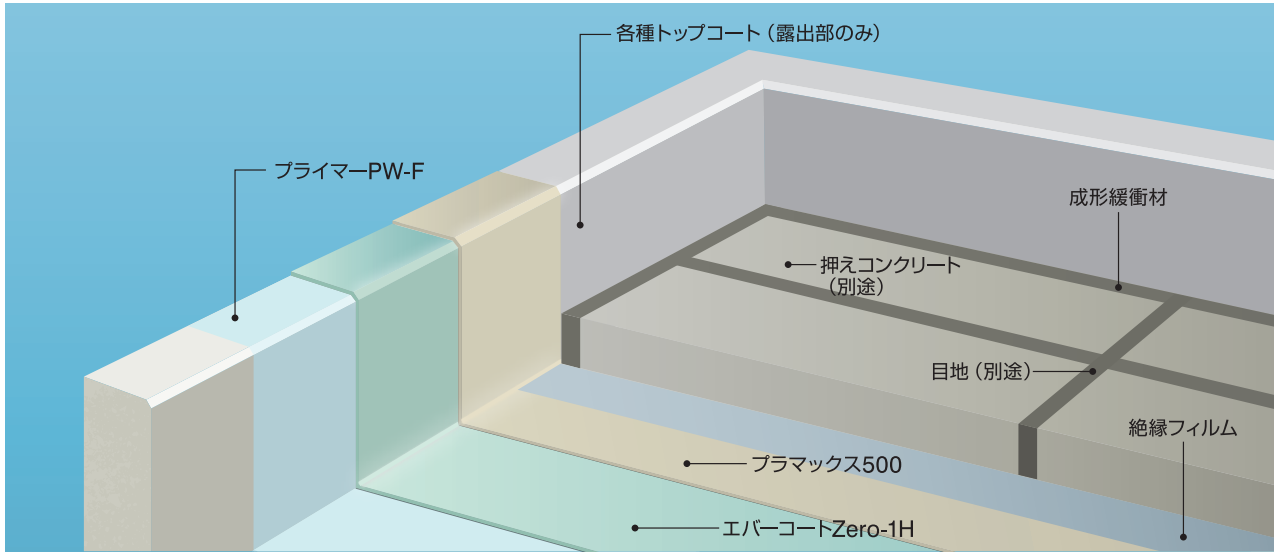
〔複合密着工法 新築用一般屋根〕



UPM-10

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートZero-1H	1成分形ウレタン塗膜防水材	1.3
3	ブラマックス500	超速硬化ウレタン	2.0
4	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※新築下地で表面が緻密なコンクリート下地を想定し、プライマーの塗布量は0.15kg～としていますが、吸い込み状況に応じて塗布量を増やします。
※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

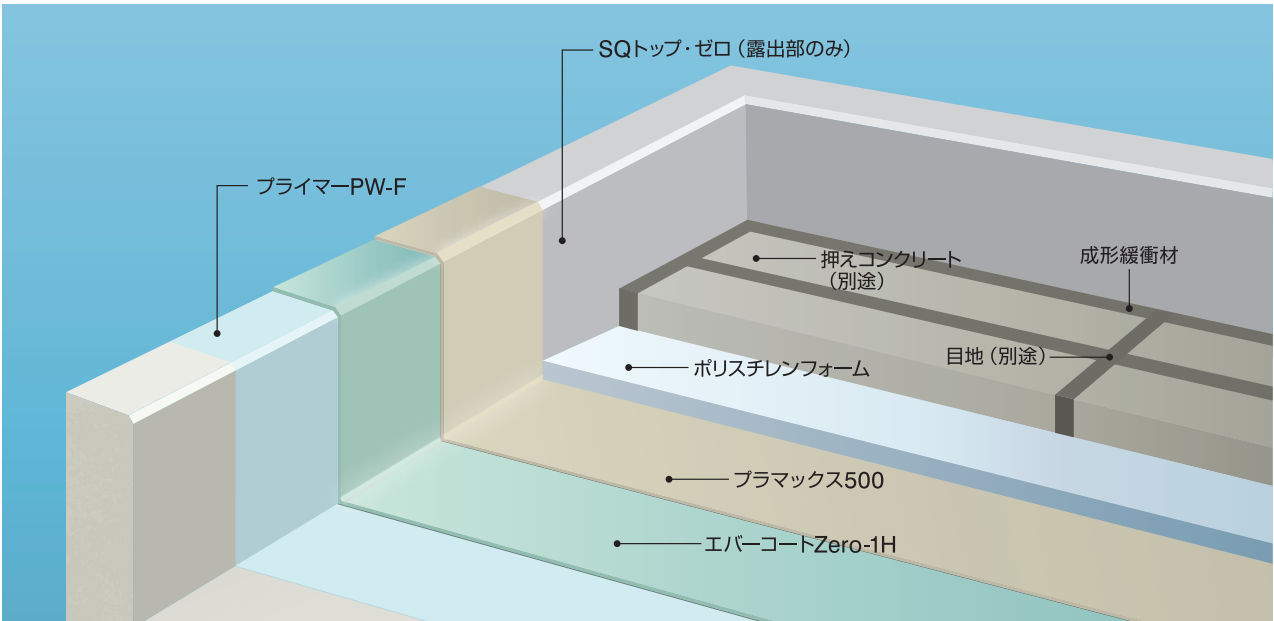


UPM-10C

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートZero-1H	1成分形ウレタン塗膜防水材	1.3
3	ブラマックス500	超速硬化ウレタン	2.0
	絶縁フィルム 押えコンクリート		別途工事

※新築下地で表面が緻密なコンクリート下地を想定し、プライマーの塗布量は0.15kg～としていますが、吸い込み状況に応じて塗布量を増やします。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。



UPM-10CF

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートZero-1H	1成分形ウレタン塗膜防水材	1.3
3	ブラマックス500	超速硬化ウレタン	2.0
	断熱材固定用接着剤		
	断熱材設置+ジョイント部テープ張り		
	押えコンクリート	別途工事	

※新築下地で表面が緻密なコンクリート下地を想定し、プライマーの塗布量は0.15kg～としていますが、吸い込み状況に応じて塗布量を増やします。

〈共通立上り仕様〉

UPM-10L

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートZero-1H立上り用	1成分形ウレタン塗膜防水材	0.7
3	ブラマックス500	超速硬化ウレタン	2.0
4	SQトップ・ゼロ（露出部のみ）	トップコート	0.2

※新築下地で表面が緻密なコンクリート下地を想定し、プライマーの塗布量は0.15kg～としていますが、吸い込み状況に応じて塗布量を増やします。

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

UPM工法 施工事例



技術審査証明

BL 審査証明-039／一般財団法人 ベタリービング

技術名称 通常の歩行用途に適用可能な超速硬化ウレタン複合防水工法 クイックスプレー UPM-10工法

技術の概要

本工法は露出防水でありながら「通常の歩行^{※1}」用途に適用、同用途にて用いられるアスファルト防水現場打ちコンクリート仕上げ（以下：在来工法）のような防水層の保護材（現場打ちコンクリートなど）が不要、防水+仕上層の軽量化や工期の短縮が図れる工法である。

また、適用部位の用途や要求性能に応じて、本工法は露出防水（仕上塗料）のみならず、断熱材の敷設により断熱工法としての適用や、必要に応じて保護材（現場打ちコンクリート・インターロッキングブロック）の敷設も可能である。

※1：建築学会JASS8 適用部位・用途

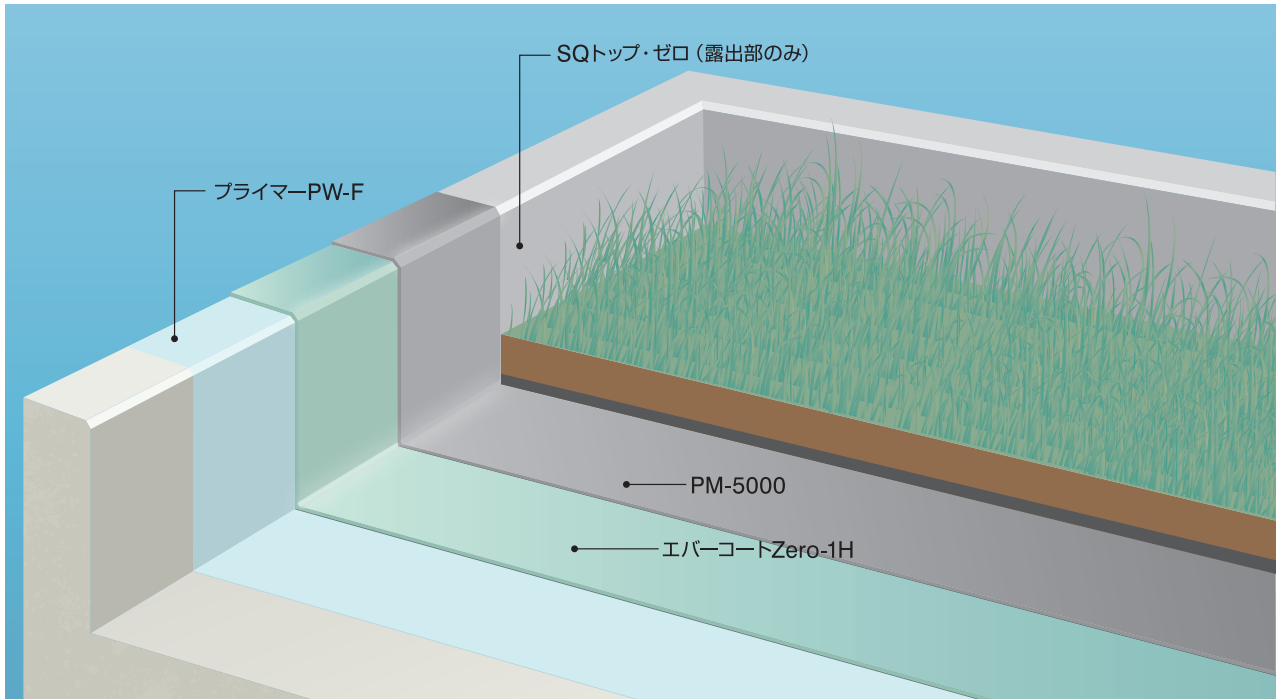
詳しくは「概要書」をご覧ください。「概要書」については営業担当までご請求ください。



・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

V-UF工法

〔緑化専用工法〕



V-UF

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートZero-1H	1成分形ウレタン塗膜防水材	1.3
3	PM-5000	超速硬化ポリウレア	2.0

※新築下地で表面が緻密なコンクリート下地を想定し、プライマーの塗布量は0.15kg～としていますが、吸い込み状況に応じて塗布量を増やします。

V-UF 立上り

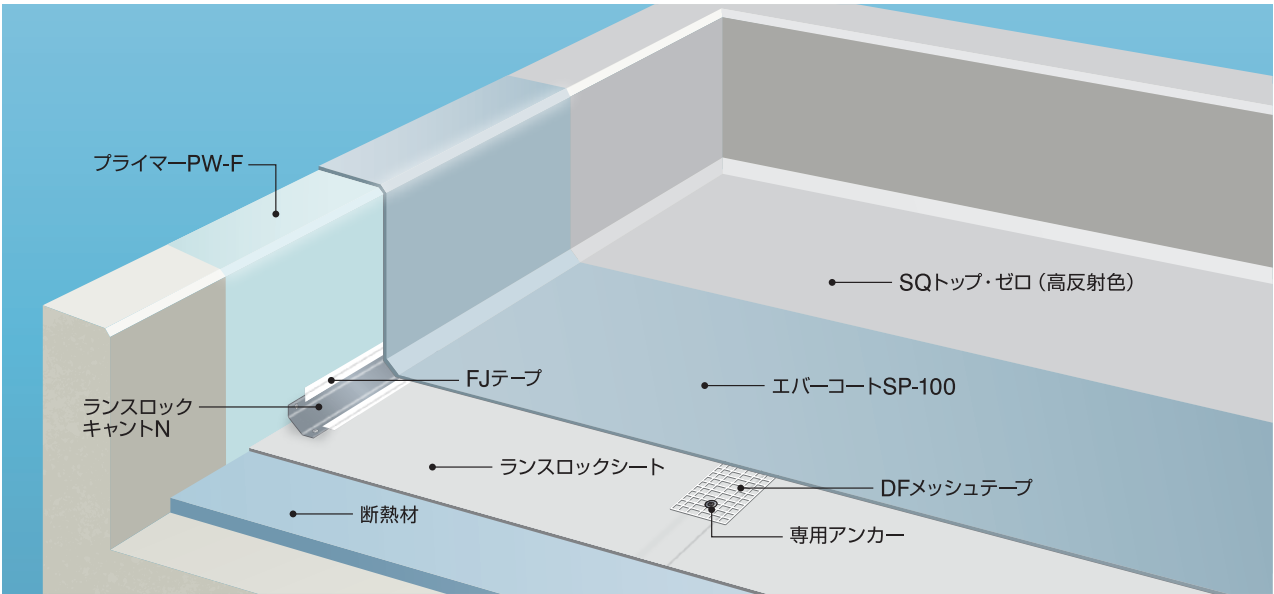
工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートZero-1H立上り用	1成分形ウレタン塗膜防水材	0.7
3	PM-5000	超速硬化ポリウレア	2.0
4	SQトップ・ゼロ（露出部のみ）	トップコート	0.2

※新築下地で表面が緻密なコンクリート下地を想定し、プライマーの塗布量は0.15kg～としていますが、吸い込み状況に応じて塗布量を増やします。

※トップコートにオートップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

SPRF工法

〔機械的固定・外断熱工法〕



〈平場〉

SPRF-200

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	断熱材		—
2	(SPLエマルジョン100)	(ランスロックシート仮張り用接着剤)	(0.1 ～)
	ランスロックシート	機械的固定用・通気緩衝シート	—
	DFメッシュテープ	ランスロックシートジョイント処理用テープ	—
	専用アンカー	断熱材・ランスロックシート固定用アンカー	—
3	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
4	SQトップ・ゼロ（高反射色）	トップコート（高反射色）	0.2

SPRF-300

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	断熱材		—
2	(SPLエマルジョン100)	(ランスロックシート仮張り用水系接着剤)	(0.1 ～)
	ランスロックシート	機械的固定用・通気緩衝シート	—
	DFメッシュテープ	ランスロックシートジョイント処理用テープ	—
	専用アンカー	断熱材・ランスロックシート固定用アンカー	—
3	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	3.0
4	SQトップ・ゼロ（高反射色）	トップコート（高反射色）	0.2

※SPLエマルジョン100の使用量は仮張りのための目安量です。必要に応じて増減してください。

※機械的固定工法のため、気象条件等の影響によりシートにシワが発生する場合がありますが、防水機能に問題はありません。

美観を損なわないための対策として、事前に水系接着剤を断熱板に塗布した後、シートの張付けを行う場合があります。

※ランスロックキャンTON等の押え金物上にはプライマー塗布が必要になります。詳しくはP.52の適合表を参照してください。

※トップコートにオートップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

〈立上り〉

SPM-200LF

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ（高反射色）	トップコート（高反射色）	0.2

※新築下地で表面が緻密なコンクリート下地を想定し、プライマーの塗布量は0.15kg～としていますが、吸い込み状況に応じて塗布量を増やします。

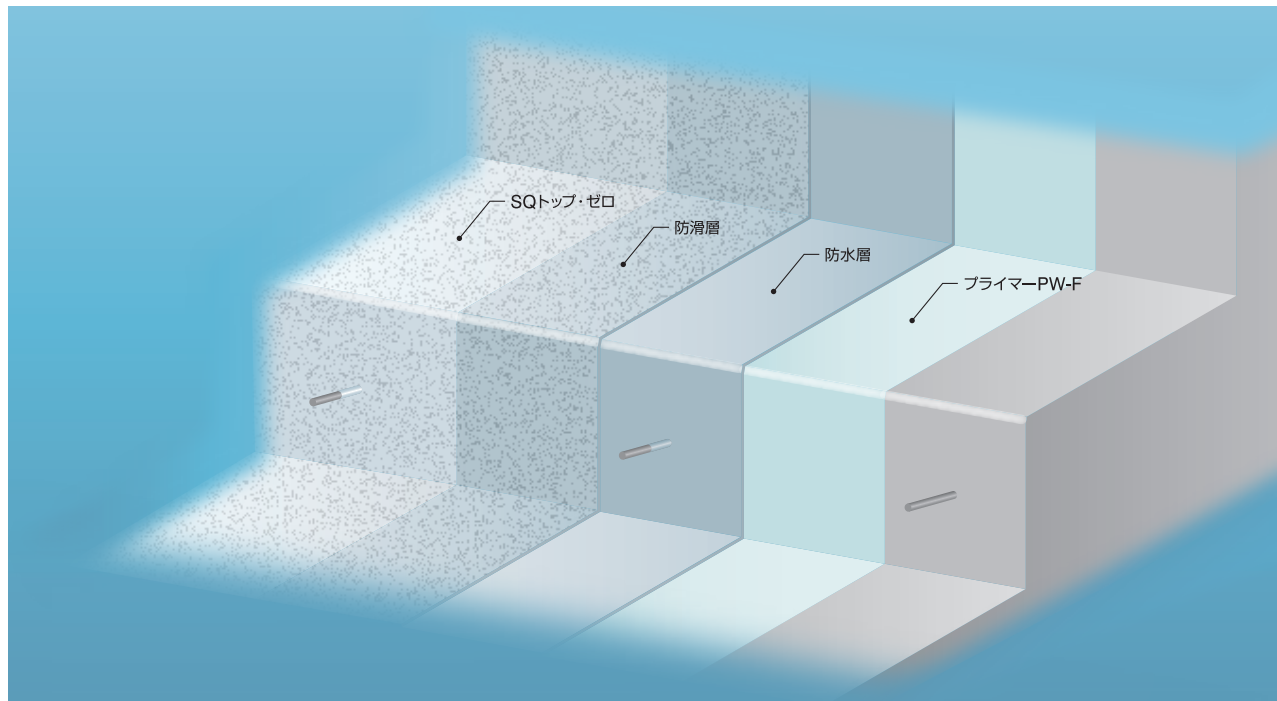
※トップコートにオートップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

- 仕様については予告なく変更することがあります。
- 記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。
- ランスロックキャンTONはTループプレートA型に変更することも可能です。（既存入隅部形状に合わせて選択してください。）

- 仕様については予告なく変更することがあります。
- 記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

SPM-KK工法

[競技場観客席(スタンド)]



SPM-200KK ハイグレード

工程		製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	防水層	ブラマックス450P (ND)	超速硬化ウレタン	2.0
3		ブラマックス450P (ND)	超速硬化ウレタン	0.4 ～
4	防滑層	パワークロンG	骨材	0.3 ～
5		ブラマックス450P (ND)	超速硬化ウレタン	0.4
6	トップコート	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※新築下地で表面が緻密なコンクリート下地を想定し、プライマーの塗布量は0.15kg～としています。吸い込み状況に応じて塗布量を増やします。
※工程3～5を同時に施工する場合があります。
※立上りの防滑層を省略する場合があります。
※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

SPM-200KK スタンダード

工程		製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	防水層	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3		エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	0.4 ～
4	防滑層	パワークロンG	骨材	0.3 ～
5		エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	0.4
6	トップコート	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※新築下地で表面が緻密なコンクリート下地を想定し、プライマーの塗布量は0.15kg～としています。吸い込み状況に応じて塗布量を増やします。
※工程3～5を同時に施工する場合があります。
※立上りの防滑層を省略する場合があります。
※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

超速硬化ウレタンによる地下防水について

漏水対策はもちろん、コンクリート保護の観点から地下構造物への外防水の重要性が指摘されています。超速硬化ウレタンを用いて土木分野で長年実績を重ねている「CVスプレー工法」をご紹介します。



地下構造物への外防水は、躯体内部への水の侵入を防ぐと共に塩分などを含んだ水から躯体を保護するために必要不可欠な工法です。

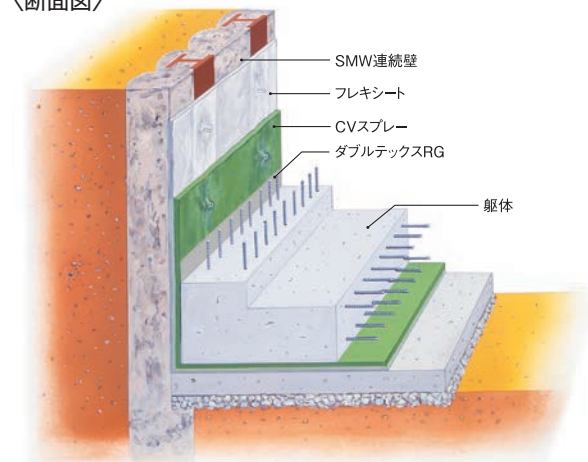
超速硬化スプレーアップシステムによるウレタンゴム成膜技術により、躯体を高い性能で被覆し、信頼性の高い防水効果、保護効果を実現したのがダイフレックスの外防水工法です。

本工法はレジテクト工業会による責任施工です。詳細は営業担当者にご相談ください。

詳しくは「CVスプレー工法」カタログをご覧ください。

CVスプレー工法 先防水施工

〈断面図〉



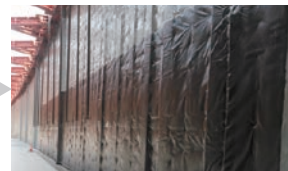
SMW連続壁



フレキシート、CVスプレー塗布



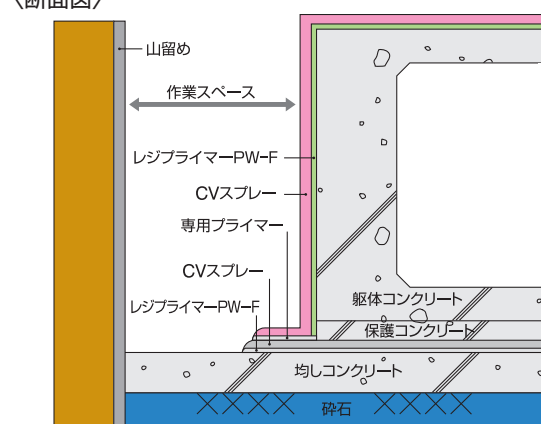
ダブルテックスRG塗布



施工完了

CVスプレー工法 後防水施工

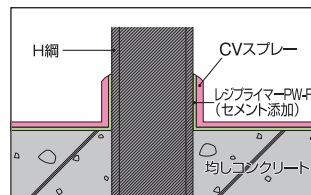
〈断面図〉



プライマー塗布乾燥後、CVスプレーをコンクリートに直接スプレー施工



保護材なしで埋め戻しが可能



H鋼などの複雑な形状にも施工が可能

新築
工法仕様
施工条件と
注意事項

改修
工法仕様
施工条件と
注意事項

製品
ウレタン
塗膜防水材
プライマー/
トップコート
その他
通気緩衝シート
下地/地盤処理材
使用材料一覧
製品取り扱い
注意事項

資料
消防法関連
使用上の
注意事項
メンテナンス
納まり図

新築
工法仕様
施工条件と
注意事項

改修
工法仕様
施工条件と
注意事項

製品
ウレタン
塗膜防水材
プライマー/
トップコート
その他
通気緩衝シート
下地/地盤処理材
使用材料一覧
製品取り扱い
注意事項

資料
消防法関連
使用上の
注意事項
メンテナンス
納まり図

施工条件

■ 防水施工条件【新築】

信頼性の高い防水層を設置するため、防水施工の前に以下の項目について条件が満たされていることをご確認ください。

1. 下地の強度が十分であること。

(1) 現場打ちコンクリートは設計基準強度を満たしていること。

(2) 防水層に悪影響を及ぼさないように配筋上の配慮や調合設計上の工夫、ならびに打設後の養生等の施工管理に注意することでひび割れの発生を少なくし、分散させる。

(3) 降雨中のコンクリート打設、及びコンクリート打設後の降雨等で強度が著しく低下している場合は、ハツリ撤去の上コンクリートを打ち直す等の処置にて強度を復旧させる。
2. 下地の乾燥が十分であること。

(1) 目視にて表面が白く乾燥していることを確認する。

一般的に普通コンクリートで夏季3週間・冬季4週間程度の乾燥養生期間を目安とするが、下地構成（デッキプレートなどの片面乾燥や吸水性の高い下地等）や天候によって大きく左右されるため、防水層の施工に先立ち以下のような方法で十分に乾燥していることを確認する。

(a) 高周波静電容量式水分計を使用した測定。

(b) 不透湿シートで床下地表面を覆い周囲をガムテープ等の張付けで密封状態とし、翌日に内面の結露水の有無を確認する。
3. 表面が平滑であること。

(1) 平表面は金ゴテ押えで平滑とする。また、施工前に床研削機（ポリッシャー等）を用いて全面に研磨を行う。

(2) 浮き・表面剥離・レイタンス等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。

(3) 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。

(4) 特に超速硬化ウレタン・ポリウレアの吹付け面は仕上り（ピンホールの発生等）に影響するため、凹凸や段差を無くす。

(5) 立上りも平場と同様に平滑とし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。

(6) ポリマーセメントを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い接着強度と圧縮強度、また耐溶剤性を有する材料「ダブルテックスNEO」を使用するか、手塗りウレタン塗膜防水材にて下塗り処理を施す。
4. できるだけ速やかに排水させるための処置を施すこと。

(1) 水勾配は1/100 以上とする。

(2) ルーフドレンや排水落し口等はスラブ面より低くし、周囲の水はけを良くしながら堅固に設置する。

(3) ドレンはアスファルト防水用またはシート防水用のツバが幅広タイプのものを使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。

(4) ドレンの排水能力は将来の改修工事を見据えて余裕を持たせた設定が望ましい。またドレン以外にもオーバーフロー管を設置し、ここから雨水が落ちてくることで使用者にドレンの目詰り等の排水機能の低下を知らせる措置が望まれる。
5. 下地表面がよく清掃されていること。

(1) プライマーや接着剤の接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
6. 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。

(1) 防水層に支障が無いひび割れ（概ね1.0mm未満）には手塗りウレタン塗膜防水材（以下：手塗りウレタン）、またはポリウレタン系シーリング材の擦り込みを施すか、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。

但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。

(2) 防水層に支障があるひび割れ（概ね1.0mm以上）や打継ぎにはU カット後ポリウレタン系シーリング材を充填するか、手塗りウレタン＋補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。

但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。

(3) 誘発目地・化粧目地には予めポリウレタン系シーリング材を充填しておき、状況に応じて手塗りウレタン＋補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。

但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
7. 入隅および出隅が適切に処理されていること。

(1) 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。

また出隅および立上りの出隅は通りよく、R面または45度/W＝5mm以上（メーカー推奨値15 ～ 30mm程度）の面取りを施す。
8. 設備基礎関連で適切な雨仕舞いができること。

(1) コンクリート基礎は原則「躯体一体型」とし、防水層の上に載せることは極力避ける。とくに総重量の大きい設備の場合はこれを遵守する。

(2) 総重量および容積が大きい大型設備の基礎架台は、将来の改修工事を見据えて再塗布が可能となるような作業空間（H450mm程度以上、推奨600mm程度以上）を確保することが望ましい。

(3) 表面は平滑とし、不具合部には適切な処置を施す。また天端は雨水が滞留せず、速やかに排水されるように水平ではなく角度を付けることが望ましい。なお入隅および出隅については（7）と同様とする。

(4) アンカー類は原則「先打ち」とし、周囲に幅・深さ10mm程度の「盗み」をとっておく。

(5) 基礎ブロックの下やC チャン（リップ溝形鋼）・H鋼等と防水層が取合う部分には防振ゴム（t＝5mm／先端から10mm以上の余剰分を確保）を設置する。また防水層の巻上げ（天端よりH＝15mm以上）を確保する。
9. 金物関連の取合いで適切な雨仕舞いができること。

(1) H 型钢や角形鋼管を垂直に設置する場合はベースプレートで完全に固定し、ボルトにはキャップとポリウレタン系シーリング材充填を施す。

(2) 丸カン・手摺支柱足元等は周囲に幅・深さ10mm程度の「盗み」をとって、予めポリウレタン系シーリング材を充填しておく。

また防水層の巻上げ（H＝15mm以上）を確保する。

(3) ウレタン塗膜防水材が掛かる部分は目荒し研磨（サンドペーパー #100程度またはサンダー掛け）を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融亜鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入念に行う。
10. 配管および配線が防水施工に支障が無いこと。

(1) 防水層上での配管および配線の設置は防水施工の後とするか、または施工に支障が無い段階での工事とする。

また将来の改修工事を見据えて、再塗布が可能となるような措置（高さの確保、または吊上げが可能な形状と荷重）をとることが望ましい。

(2) 防水層を貫通する配管や配線は可能な限り避けること。止むを得ず設置する場合は防水施工に支障が無い位置とし、スリーブを使用してさらに手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）＋補強布による補強張り、または超速硬化ウレタン・ポリウレアによる塗掛けの確保を100mm以上（推奨値）を施す。

なお、スリーブはグラツキが無いように完全に固定する。

11. 吹付け施工ができる環境が整っていること。

(1) ホースの全長（およそ60 ～ 90m）に見合った位置にシステム車両と材料（ドラム缶）が設置できる場所を確保する。

(2) 仮設足場は屋根の床面から1,800mm以上の高さを確保する。

(3) 空調設備・換気設備は吹付け施工中は運転を停止し、吸気口等からの超速硬化ウレタン・ポリウレアの室内への流入を防止する。
12. PCa下地および ALC 下地の場合は、以下の通りとする。

(1) 水勾配は躯体でとり、部材は固定を十分に行いジョイントに生じるムーブメントを可能な限り抑えること。

(2) 接合部の目違い・段差は、なだらかになるようにサンディングまたはポリマーセメントを塗布する。

また目地部についても空隙無く平坦になるように充填する。

(3) 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は、絶縁テープ（FJテープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）＋補強布による補強張りにて絶縁処理、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。

(4) 表面はポリマーセメントで平滑に仕上げる。その際使用する材料は3-（6）と同様のものとする。

■ 各工法施工上および仕上りに関する注意事項

〈 共通事項（施工） 〉

- ウレタンおよびプライマー・トップコートの施工中、または硬化養生中に降雨・夜露等の水分にさらされる可能性がある場合は施工を控えてください。とくに水系材料は気温によって硬化時間が大きく左右されるため、注意してください。
- 溶剤系材料のうち、一部屋内の使用においては特定化学物質障害予防規則の対象となります。その場合は、同規則に従い特定化学物質作業主任者を選任するなど法令順守をお願いします。
- 下地に応じて適切なプライマーを選定してください。
- プライマー塗布時、下地への吸い込みが多い場合は再塗布してください。
- 使用する材料は必ず保存期間内のものをご使用ください。
- 材料の扱いに際してはSDS（安全データシート）やPDS（プロダクトデータシートをよく読み、適切な扱いを行ってください）。
- 材料は直射日光や風雨に晒される場所を避け、冷暗所にて貯蔵・保管してください。
- 材料の貯蔵・保管場所へは作業者以外の立入りを禁止し、また転倒防止や火気厳禁等の安全対策を講じてください。
- 産業廃棄物（廃材・廃液）は適切に処理してください。
- 外断熱工法の施工の場合、施工現場が湖沼や河川の近くである場合、また夜間の気温が下がる時季は結露が生じることが多くなります。特にトップコートの「艶引け（乾燥硬化前に水分の影響による現象）」を避けるため、午後からの塗布作業には十分注意してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には、スプレーシステム内（シリンダーポンプおよびホース）に残っている異なる種類の材料や古い材料の入替えを必ず行ってください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず飛散対策養生を施してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず設定温度まで加温して適正な粘度に調整してください
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず一斗缶またはペール缶等の中に試し吹きを行い「適正な吹付け圧力である」こと、「液漏れ・硬化不良が無い」ことを確認し、吹付け施工中はA剤とB剤の吹付け圧力差が1MPa以内であることを確認してください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアは希釈せず、そのままでご使用ください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアの吹付け施工後は、当日のうちにトップコートを塗布するようにしてください。
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアおよび手塗りウレタンの塗布後に降雨・降雪または夜露等の水気さらされた場合や、塗継ぎ・増塗りおよびトップコートの塗布が翌日以降になる場合は、次工程で塗布する材料との接着力低下を防止するために表面を良く清掃し、層間プライマーの塗布を行ってください。
- 風通しの悪い場所で施工する場合は防毒マスクの着用や換気装置の設置を行い、十分な安全対策を講じるとともに、材料の硬化状況にもご注意ください。
- 2成分形タイプの製品は、必ず主剤と硬化剤の組合せを守ってください、不具合の原因となります。
- 2成分形タイプの材料攪拌（超速硬化ウレタン・ポリウレアを除く）は、規定の配合比を守り攪拌機で行ってください。

なお攪拌機はモーターの出力が大きく、かつ回転の遅いものを使用してください。回転が速いと気泡を巻き込み、ピンホールの発生や仕上りを悪くすることになります。
- 手塗りウレタン塗膜防水材を希釈する場合は、専用の希釈剤を規定量を守ってご使用ください。
- 冬季などで手塗りウレタン塗膜防水材の硬化を早める場合には、必ず専用の硬化促進剤を規定量を守ってご使用ください。
- 脱気装置を設置する際は、原則水上に設置してください。また脱気装置は金属製であるため、避雷導線は1.5m以上離して設置してください。
- アンカー類の穿孔は所定の穿孔径・穿孔深さを守り、垂直になるよう行ってください。また孔内および周辺の切粉は必ず除去してください。
- 小分けする場合は、必ずプレミキシングを行ってください。

〈 共通事項（仕上り） 〉

- 超速硬化ウレタン・ポリウレアは「エンボツ仕上げ」となります。
- 下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。

吹付け直後に短時間で指触乾燥・硬化する超速硬化ウレタン・ポリウレアは、下地凹凸やシートジョイントまたテープ類の端部等の形状をトレースしやすい傾向にあります。
- 外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
- 高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーフバルコニー等の居室付近での塗布は避けてください。
- 粗面仕上げにする場合は「粗面仕上材」「エストップ＃20」「エストップ＃40」のいずれかを添加してください。

但しいずれも防滑性能を保証するものではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- 現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
- 各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
- 各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。

新築
工法仕様
注意事項
施工条件と

改修
工法仕様
注意事項
施工条件と

製品
ウレタン塗膜防水材
プライマー／トップコート
通気緩衝シート／その他
ドレン脱脂膜／下地目地処理材
使用材料一覧
製品取り扱い
注意事項

資料
消防法関連
使用上の注意事項
メンテナンス保証
納まり図

新築
工法仕様
注意事項
施工条件と

改修
工法仕様
注意事項
施工条件と

製品
ウレタン塗膜防水材
プライマー／トップコート
通気緩衝シート／その他
ドレン脱脂膜／下地目地処理材
使用材料一覧
製品取り扱い
注意事項

資料
消防法関連
使用上の注意事項
メンテナンス保証
納まり図

新築	
工法仕様	
施工案件と 注意事項	
改修	
工法仕様	
施工案件と 注意事項	
製品	
ウレタン 塗膜防水材	
プライマー／ トップコート	
その他 通気緩衝シート	
下地／ 断熱材	
使用材料一覧	
製品取り扱い 注意事項	
資料	
消防法関連	
使用上の 注意事項	
メンテナンス 保証	
納まり図	

＜ 機械的固定工法 ＞ P.18

- 下地状況や既存防水層の厚み等により、使用するアンカーの長さを選定してください。
- ALC下地の場合はエポキシ樹脂等を使用するなど、必ず強度を出すようにしてください。
- ランスロックシートは強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- シートやテープが皺にならないように注意してください。
- 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃えると、超速硬化ウレタン・ポリウレア吹付け後に破断することがありますので、500mm以上ずらしてください。
- 穿孔後の切粉はウレタン塗膜防水層との接着不良を起こす原因となりますので、掃除機等で必ず吸い取って除去してください。
- アンカーの固定強度だけでは不十分な箇所は、必要に応じてボンドを併用してシートを固定してください。
- ハードエッジドライブの施工時に過剰な締め付けをしないでください。必要以上に締め付けるとネジの折れや頭飛びをする恐れがあります。またインパクトドライバーの最大トルク値は、ハードエッジドライブのねじり破断トルク値よりはるかに高いため“強力型”は用いず、トルク値には十分注意しながら低回転で ゆっくりと施工してください。
- ランスロックキャントNやTルーフプレートA型は既存入隅部形状に合わせて選択してください。
ランスロックキャントNやTルーフプレートA型は夏場の熱による膨張を加味し、隙間をつくって取り付けてください。
(夏施工時：隙間1mm、冬施工時：隙間2mm)
- 機械的固定工法は全面接着と異なり、柔軟性の高い防水層をアンカーを用いて部分的に躯体コンクリートに連結する工法です。したがって防水層の表面にシワや段差が発生する場合があります。これは「膨れ」とは異なるため防水機能上に問題はありません。



シワの発生



断熱材の段差

改 修

For
improvement
and
repair

1 「漏水」「納まり不良」「防水層の裏側への雨水の浸入」… 『かぶせ改修』の実施で既存防水層に依存せず、問題点を解決。

至急改修

漏水（雨漏り／室内への雨水の浸入）が発生している場合はもちろん、近い将来漏水に繋がるような不具合が見られたら、早期に改修することが必要です。



アスファルト防水・押え仕様
(立上り防水層の破断)



露出アスファルト防水
(平場防水層の著しい膨れ)



シート防水
(シートジョイントの破断)



シート防水
(端末金物の不具合)

改修検討

漏水が発生していなかったり、現在の防水層に不具合が見られない場合でも要注意です。下のような経年劣化の症状を見つけたら、それは現在の防水層が寿命を迎え改修時期が迫っているサインです。



アスファルト防水・押え仕様
(保護層伸縮目地の突出)



露出アスファルト防水
(トップコートの消失)

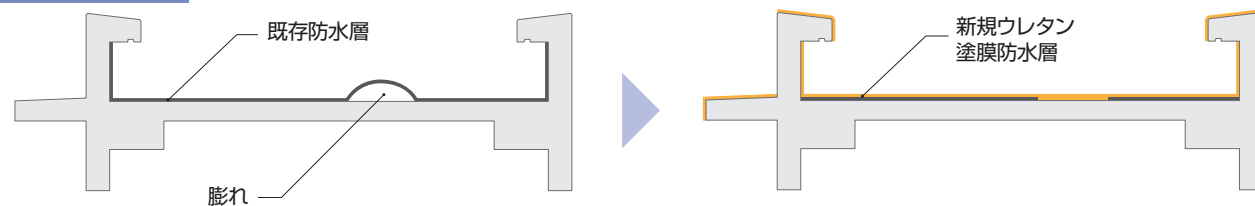


露出アスファルト防水
(植物の繁茂・コケの発生)



ウレタン塗膜防水
(トップコートの消失)

かぶせ改修



既存防水層の立上りおよび不良部(著しい膨れ等)を撤去し、床面の大部分を残した状態で上から新規ウレタン塗膜防水層を設置します。この時、既存防水層の防水機能はほとんど効力が無いため、全面にウレタン塗膜防水層を設置することが必要です。

2 “防水機能の改善” だけではない。 超速硬化ウレタンによる改修で“新たな付加価値”を。

■ [既存] 塗料仕上げ



■ [既存] 防水モルタル仕上げ



■ [既存] 露出アスファルト防水



■ [既存] アスファルト防水 押えコンクリート仕様



■ [改修仕様] SPM-200SK (仕様の詳細はP.27 ▶)



- ①防水機能の改善
- ②吸音効果
- ③遮熱効果
- ④次回改修の省力化

■ [改修仕様] SPM-200KR (仕様の詳細はP.31 ▶)



- ①防水機能の改善
- ②吸音効果
- ③美観の向上
- ④次回改修の省力化

■ [改修仕様] SPR-200 (仕様の詳細はP.38 ▶)



- ①防水機能の改善
- ②メンテナンス性の向上
- ③次回改修の省力化

■ [改修仕様] SPX-1 (仕様の詳細はP.41 ▶)

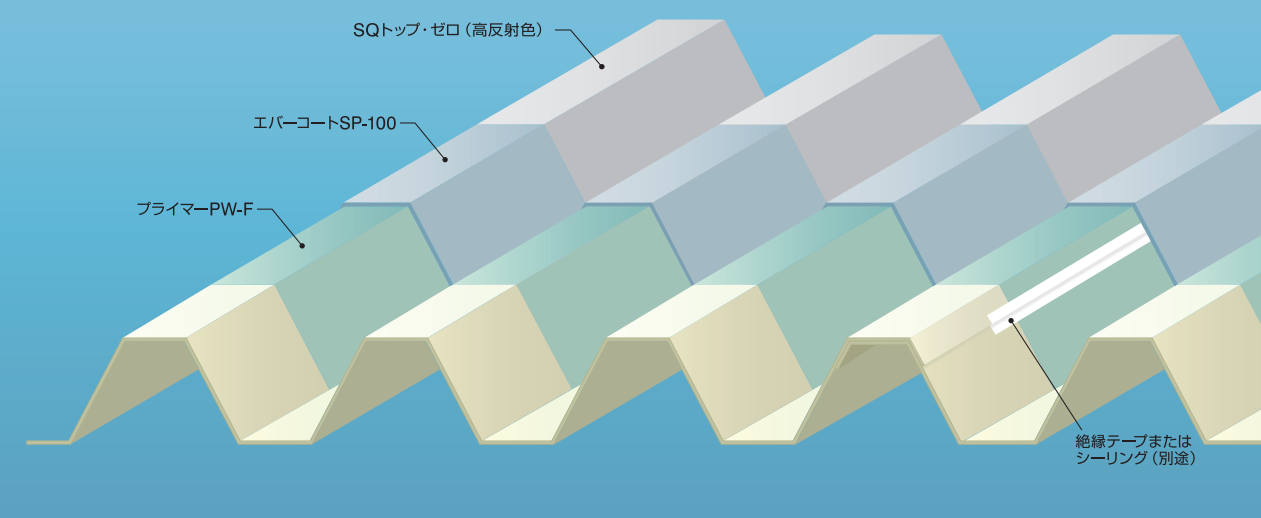


- ①防水機能の改善
- ②メンテナンス性の向上
- ③次回改修の省力化

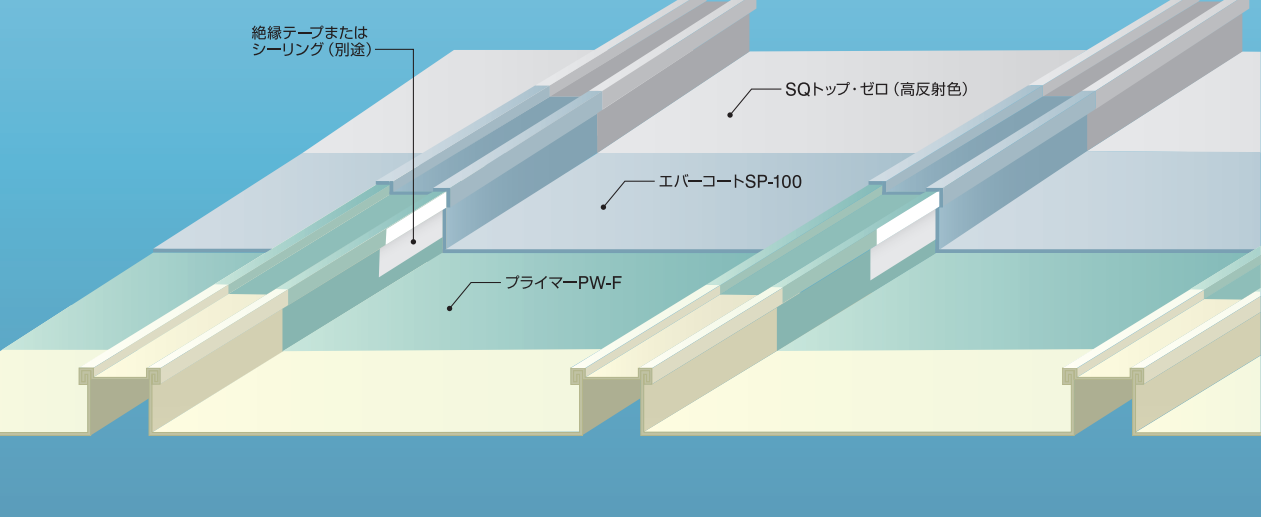
SPM-SK工法

[金属屋根・スレート屋根]

〈折板屋根〉



〈瓦棒屋根〉



SPM-200SK

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	金属下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ (高反射色)	トップコート (高反射色)	0.2

SPM-160SK

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	金属下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	1.6
3	SQトップ・ゼロ (高反射色)	トップコート (高反射色)	0.2

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

〈施工事例〉



特 長

- 1 極めて短い時間で硬化する特性により勾配・傾斜部や複雑な形状においても膜厚が確保できます。また塗膜防水特有の、細部の納まりに優れた防水層を形成できます。
- 2 塗料と比べはるかに厚みのあるウレタン塗膜防水層を全面に被覆させるため、優れた水密性を有し金属板の腐食防止効果が得られます。また長期にわたり高い耐久性を保持します。
- 3 強靱なゴム弾性塗膜により、金属の熱膨張に対しても充分な追従性を発揮します。また降雨時に生じる音の吸音効果も得られます。
- 4 表層仕上げ材は各種トップコート高反射色を塗布するため、ウレタン塗膜防水表面の温度上昇の抑制効果が得られます。

注意事項

防水工事前に、空隙処理および破断防止のため以下の事前処理を行ってください。

- 1 ハゼ部等金属板接合部
 - ①絶縁テープを張る
 - ②シーリング材で覆う
- 2 ボルト廻り
 - ①アンカー先端の余剰分を切断し、シーリング材で覆う
 - ②キャップ (樹脂製カバー) を被せる



新 築

工 法 仕 様

施 工 案 件 と
注 意 事 項

改 修

工 法 仕 様

施 工 案 件 と
注 意 事 項

製 品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー
トップコート
その他

通気緩衝シート

ドレン脱装機
下地処理処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資 料

消防関連

使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

新 築

工 法 仕 様

施 工 案 件 と
注 意 事 項

改 修

工 法 仕 様

施 工 案 件 と
注 意 事 項

製 品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー
トップコート
その他

通気緩衝シート

ドレン脱装機
下地処理処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資 料

消防関連

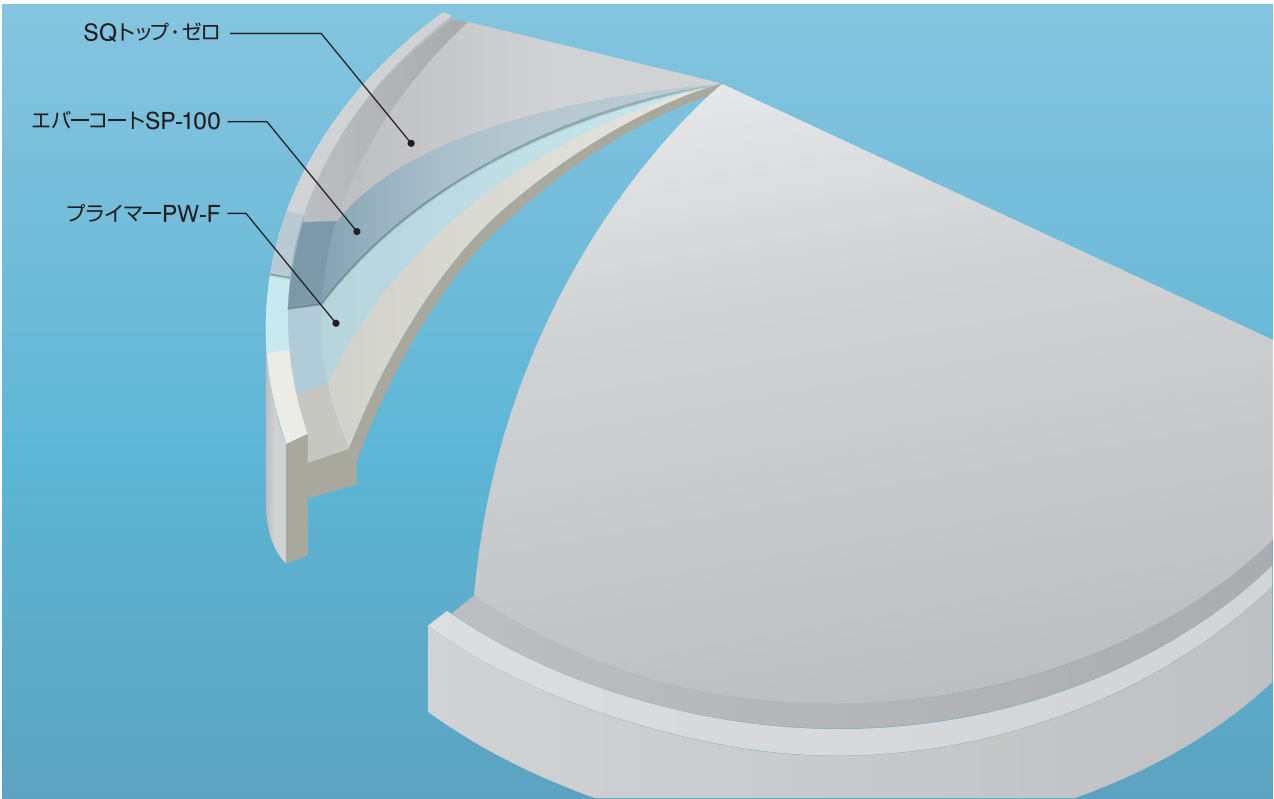
使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

SPM-KY工法

[ドーム形状屋根・その他勾配屋根]



SPM-200KY

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート・金属下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

SPM-160KY

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート・金属下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	1.6
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※トップコートにオートップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

※金属下地の場合、トップコートは高反射色を選定します。

〈施工事例〉

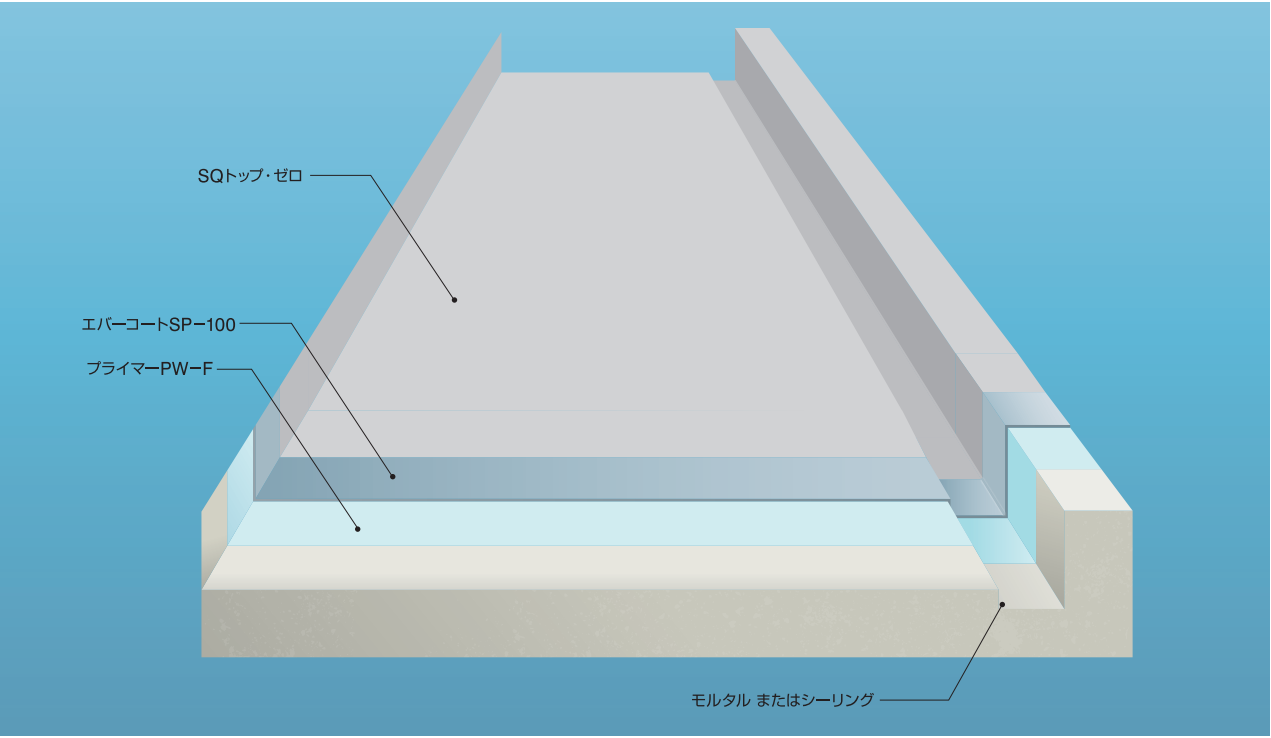


特 長

- 1 極めて短い時間で硬化する特性により勾配・傾斜部や複雑な形状においても膜厚が確保できます。また塗膜防水特有の、細部の納まりに優れた防水層を形成できます。
- 2 塗料と比べはるかに厚みのあるウレタン塗膜防水層を全面に被覆させるため、優れた水密性を有しており、また長期にわたり高い耐久性を保持します。
- 3 強靱なゴム弾性塗膜により、充分な下地追従性能を発揮します。
- 4 表層仕上げ材は各種トップコートから選択可能で、カラーバリエーションも豊富です。

SPM-KR / IY工法

[開放廊下 / 一般床]



SPM-200KR

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

SPM-160KR

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	1.6
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

SPM-200IY

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	オープライマー	コンクリート下地用水系プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0

SPM-160IY

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	オープライマー	コンクリート下地用水系プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	1.6

※「IY工法」の施工部位で太陽光の当る箇所については変色対策としてトップコートを塗布します。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

〈施工事例〉



特 長

- 1 超速硬化ウレタンの特性である「短時間での硬化」を活かし、開放廊下や外部階段等の共用部の施工においては工事期間中の閉鎖時間を短縮でき、住環境に与える影響の少ない改修が可能です。
- 2 塗料と比べはるかに厚みのあるウレタン塗膜防水層を、複雑な形状の下地に対しても全面に被覆させるため優れた水密性を有しており、また長期にわたり高い耐久性を保持します。
- 3 強靱なゴム弾性塗膜により、充分な下地追従性能を発揮します。
また歩行時に生じる音の響きに対する吸音効果も期待できます。
- 4 表層仕上げ材は各種トップコートから選択可能で、カラーバリエーションも豊富です。

新築

工法仕様

施工条件と
注意事項

改修

工法仕様

施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー／
トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン脱装機
下地目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消防法関連

使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

新築

工法仕様

施工条件と
注意事項

改修

工法仕様

施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー／
トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン脱装機
下地目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消防法関連

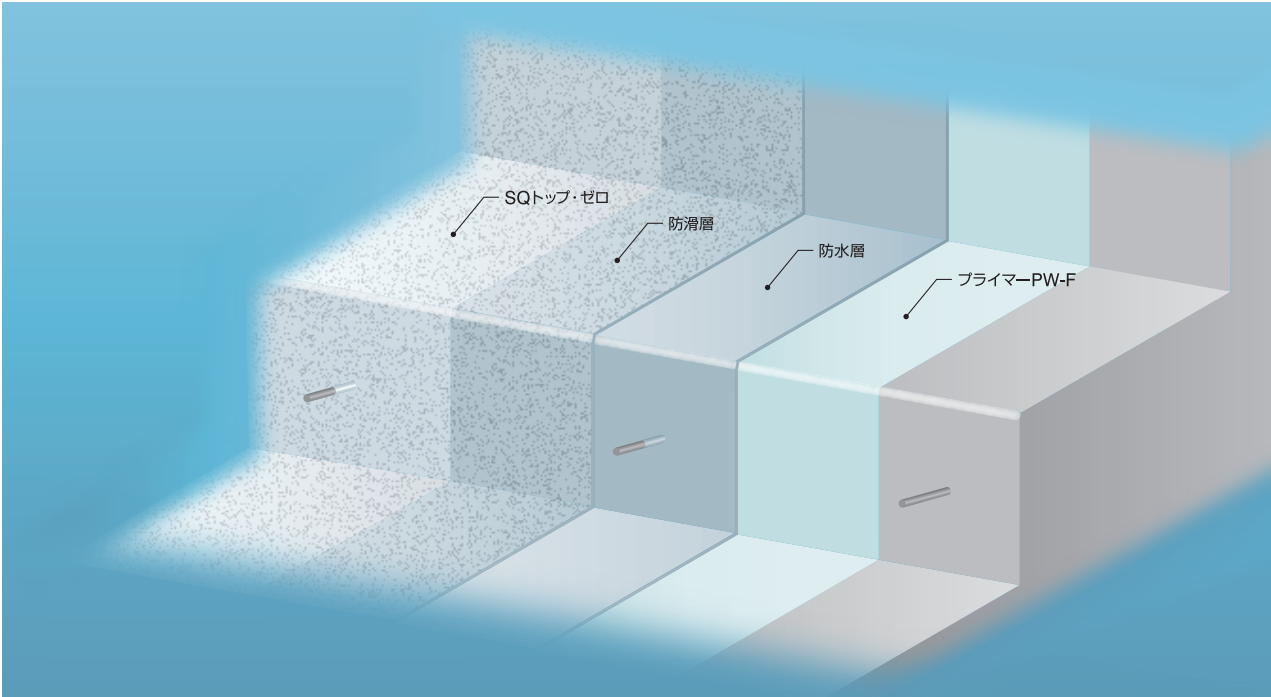
使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

SPM-KK工法

[競技場観客席(スタンド)]



SPM-200KK ハイグレード

工程	製品名称		概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	防水層	ブラマックス450P (ND)	超速硬化ウレタン	2.0
3	防滑層	ブラマックス450P (ND)	超速硬化ウレタン	0.4 ～
4		パワークロンG	骨材	0.3 ～
5		ブラマックス450P (ND)	超速硬化ウレタン	0.4
6	トップコート	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※工程3 ～ 5を同時に施工する場合があります。

※立上りの防滑層を省略する場合があります。

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

SPM-200KK スタンダード

工程	製品名称		概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー	プライマー PW-F	コンクリート下地用プライマー	0.15 ～
2	防水層	エバーコート SP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	防滑層	エバーコート SP-100	超速硬化ウレタン	0.4 ～
4		パワークロンG	骨材	0.3 ～
5		エバーコート SP-100	超速硬化ウレタン	0.4
6	トップコート	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※工程3 ～ 5を同時に施工する場合があります。

※立上りの防滑層を省略する場合があります。

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

〈施工事例〉



特 長

- 1 極めて短い時間で硬化する特性により勾配・傾斜部や複雑な形状においても膜厚が確保できます。
また塗膜防水特有の、細部の納まりに優れた防水層を形成できます。
- 2 大規模面積においても、専用施工システムに完全管理された均一かつ高い品質の防水層の形成を実現します。
- 3 優れた塗膜物性を持つ超速硬化ウレタンを使用しているため、下地挙動に対する追従性能と耐摩耗性を有しています。

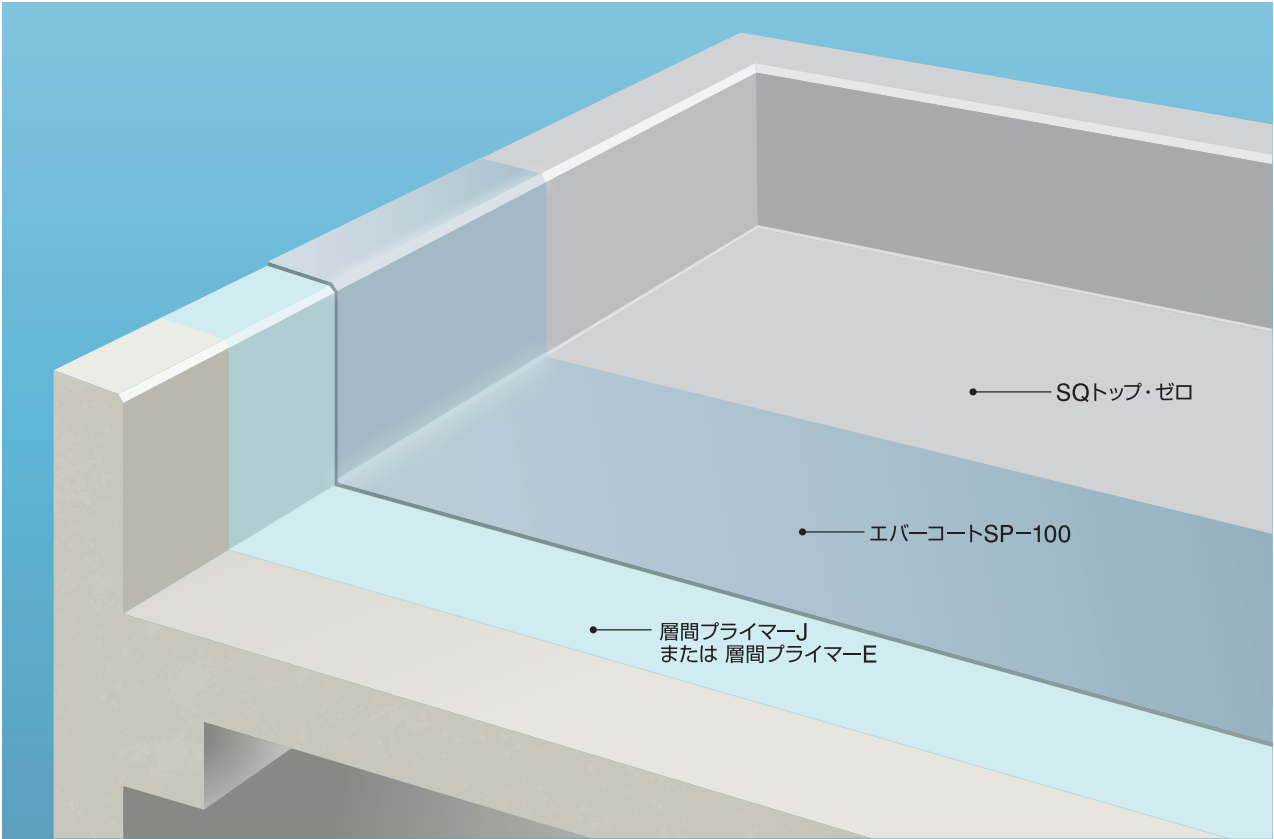
注意事項

PCa構造の場合、防水工事の前に空隙処理および破断防止のためジョイント部等に絶縁テープを張り付け、周囲にウレタン塗膜防水の増し塗りを行います。



SPOR工法

[オーバーレイ(ウレタン塗重ね)工法]



SPOR-200

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	層間プライマーJ、または 層間プライマーE	ウレタン塗膜防水下地用プライマー	0.1 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。
※既存防水層が露出外断熱工法の場合、SQトップ・ゼロ（高反射色）を使用してください。

〈施工事例〉



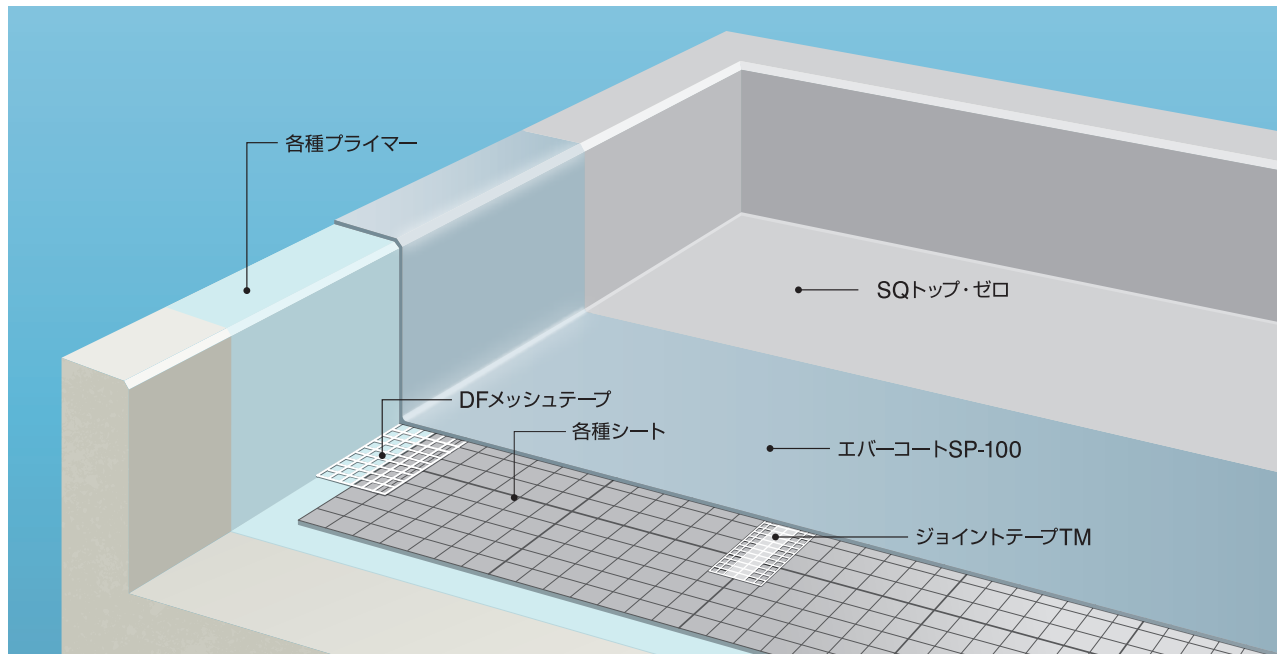
特 長

- 1 既存ウレタン塗膜防水の塗重ねによる「オーバーレイ改修」は、既存防水層と同種類の材質で行うため最も相性の良い改修方法です。
- 2 極めて短い時間で硬化する特性により勾配・傾斜部や複雑な形状においても膜厚が確保できます。
- 3 既存露出防水層の撤去を最小限に抑えるため、撤去費用の削減・工期の短縮・廃棄物の低減が図れます。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

SPT工法

[通気緩衝工法]



〈平場〉

SPT-200

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	各種プライマー	プライマー	0.15 ～
2	各種シート	通気緩衝シート	—
	ジョイントテープTM	シートジョイント処理用テープ	—
	DFメッシュテープ	シート端部処理用テープ	—
3	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
4	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

SPT-300

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	各種プライマー	プライマー	0.15 ～
2	各種シート	通気緩衝シート	—
	ジョイントテープTM	シートジョイント処理用テープ	—
	DFメッシュテープ	シート端部処理用テープ	—
3	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	3.0
4	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

〈立上り〉

SPM-200L

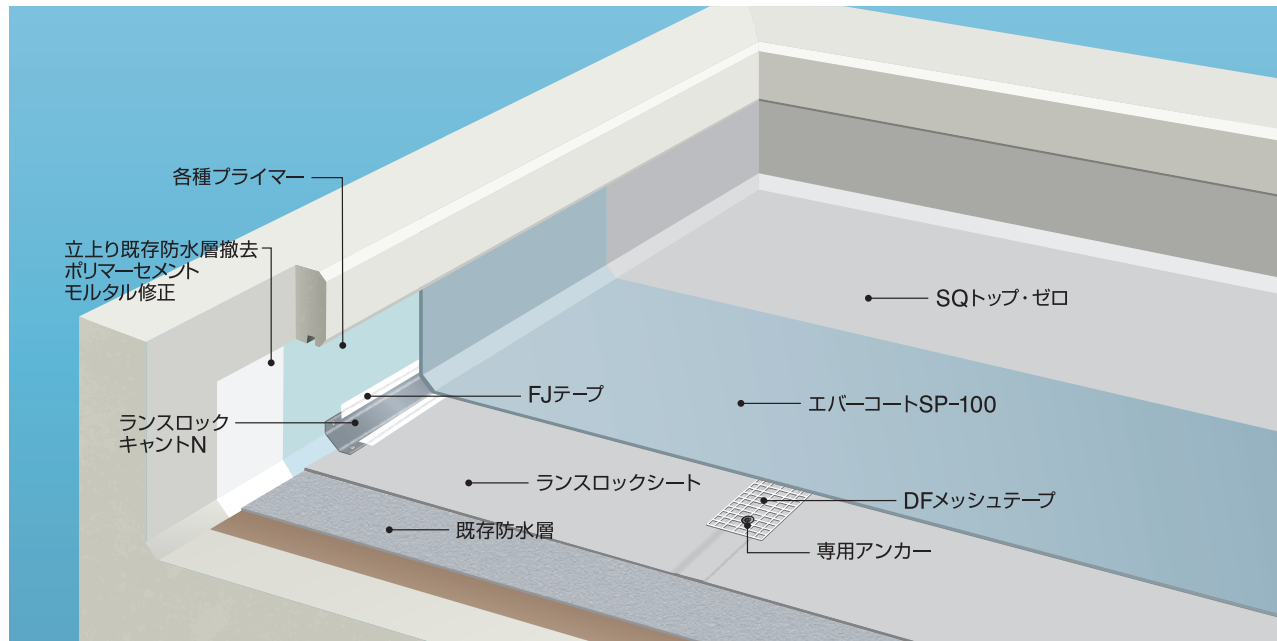
工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	各種プライマー	プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

SPR工法

[機械的固定工法]



〈平場〉

SPR-200

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	(ランスロックシート仮張り用接着剤)	—	(0.1 ～)
	ランスロックシート	機械的固定用・通気緩衝シート	—
	DFメッシュテープ	ランスロックシートジョイント処理用テープ	—
	専用アンカー	ランスロックシート固定用アンカー	—
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

SPR-300

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	(ランスロックシート仮張り用接着剤)	—	(0.1 ～)
	ランスロックシート	機械的固定用・通気緩衝シート	—
	DFメッシュテープ	ランスロックシートジョイント処理用テープ	—
	専用アンカー	ランスロックシート固定用アンカー	—
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	3.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※ランスロックシート仮張り用接着剤の使用量は仮張りのための目安量です。必要に応じて増減してください。

※機械的固定工法のため、気象条件等の影響によりシートにシワが発生する場合がありますが、防水機能に問題はありません。

美観を損なわないための対策として、事前に接着剤を下地に塗布した後、シートの張付けを行う場合があります。

※ランスロックキャントN等の押え金物上にはプライマー塗布が必要になります。詳しくはP.52の適合表を参照してください。

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

※既存防水層が露出外断熱工法の場合、SQトップ・ゼロ（高反射色）を使用してください。

〈立上り〉

SPM-200L

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	各種プライマー	プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

※既存防水層が露出外断熱工法の場合、SQトップ・ゼロ（高反射色）を使用してください。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。
・ランスロックキャントNはTルーブプレートA型に変更することも可能です。（既存入隅部形状に合わせて選択してください。）

新築

工法仕様
施工条件と
注意事項

改修

工法仕様
施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー／
トップコート／
その他

通気緩衝シート
その他

ドレン脱装機
下地・地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消防関連

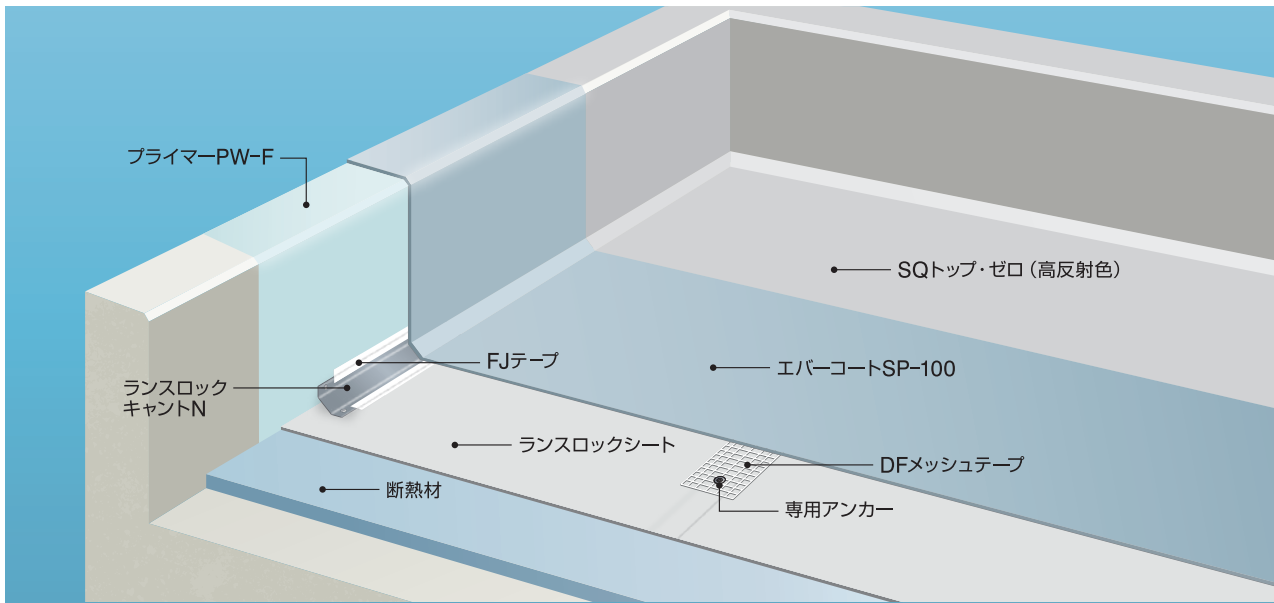
使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

SPRF工法

[機械的固定・外断熱工法]



〈平場〉

SPRF-200

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	断熱材		—
2	(SPLエマルジョン100)	(ランスロックシート仮張り用水系接着剤)	(0.1 ～)
	ランスロックシート	機械的固定用・通気緩衝シート	—
	DFメッシュテープ	ランスロックシートジョイント処理用テープ	—
	専用アンカー	断熱材・ランスロックシート固定用アンカー	—
3	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
4	SQトップ・ゼロ (高反射色)	トップコート (高反射色)	0.2

SPRF-300

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	断熱材		—
2	(SPLエマルジョン100)	(ランスロックシート仮張り用水系接着剤)	(0.1 ～)
	ランスロックシート	機械的固定用・通気緩衝シート	—
	DFメッシュテープ	ランスロックシートジョイント処理用テープ	—
	専用アンカー	断熱材・ランスロックシート固定用アンカー	—
3	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	3.0
4	SQトップ・ゼロ (高反射色)	トップコート (高反射色)	0.2

※SPLエマルジョン100の使用量は仮張りのための目安量です。必要に応じて増減してください。

※機械的固定工法のため、気象条件等の影響によりシートにシワが発生する場合がありますが、防水機能に問題はありません。
美観を損なわないための対策として、事前に水系接着剤を断熱材に塗布した後、シートの張付けを行う場合があります。

※ランスロックキャントN等の押え金物上にはプライマー塗布が必要になります。詳しくはP.52の適合表を参照してください。

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

〈立上り〉

SPM-200LF

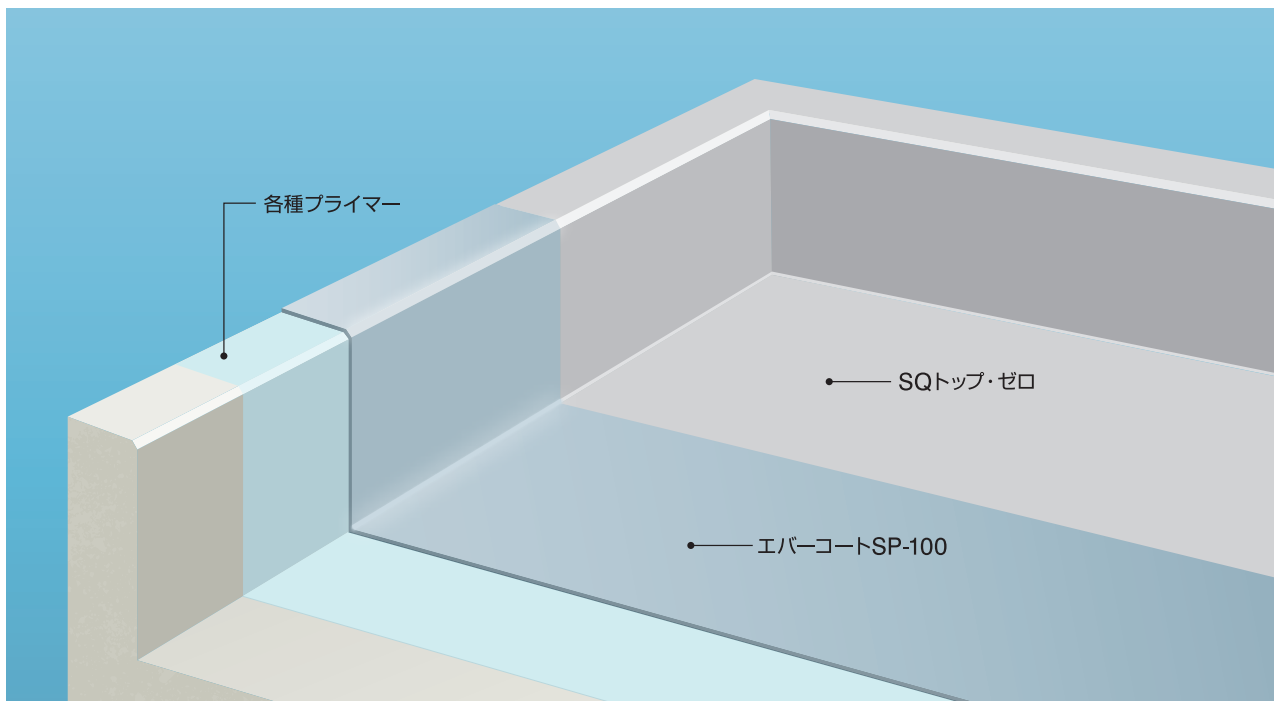
工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	プライマー PW-F	プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ (高反射色)	トップコート (高反射色)	0.2

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。
・ランスロックキャントNはTルーフプレートA型に変更することも可能です。(既存入隅部形状に合わせて選択してください。)

SPM工法

[密着工法]



〈平場〉

SPM-200

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	各種プライマー	プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

SPM-300

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	各種プライマー	プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	3.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

〈立上り〉

SPM-200L

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/㎡)
1	各種プライマー	プライマー	0.15 ～
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※トップコートにオートトップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

・仕様については予告なく変更することがあります。 ・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

新築

工法仕様
施工条件と
注意事項

改修

工法仕様
施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー／
トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン脱装機
下地目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消防法関連

使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

新築

工法仕様
施工条件と
注意事項

改修

工法仕様
施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー／
トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン脱装機
下地目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消防法関連

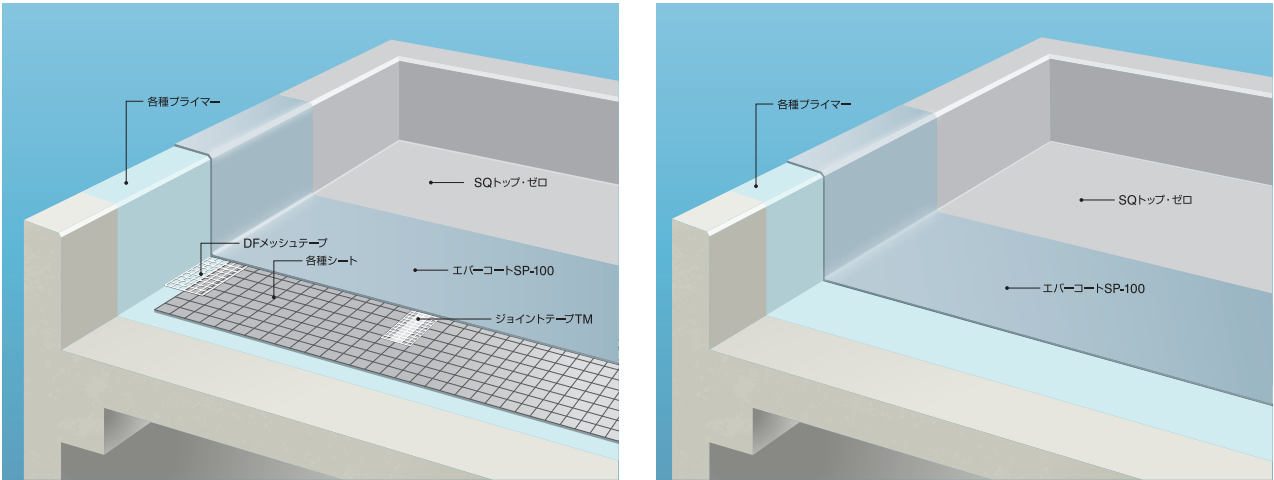
使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

公共建築工事標準仕様

公共建築改修工事標準仕様書（令和7年版）



種別	X-1H（絶縁工法）		X-2H（密着工法）	
	材料・工法	使用量 (kg/m ²)	材料・工法	使用量 (kg/m ²)
1	接着剤塗り 通気緩衝シート張り ^{注)1}	0.3	プライマー塗り	— ^{注)7}
2	ウレタンゴム系高強度形 防水材吹付け ^{注)5}	3.0 ^{注)3}	ウレタンゴム系高強度形 防水材吹付け ^{注)5}	3.0 ^{注)3} (2.0) ^{注)4}
3	仕上塗料塗り ^{注)6}	—	仕上塗料塗り ^{注)6}	—

注) 1. 接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。
2. L4X 工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程 1 を省略する。
3. 表中のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が 1.0 である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
4. 立上り部は全て、種別 X-2H とし、工程 2 のウレタンゴム系塗膜防水材の塗布量を（ ）内とする。
5. 吹付け作業が困難な部位の工法は、主材料の製造所の仕様による。
6. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は主材料の製造所の仕様による。
7. 使用量は主材料の製造所の仕様による。

〈平場〉

SPX-1（公共建築改修工事標準仕様書「X-1H」対応）

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/m ²)
1	各種プライマー	プライマー	0.2
2	各種シート	通気緩衝シート	—
	ジョイントテープTM	シートジョイント処理用テープ	—
	DFメッシュテープ	シート端部処理用テープ	—
3	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	3.0
4	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

SPX-2（公共建築改修工事標準仕様書「X-2H」対応）

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/m ²)
1	各種プライマー	プライマー	0.2
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	3.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※新築下地のコンクリートで表面が緻密な場合、0.15kg～m²の塗布量となることがあります。
※トップコートにオートップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

〈立上り〉

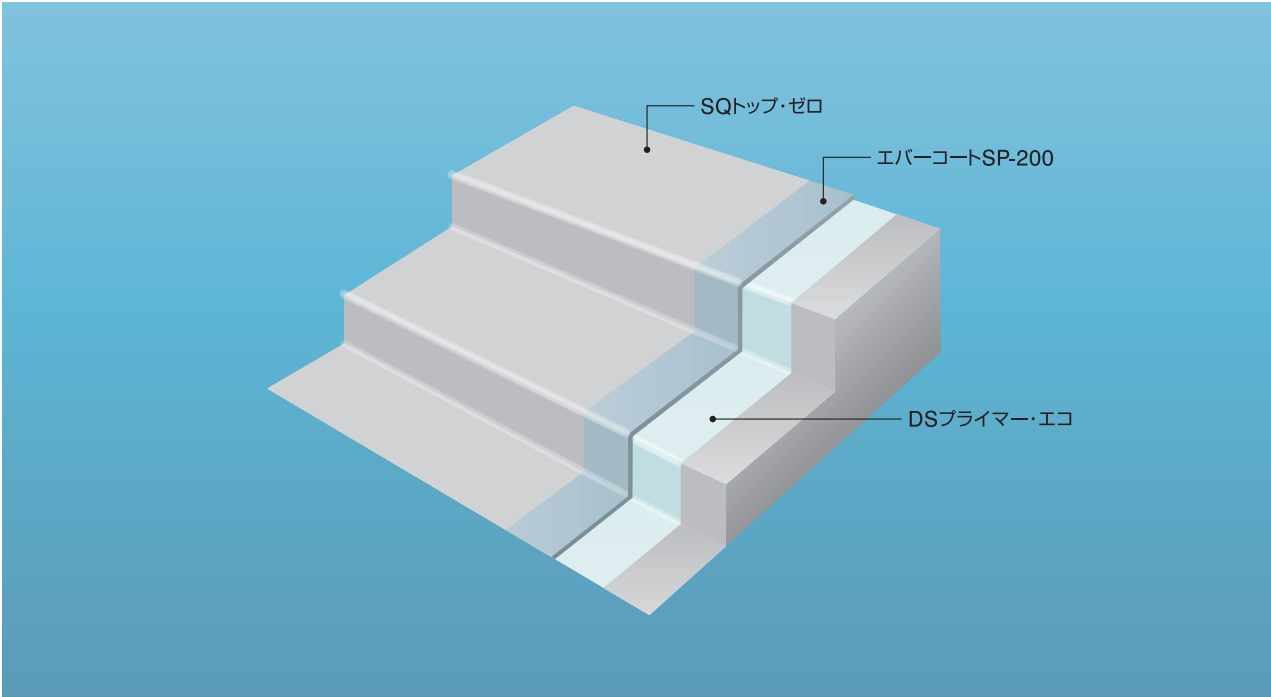
SPX-2L（公共建築改修工事標準仕様書「X-2H」対応）

工程	製品名称	概要	使用量 (kg/m ²)
1	各種プライマー	プライマー	0.2
2	エバーコートSP-100	超速硬化ウレタン	2.0
3	SQトップ・ゼロ	トップコート	0.2

※新築下地のコンクリートで表面が緻密な場合、0.15kg～m²の塗布量となることがあります。
※トップコートにオートップ・ワンまたはHGコート仕上げを選定する場合、工程と塗布量が異なります。

独立行政法人都市再生機構仕様

【階段室床防水】



SURM-150

工程	製品名称	概要	使用量 (kg／㎡)
1	DSプライマー・エコ	弱溶剤系プライマー	0.2
2	エバーコートSP-200	超速硬化ウレタン	1.5
3	SQトップ・ゼロ	弱溶剤系速乾型トップコート	0.15

施工条件

■ 防水施工条件【改修】

改修工事の場合は既設防水層の種類や劣化状況、および撤去の有無、また新設の防水仕様の種別によって下地処理の内容が異なります。
以下の項目をご参考に、現場に即した適切な処置を行ってください。

- 下地の乾燥が十分であること。
 - 新設する防水層に支障が生じないよう、高圧水洗浄後は十分に乾燥させる。
また保護仕様の場合、保護コンクリート内に残留水分があるため冬季の施工ではとくに注意し、可能な場合は洗浄に替えて機械研削を行う。
- コンクリートおよびモルタル部が健全であること。
 - 下地面は平滑にする。
 - 浮き・表面剥離等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。
 - 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。
 - 特に超速硬化ウレタン・ポリウレアの吹付け面は仕上り（ピンホール発生時）に影響するため、凹凸や段差を無くす。
 - 露筋・爆裂は脆弱部を撤去し、鉄筋の錆を落した後断面修復材で処置を施す。
 - 立上りも平場と同様に平滑にし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。
 - ポリマーセメントを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い接着強度 と圧縮強度、また耐溶剤性を有する材料「ダブルテックスNEO」を使用するか、手塗りウレタン塗膜防水材にて、下塗り処理を行う。
- 排水勾配は排水に支障がない程度とする。
 - 水勾配は1/100 以上とする。
 - 既設のルーフトレンや排水落し口等の周囲の水はけが著しく悪い場合は、周囲のハツリ撤去や納まりの検討を行って勾配修正を施す。
 - 改修用ドレンはウレタン塗膜防水用を使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。また設置に際しては排水面積計算を行い、場合によってオーバフロー管の設置や既設ドレンの継続使用を行う。
- 下地表面がよく清掃されていること。
 - プライマーや接着剤の接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
 - ドレン付近に堆積した泥土やゴミ、繁殖しているコケ・植物等も完全に除去する。
- 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。
 - 防水層に支障が無いひび割れ（概ね1.0mm未満）には手塗りウレタン塗膜防水材（以下：手塗りウレタン）、またはポリウレタン系シーリング材の擦り込みを施すか、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
 - 防水層に支障があるひび割れ（概ね1.0mm以上）や打継ぎにはU カット後ポリウレタン系シーリング材を充填するか、手塗りウレタン+補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
 - 誘発目地・化粧目地には予めポリウレタン系シーリング材を充填しておき、状況に応じて手塗りウレタン+補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- 入隅および出隅が適切に処理されていること。
 - 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。また出隅および立上りの出隅は通りよく、R面または45度／W=5mm以上（メーカー推奨値15 ～ 30mm程度）の面取りを施す。
- コンクリート基礎廻りで適切な雨仕舞いができること。
 - 既設の基礎下部に隙間がある場合はポリウレタン系シーリング材の充填を施し、新規ウレタン塗膜層で巻き込む。
 - 既設の防振ゴムが著しく劣化している場合は取替えを行うか、余剰分を切除した後入隅にポリウレタン系シーリング材を打ち、コンクリート基礎ごと新規ウレタン塗膜層で巻き込む。また挙動部は手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）+補強布による補強張り、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹き等の処置を施す。
- 金属類の取合いが適切に処置されていること。
 - 防水層と取合う金属部分は表面の汚れ・油脂類・錆・塗料を除去し、プライマーの接着が阻害されないようにする。
 - 発錆や腐食が進行し、著しく劣化したものは交換をする。
 - 固定不良が無いことを確認する。また挙動が頻繁あるいは大きいと思われる箇所については、絶縁テープ（FJテープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）+補強布による補強張りにて絶縁処理、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアによる塗掛けの確保を100mm以上（推奨値）を施す。
 - ウレタン塗膜防水材が掛かる部分は目荒し研磨（サンドペーパー #100程度またはサンダー掛け）を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融亜鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入念に行う。
- シーリング材の設置が適切にされていること。
 - 劣化が進行しているシーリング材は撤去し、打替えを行う。

・記載されている使用量は飛散ロス分を含んでいません。

新築
工法仕様 施工条件と注意事項
改修
工法仕様 施工条件と注意事項
製品
ウレタン塗膜防水材 プライマー／通気緩衝シート その他 ドレン脱気装置 下地・目地処理材 使用材料一覧 製品取り扱い注意事項
資料
消防法関連 使用上の注意事項 メンテナンス 納まり図

- (2) 防水層に支障を生じさせないように、シーリング材の種別選択は適切に行うこと。
- (3) 防水層端末・金物の取合い等、必要に応じて適切なシーリング材が設置されていること。

- 10.保護層の伸縮目地に適切な処置がされていること。
- 〈MGテープ〉
- (1) 既設目地部のキャップおよび保護コンクリート表面より突出している目地材は撤去する。伸縮目地の交差部はクロスラップさせずに張り付ける。
- 〈MGタイト〉
- (1) 既設目地材は十分に除去し、水上がりを防止するために空隙を必ず設けた上でバックアップ材を設置する。その後MGタイトで平滑に仕上る。

- 11.吹付け施工ができる環境が整っていること。
- (1) ホースの全長（およそ60 ～ 90m)に見合った位置にシステム車両と材料
- (2) 仮設足場は屋根の床面から1,800mm以上の高さを確保する。
- (3) 空調設備・換気設備は吹付け施工中は運転を停止し、吸気口等からの超速硬化ウレタン・ポリウレアの室内への流入を防止する

- 12.PCa下地およびALC 下地の場合の注意点は、以下の通りとする。
- (1) 水勾配は躯体でとり、部材は固定を十分に行いジョイントに生じるムーブメントを可能な限り抑えること。
- (2) 接合部の目違い・段差は、なだらかになるようにサンディングまたはポリマーセメント系モルタルを塗布する。また目地部についても空隙無く平坦になるように充填する。
- (3) 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は、通気緩衝シートを張るか、絶縁テープ（FJテープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）+補強布による補強張りにて絶縁処理、あるいは超速硬化ウレタン・ポリウレアの増吹きを施す。
- (4) 表面はポリマーセメントで平滑に仕上げる。その際使用する材料はP.44-2・(7)と同様のものとする。

■ 各工法施工上および仕上りに関する注意事項【改修】

- 〈 共通事項（施工） 〉
- ウレタンおよびプライマー・トップコートの施工中、または硬化養生中に降雨・夜露等の水分にさらされる可能性がある場合は施工を控えてください。とくに水系材料は気温によって硬化時間が大きく左右されるため、注意してください。
 - 溶剤系材料のうち、一部屋内の使用においては特定化学物質障害予防規則の対象となります。その場合は、同規則に従い特定化学物質作業主任者を選任するなど法令順守をお願いします。
 - 下地に応じて適切なプライマーを選定してください。
 - プライマー塗布時、下地への吸い込みが多い場合は再塗布してください。
 - 使用する材料は必ず保存期間内のものをご使用ください。
 - 材料の扱いに際してはSDS（安全データシート）やPDS（プロダクトデータシート）をよく読み、適切な扱いを行ってください。
 - 材料は直射日光や風雨に晒される場所を避け、冷暗所にて貯蔵・保管してください。
 - 材料の貯蔵・保管場所へは作業者以外の立ち入りを禁止し、また転倒防止や火気厳禁等の安全対策を講じてください。
 - 産業廃棄物（廃材・廃液）は適切に処理してください。
 - 外断熱工法の施工や既設防水層に断熱板が設置されている場合、施工現場が湖沼や河川の近くである場合、また夜間の気温が下がる時季は結露が生じることが多くなります。とくにトップコートの「艶引け（乾燥硬化前に水分の影響による現象）」を避けるため、午後からの塗布作業には十分注意してください。
 - 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には、スプレーシステム内（シリンドーポンプおよびホース）に残っている異なる種類の材料や古い材料の入替えを必ず行ってください。
 - 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず飛散対策養生を施してください。
 - 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず設定温度まで加温して適正な粘度に調整してください
 - 超速硬化ウレタン・ポリウレアの施工前には必ず一斗缶またはバール缶等の中に試し吹きを行い「適正な吹付け圧力である」こと、「液漏れ・硬化不良が無い」ことを確認し、吹付け施工中はA剤とB剤の吹付け圧力差が1MPa以内であることを確認してください。
 - 超速硬化ウレタン・ポリウレアは希釈せず、そのままでご使用ください。
 - 超速硬化ウレタン・ポリウレアの吹付け施工後は、当日のうちにトップコートを塗布するようにしてください。
 - 超速硬化ウレタン・ポリウレアおよび手塗りウレタンの塗布後に降雨・降雪または夜露等の水気にさらされた場合や、塗継ぎ・増塗りおよびトップコートの塗布が翌日以降になる場合は、次工程で塗布する材料との接着力低下を防止するために表面を良く清掃し、層間プライマーの塗布を行ってください。
 - 風通しの悪い場所で施工する場合は防毒マスクの着用や換気装置の設置を行い、十分な安全対策を講じるとともに、材料の硬化状況にもご注意ください。
 - 2成分形タイプの製品は、必ず主剤と硬化剤の組合せを守ってください、不具合の原因となります。
 - 2成分形タイプの材料攪拌（超速硬化ウレタン・ポリウレアを除く）は、規定の配合比を守り攪拌機で行ってください。なお攪拌機はモーターの出力が大きく、かつ回転の遅いものを使用してください。回転が速いと気泡を巻き込み、ピンホールの発生や仕上りを悪くすることになります。
 - 手塗りウレタン塗膜防水材を希釈する場合は、専用の希釈剤を規定量を守ってご使用ください。
 - 冬季などで手塗りウレタン塗膜防水材の硬化を早める場合には、必ず専用の硬化促進剤を規定量を守ってご使用ください。
 - 脱気装置を設置する際は、原則水上に設置してください。また脱気装置は金属製であるため、避雷導線は1.5m以上離して設置してください。

- アンカー類の穿孔は所定の穿孔径・穿孔深さを守り、垂直になるよう行ってください。また孔内および周辺の切粉は必ず除去してください。
- 小分けする場合は、必ずプレミキシングを行ってください。

- 〈 共通事項（仕上り） 〉
- 超速硬化ウレタン・ポリウレアは「エンボツ仕上げ」となります。
 - 下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。吹付け直後に短時間で指触乾燥・硬化する超速硬化ウレタン・ポリウレアは、下地凹凸やシートジョイントまたテープ類の端部等の形状をトレースしやすい傾向にあります。
 - 既存防水が外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
 - 高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーフバルコニー等の居室付近での塗布は避けてください。
 - 粗面仕上げにする場合は「粗面仕上材」「エストopp#20」「エストopp#40」のいずれかを添加してください。但しいずれも防滑性能を保証するもではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
 - 粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
 - 現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
 - 各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
 - 各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。

- 〈 通気緩衝工法 〉 P.37.41
- 通気緩衝シートは強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
 - 通気緩衝シートジョイントの隙間は2mm以内にしてください。但し自着層付改質アスファルトシート系「自着シート」及び自着層付ポリエステル不織布系「自着シートライトSP」の2種類の通気緩衝シートについては短手ジョイントの隙間は2mm以内、長手ジョイントの隙間については、3 ～ 5mm程度離して下さい。
 - 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃えと、超速硬化ウレタン・ポリウレア吹付け後に破断することがありますので、300mm以上ずらしてください。
 - 「自着シートライトSP」張付け後は、浮きや皺を発生させないために必ず転圧ローラーで十分転圧を行ってください。但し「自着シート」張付け後の転圧は、ハンドローラー等で行ってください。
 - 「自着シート」を施工する場合は、プライマーの乾燥時間を確実に取って下さい。乾燥時間が不足すると、裏面の改質アスファルトが融解し、通気性能の低下につながる恐れがあります。
 - 通気緩衝シート上はスパイクシューズでの歩行を避けてください。シートが破ける恐れがあります。
 - 通気緩衝シートの張付け後、ウレタン塗膜防水材の塗布工程が翌日以降になる場合は必ずシート端部およびジョイントの雨仕舞いを行ってください。雨仕舞いを行わず雨や夜露の影響を受けた場合、次工程の乾燥養生に時間がかかったり、膨れや剝離の原因となります。
 - 「自着シートライトSP」は、水に塗れた場合は性能が低下するために使用しないでください。
 - 新たに敷設した通気緩衝シートの上に材料を置く場合は、ベニヤ板等で養生を行いその上に置いてください。
 - 補強布は通気緩衝シートとの重ね幅を100mm以上にしてください。

- 〈 機械的固定工法 〉 P.38.39
- 下地状況や既存防水層の厚み等により、使用するアンカーの長さを選定してください。
 - ALC下地の場合はエポキシ樹脂等を使用するなど、必ず強度を出すようにしてください。
 - ランスロックシートは強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
 - シートやテープが皺にならないように注意してください。
 - 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃えと、超速硬化ウレタン・ポリウレア吹付け後に破断することがありますので、500mm以上ずらしてください。
 - 穿孔後の切粉はウレタン塗膜防水層との接着不良を起こす原因となりますので、掃除機等で必ず吸い取って除去してください。
 - アンカーの固定強度だけでは不十分な箇所は、必要に応じてボンドを併用してシートを固定してください。
 - ハードエッジドライブの施工時に過剰な締め付けをしないでください。必要以上に締め付けるとネジの折れや頭飛びをする恐れがあります。またインパクトドライバーの最大トルク値は、ハードエッジドライブのねじり破断トルク値よりはるかに高いため“強力型”は用いず、トルク値には十分注意しながら低回転でゆっくりと施工してください。
 - ランスロックキャントやTルーフプレートA型は既存入隅部形状に合せて選択してください。ランスロックキャントやTルーフプレートA型は夏場の熱による膨張を加味し、隙間をつくって取り付けてください。（夏施工時：隙間1mm、冬施工時：隙間2mm）
 - 機械的固定工法は全面接着と異なり、柔軟性の高い防水層をアンカーを用いて部分的に躯体コンクリートに連結する工法です。したがって防水層の表面にシワや段差が発生する場合があります。これは「膨れ」とは異なるため防水機能上に問題はありません。

- 〈 下地がウレタン塗膜防水材の場合の塗重ね改修工法（オーバーレイ工法） 〉 P.35
- 既存ウレタン塗膜防水層の種類や劣化状況によっては、ウレタン塗膜防水材の塗重ね改修工法（オーバーレイ工法）を採用できない場合があります。

新築
工法仕様 施工条件と注意事項
改修
工法仕様 施工条件と注意事項
製品
ウレタン塗膜防水材 プライマー／通気緩衝シート その他 ドレン脱気装置 下地・目地処理材 使用材料一覧 製品取り扱い注意事項
資料
消防法関連 使用上の注意事項 メンテナンス 納まり図



製品

*Products
information*

製品情報 | ウレタン塗膜防水材

2成分形超速硬化ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形、高強度形 共用認証品

エバーコートSP-100



混合比	A剤：B剤(＋スプレートナー)=1：1 (容積比)
入 目	390kg／セット (A剤200kg／ドラム：B剤175kg／ドラム：スプレートナー 15kg／缶) 【小分け】 35.4kg／セット (A剤18kg／缶：B剤16kg／缶：スプレートナー 1.4kg／小缶)
硬化物比重	1.0
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号	F☆☆☆☆ NUK-F07238

温度	5～15℃	15～25℃	25～35℃
指触硬化時間	1～3分(専用吹付け機械塗工)		
乾燥時間 ^{※1}	60分	30分	30分
接着可能時間 ^{※2}	8時間	6時間	6時間

※1 トップコートが塗布可能となる目安の時間です。
※2 吹重ね可能な時間、またはトップコートが接着可能な時間です。

2成分形超速硬化ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用認証品

プラマックス500



混合比	A剤：B剤(＋MQCTナー)=1：1 (容積比)
入 目	390kg／セット (A剤200kg／ドラム：B剤175kg／ドラム：MQCTナー 15kg／缶) 【小分け】 35.4kg／セット (A剤18kg／缶：B剤16kg／缶：MQCTナー 1.4kg／小缶)
硬化物比重	1.0
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号	F☆☆☆☆ NUK-F07246

温度	5～15℃	15～25℃	25～35℃
指触硬化時間	1～3分(専用吹付け機械塗工)		
乾燥時間 ^{※1}	60分	30分	30分
接着可能時間 ^{※2}	8時間	6時間	6時間

※1 トップコートが塗布可能となる目安の時間です。
※2 吹重ね可能な時間、またはトップコートが接着可能な時間です。

2成分形超速硬化ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用同等品

プラマックス450P (ND)



混合比	A剤：B剤(＋専用トナー)=1：1 (容積比)
入 目	384kg／セット (A剤200kg／ドラム：B剤170kg／ドラム：専用トナー 14kg／缶) 【小分け】 34.5kg／セット (A剤18kg／缶：B剤15.3kg／缶：専用トナー 1.2kg／小缶)
硬化物比重	1.0
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号	F☆☆☆☆ NUK-F08307

温度	5～15℃	15～25℃	25～35℃
指触硬化時間	3～15分(専用吹付け機械塗工)		
接着可能時間 [※]	6時間	4時間	3時間

※吹重ね可能な時間です。

2成分形超速硬化ポリウレア防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用同等品

PM-5000



混合比	A剤：B剤(＋専用トナー)=1：1 (容積比)
入 目	390kg／セット (A剤200kg／ドラム：B剤175kg／ドラム：専用トナー 15kg／缶) 【小分け】 35.4kg／セット (A剤18kg／缶：B剤16kg／缶：専用トナー 1.4kg／小缶)
硬化物比重	1.0
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号	F☆☆☆☆：NUK-F10599

温度	5～15℃	15～25℃	25～35℃
指触硬化時間	数秒(専用吹付け機械塗工)		
乾燥時間 ^{※1}	60分	30分	30分
接着可能時間 ^{※2}	8時間	6時間	6時間

※1 トップコートが塗布可能となる目安の時間です。
※2 吹重ね可能な時間、またはトップコートが接着可能な時間です。

1成分形特定化学物質無配合ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 認証品

エバーコートZero-1 H



平場用 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形平場用認証品

入 目	18kg／缶
硬化物比重	1.3
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号	F☆☆☆☆ NUK-F12708

立上り用 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形立上り用認証品

入 目	18kg／缶 8kg／缶
硬化物比重	1.3
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号	F☆☆☆☆ NUK-F12709

中粘度タイプ JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形平場用認証品

入 目	18kg／缶
硬化物比重	1.3
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号	F☆☆☆☆ NUK-F12734

温度	5～15℃	15～25℃	25～35℃
塗り継ぎ時間	60分程度	30分程度	20分程度
乾燥時間	15～24時間	15～20時間	5～15時間
接着可能時間	7日間	7日間	5日間

・乾燥時間、接着可能時間の説明はP.56を参照してください。

・上記時間は、施工環境、使用条件により変わるため目安となります。
・接着可能時間の超過、降雨および汚れ等の影響を受けた場合は、層間プライマーの使用や洗浄が必要になります。

製品情報 | プライマー

1成分形ウレタン樹脂プライマー（弱溶剤系）
DSプライマー・エコ／コンクリート、モルタル下地用

環境対応

入 目 | 16kg / 缶

塗布量 | 0.15kg ~ / ㎡

使用可能時間	5 ~ 15℃	—
	15 ~ 25℃	—
	25 ~ 35℃	—
乾燥時間	5 ~ 15℃	3時間
	15 ~ 25℃	1.5時間
	25 ~ 35℃	1時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	2日以内
	15 ~ 25℃	2日以内
	25 ~ 35℃	2日以内
接着可能時間を越えた場合の処理		研磨の上再塗布します
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F08344

2成分形エポキシ樹脂プライマー（水系）
オーブライマー／コンクリート、モルタル下地用

環境対応

入 目 | 16kg / プラスチックバール缶
(袋入り材料を内封)

混合比 | 主剤：硬化剤＝1：1
(重量比)

使用可能時間	5～15℃	6時間
	15～25℃	4時間
	25～35℃	3時間
乾燥時間	5～15℃	3時間
	15～25℃	1.5時間
	25～35℃	1時間
接着可能時間	5～15℃	2日以内
	15～25℃	2日以内
	25～35℃	2日以内
接着可能時間を越えた場合の処理		再塗布します
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F06072

2成分形ウレタン樹脂プライマー（溶剤系）
層間プライマー-J／既存ウレタン下地用

溶 剤 系

入 目 | 主剤6kg／缶：
硬化剤6kg／缶
混合比 | 主剤：硬化剤＝1：1 (重量比)
塗布量 | 0.1kg～／㎡

使用可能時間	5～15℃	4時間
	15～25℃	2時間
	25～35℃	1時間
乾燥時間	5～15℃	2時間
	15～25℃	1時間
	25～35℃	0.5時間
接着可能時間	5～15℃	12時間以内
	15～25℃	12時間以内
	25～35℃	12時間以内
接着可能時間を越えた場合の処理		研磨の上再塗布します。
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F06045

1成分形アスファルト下地活性剤（溶剤系）
ダイナベース／既存砂付きアスファルト下地活性剤（自着シート下地用）

使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	48時間
	15～25℃	24時間
	25～35℃	24時間
ホルムアルデヒド放散等級区分 及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F07268

溶 剤 系

入 目 | 20kg／缶

塗布量 | 0.8～1.2kg／㎡

- ・上記時間は、施工環境、使用条件により変わるため目安となります。
- ・プライマー塗布後、降雨および汚れ等の影響を受けた場合は、接着可能時間の超過した場合と同様の処理を行ってください。

1成分形ウレタン樹脂プライマー（弱溶剤系）
層間プライマー-E／既存ウレタン下地、既存塩化ビニル樹脂シート防水層、及び塩化ビニル樹脂被覆鋼板用

環境対応

入 目 | 14kg／缶

塗布量 | 0.1kg～／㎡

使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	4時間
	15～25℃	2時間
	25～35℃	1.5時間
接着可能時間	5～15℃	1日以内
	15～25℃	1日以内
	25～35℃	12時間以内
接着可能時間を越えた場合の処理		研磨の上再塗布します
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F06044

2成分形エポキシ樹脂プライマー（溶剤系）
プライマーPW-F／コンクリート、モルタル、及び金属下地用

溶 剤 系

入 目 | 主剤6kg／缶：
硬化剤6kg／缶
塗布量 | 0.15kg～／㎡

使用可能時間	5～15℃	3時間
	15～25℃	3時間
	25～35℃	2時間
乾燥時間	5～15℃	4時間
	15～25℃	2時間
	25～35℃	1時間
接着可能時間	5～15℃	2日以内
	15～25℃	2日以内
	25～35℃	2日以内
接着可能時間を越えた場合の処理		研磨の上再塗布します。 セメントを25%配合することで リコートが可能です。乾燥時 間は1.5倍程度になります。
ホルムアルデヒド放散等級区分 及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F08301

2成分形ウレタンポリエステル樹脂プライマー（溶剤系）
FUプライマー／ポリエステル樹脂トップコート下地用（アクリルウレタン樹脂トップコートには使用できません）

溶 剤 系

入 目 | 主剤4kg／缶：
硬化剤4kg／缶
混合比 | 主剤：硬化剤=1:1 (重量比)
塗布量 | 0.15kg／㎡

使用可能時間	5～15℃	1.5時間
	15～25℃	1時間
	25～35℃	0.5時間
乾燥時間	5～15℃	1時間
	15～25℃	1時間
	25～35℃	0.5時間
接着可能時間	5～15℃	6時間以内
	15～25℃	4時間以内
	25～35℃	2時間以内
接着可能時間を越えた場合の処理		研磨の上再塗布します
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F07253

用語一覧

使用可能時間	可使時間。主剤と硬化剤を混合後、塗布作業が可能な時間です。
乾燥時間	硬化時間。下地への塗布後、次工程が可能になるまでの時間です。
接着可能時間	乾燥後、次工程の施工（塗重ね含む）または同材料の塗継ぎが可能な時間です。

下地への適合一覧

	DSプライマー・エコ (弱溶剤系)	プライマーPW-F (溶剤系)	オーブライマー (水系)	層間プライマー-J (溶剤系)	層間プライマー-E (弱溶剤系)	FUプライマー (溶剤系)	ダイナベース (溶剤系)
コンクリート／モルタル	○	○	○	×	×	×	×
金 属	鉄	×	×	×	×	×	×
	ステンレス	×	×	×	×	×	×
	アルミニウム	×	×	×	×	×	×
	鉛	×	×	×	×	×	×
	亜鉛	×	×	×	×	×	×
	銅	×	×	×	×	×	×
	溶融亜鉛メッキ銅板	×	△	×	×	×	×
	焼付けフッ素銅板	×	×	×	×	×	×
ウレタン	×	×	×	○	○	×	×
塩化ビニルシート／VP管	×	×	×	×	○	×	×
ゴムシート	×	×	●	×	×	×	×
FRP	×	△	×	×	×	●	×
砂付きアスファルト	×	×	×	×	×	×	○

×(注)：脱気筒やドレン等、部分的にウレタン塗膜防水層が掛かる範囲内に限って可。 △：下地の目荒し処理の後、接着試験を行ってください。 ●：事前に接着試験を行ってください。
○：可。ただし下地の状態が健全であること。(P.21、48の防水施工条件を参照してください。)

密着工法の場合の下地別適用プライマー

下 地	適応プライマー	塗布量	タイプ／荷姿	使用方法	下地処理	備 考
コンクリート	オーブライマー	0.15kg～／㎡	水系 16kg／缶	1：1混合・攪拌	清掃	—
	DSプライマー・エコ	0.15kg～／㎡	弱溶剤系 16kg／缶	そのまま使用	清掃	—
	プライマー PW-F	0.15kg～／㎡	溶剤系 12kg／セット	1：1混合・攪拌	清掃	—
金 属	プライマー PW-F	0.15kg～／㎡	溶剤系 12kg／セット	1：1混合・攪拌	目荒らし・脱脂処理	—
塩ビシート	層間プライマー E	0.15kg～／㎡	弱溶剤系 14kg／缶	そのまま使用	表面活性化処理 (溶剤拭き)	乾燥時間が長いので溜まりを作らないように 注意して塗布する
FRP (ポリエステルトップ)	FUプライマー	0.15kg／㎡	溶剤系 8kg／セット	1：1混合・攪拌	ワックス無：そのまま ワックス有：目荒らし	—
ウレタン	層間プライマー J	0.1kg～／㎡	溶剤系 12kg／セット	1：1混合・攪拌	清掃	—
	層間プライマー E	0.1kg～／㎡	弱溶剤系 14kg／缶	そのまま使用	清掃	乾燥時間が長いので溜まりを作らないように 注意して塗布する

自着シートライトSP 施工時の下地別適用プライマー

下 地	適応プライマー	塗布量	タイプ／荷姿	使用方法	下地処理	備 考
コンクリート	オーブライマー	0.15kg～／㎡	水系 16kg／缶	1：1混合・攪拌	清掃	—
	DSプライマー・エコ	0.15kg～／㎡	弱溶剤系 16kg／缶	そのまま使用	清掃	—
	プライマー PW-F	0.15kg～／㎡	溶剤系 12kg／セット	1：1混合・攪拌	清掃	—
露出アスファルト シート	ダイナベース	0.8～ 1.2kg／㎡	溶剤系 20kg／缶	そのまま使用	清掃	—
ゴムシート	オーブライマー	0.15kg～／㎡	水系 16kg／缶	1：1混合・攪拌	清掃	—
塩ビシート	層間プライマー E	0.15kg～／㎡	弱溶剤系 14kg／缶	そのまま使用	表面活性化処理 (溶剤拭き)	乾燥時間が長いので溜まりを作らないように 注意して塗布する
FRP (ポリエステルトップ)	FUプライマー	0.15kg／㎡	溶剤系 8kg／セット	1：1混合・攪拌	ワックス無：そのまま ワックス有：目荒らし	—
ウレタン	層間プライマー J	0.1kg～／㎡	溶剤系 12kg／セット	1：1混合・攪拌	清掃	—
	層間プライマー E	0.1kg～／㎡	弱溶剤系 14kg／缶	そのまま使用	清掃	乾燥時間が長いので溜まりを作らないように 注意して塗布する

- ・弱溶剤系とは、トルエンやキシレンの他、有機溶剤中毒予防規則の対象物質を配合していないことを言います。
- ・TXフリーとは、シックハウス症候群誘発物質として規制対象となっているトルエンやキシレンを配合していないことを言います。

製品情報 | トップコート

2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（弱溶剤系）速乾タイプ
SQトップ・ゼロ



入 目 | 主剤6kg／缶：硬化剤9kg／缶
混合比 | 主剤：硬化剤＝2：3（重量比）
塗布量 | 0.2kg／㎡

色バリエーション			
一般色 （受注生産品）	No.12	グレー	
	No.70	ライトグレー	
	No.44	SPグリーン	
高反射色 （受注生産品）	高反射色No.100 ライトグレー		
	高反射色No.200 ミントグリーン		

※一般色は艶消しタイプと艶有りタイプがあります。
※一般色は特注色対応可能。

速熱タイプ（高反射色）の有無		有り
使用可能時間	5～15℃	4時間
	15～25℃	3時間
	25～35℃	2時間
乾燥時間	5～15℃	6時間
	15～25℃	4時間
	25～35℃	2時間
接着可能時間	5～15℃	7日間
	15～25℃	7日間
	25～35℃	7日間
塗重ね時など接着可能時間を越えた場合の処理		層間プライマーを塗布します。
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F231264

1成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（水系）
オートップ・ワン



入 目 | 15kg／缶
塗布量 | 0.3kg／㎡ (0.15kg×2回塗り)

色バリエーション		
一般色 （受注生産品）	グレー	
	グリーン	
高反射色 （受注生産品）	高反射色No.100 ライトグレー	
	高反射色No.200 ミントグリーン	

※艶有りタイプのみです。ダイフレックス粗面仕上材を添加することで、艶消し調仕上げになります。添加量は、オートップ・ワン 1缶に対し1袋(0.5kg)です。

速熱タイプ（高反射色）の有無		有り(2色)
使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	16時間
	15～25℃	8時間
	25～35℃	5時間
接着可能時間	5～15℃	7日間
	15～25℃	7日間
	25～35℃	7日間
塗重ね時など接着可能時間を越えた場合の処理		層間プライマーを塗布します。
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F17980

2成分形アクリルシリコン樹脂トップコート（弱溶剤系）
ASTopp・ゼロ



入 目 | 主剤6kg／缶：硬化剤9kg／缶
混合比 | 主剤：硬化剤＝2：3（重量比）
塗布量 | 0.2kg／㎡

色バリエーション			
一般色 （受注生産品）	No.12	グレー	
	No.70	ライトグレー	
	No.44	SPグリーン	
	No.15	グリーン	
	No.17	タンブラウン	
	No.96	ブラウン	
	No.97	ライトブラウン	
高反射色 （受注生産品）	高反射色No.100 ライトグレー		
	高反射色No.200 ミントグリーン		

※一般色は艶消しタイプと艶有りタイプがあります。
※一般色は特注色対応可能。

速熱タイプ（高反射色）の有無		有り
使用可能時間	5～15℃	8時間
	15～25℃	5時間
	25～35℃	3時間
乾燥時間	5～15℃	16時間
	15～25℃	8時間
	25～35℃	5時間
接着可能時間	5～15℃	7日間
	15～25℃	7日間
	25～35℃	7日間
塗重ね時など接着可能時間を越えた場合の処理		層間プライマーを塗布します。
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F12706

2成分形フッ素樹脂トップコート（弱溶剤系）
フッ素スーパートップ・ゼロ



入 目 | 主剤4kg／缶：硬化剤6kg／缶
混合比 | 主剤：硬化剤＝2：3（重量比）
塗布量 | 0.2kg／㎡

色バリエーション			
一般色 （受注生産品）	No.12	グレー	
	No.70	ライトグレー	
	No.44	SPグリーン	
	No.15	グリーン	
	No.17	タンブラウン	
	No.96	ブラウン	
	No.97	ライトブラウン	
高反射色 （受注生産品）	高反射色No.100 ライトグレー		
	高反射色No.200 ミントグリーン		

※艶有りタイプのみがあります。 ※一般色は特注色対応可能。

速熱タイプ（高反射色）の有無		有り
使用可能時間	5～15℃	8時間
	15～25℃	5時間
	25～35℃	3時間
乾燥時間	5～15℃	16時間
	15～25℃	8時間
	25～35℃	5時間
接着可能時間	5～15℃	7日間
	15～25℃	7日間
	25～35℃	7日間
塗重ね時など接着可能時間を越えた場合の処理		層間プライマーを塗布します。
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F12707

新築

工法仕様
施工条件と
注意事項

改修

工法仕様
施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー
トップコート

消気緩シート
その他

ドレン
下地
目地処理材

使用材料
一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消防
法関連

使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

新築

工法仕様
施工条件と
注意事項

改修

工法仕様
施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー
トップコート

消気緩シート
その他

ドレン
下地
目地処理材

使用材料
一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消防
法関連

使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

製品情報 | トップコート

1成分無機質調アクリルシリコン樹脂トップコート（水系）厚塗り高耐久保護仕上げ

HGコート

- 燃え難く、タバコや飛び火にも安心です。建築基準法第63条に係る飛び火性能試験に合格（ただし、国土交通大臣認定は取得していません）。
- 耐衝撃性に優れ、飛来物などの衝撃からウレタン塗膜防水層を保護します。
- アクリルシリコン樹脂のため高耐候なトップコートです。
- 高反射色では遮熱効果も付加できます。



色バリエーション		
一般色 （常備品）	シルバーグレー	
	グリーン	
一般色 （受注生産品）	レッド	
	高反射色No.100 ライトグレー	
	高反射色No.200 ミントグリーン	

入 目 | 20kg／缶
塗布量 | 平 場 W-1 0.15kg／ 珪砂 0.8kg／
HGコート 1.2kg（0.6kg×2回塗り）
立上り W-1 0.15kg／
HGコート 1.0kg（0.5kg×2回塗り）

遮熱タイプ（高反射色）の有無		有り（2色）
使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	3時間
	15～25℃	2時間
	25～35℃	1時間
接着可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
塗重ね時など接着可能時間を越えた場合の処理		制限無くりコート可能
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F06070



HGコート用プライマー／2成分エポキシ樹脂プライマー（溶剤系）W-1



入 目 | 主 剤 10kg／缶
硬化剤 10kg／缶
混合比 | 主剤：硬化剤＝1：1 （重量比）

使用可能時間	5～15℃	3時間
	15～25℃	1.5時間
	25～35℃	45分

乾燥時間	5～15℃	5時間
	15～25℃	2時間
	25～35℃	1時間
接着可能時間	5～15℃	12時間以内
	15～25℃	12時間以内
	25～35℃	12時間以内
接着可能時間を越えた場合の処理		研磨の上再塗布します
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F06076

- 使用可能時間、乾燥時間、接着可能時間の説明はP.56を参照してください。
- 上記時間は、施工環境、使用条件により変わるため目安となります。
- プライマー塗布後、降雨および汚れ等の影響を受けた場合は、接着可能時間の超過した場合と同様の処理を行ってください。

■トップコート関連製品

適用トップコート	製品名(入目)	粒径(平均粒子径)	仕上材の添加量	塗工方法
SQトップ・ゼロ DSトップ・ゼロ ASトップ・ゼロ フッ素スーパートップ・ゼロ オートップ・ワン	粗面仕上材 (0.5kg／袋／箱)	30～300μm	トップコート1セットに対して粗面仕上材1袋 〈フッ素スーパートップ・ゼロの場合〉 トップコートに対して重量比約3%	ローラー
	エストップ#20 [®] (1kg／袋)	0.2mm	トップコートに対して重量比約2%	ローラー
	エストップ#40 [®] (1kg／袋)	0.4mm	トップコートに対して重量比約2%	リシンガン (吹付け)

※オートップ・ワンでの使用は不可

高反射トップコート

ウレタン塗膜防水材を保護するトップコートに遮熱性能を有する高反射色(日射反射率50%以上)を用いることで屋上などの防水施工面の蓄熱を抑えるとともに、防水層の耐久性向上が実現できます。

多様なニーズにこたえるため、様々なタイプのトップコートに高反射色をラインナップしています。

※ 下記高反射色はすべて受注生産となります。

環境対応

SQトップ・ゼロ

速乾性があり高耐久なアクリルウレタン樹脂トップコート（弱溶剤系）です。低汚染性を有しており、遮熱性能を長期的に維持できます。

DSトップ・ゼロ

弱溶剤系のアクリルウレタン樹脂トップコートです。

ASトップ・ゼロ

高耐久なアクリルシリコン樹脂トップコート（弱溶剤系）です。低汚染性を有しており、遮熱性能を長期的に維持できます。

フッ素スーパートップ・ゼロ

耐候性に優れたフッ素樹脂トップコート（弱溶剤系）です。高耐候性を有し、遮熱性能を長期的に持続できます。

オートップ・ワン

水系のアクリルウレタン樹脂トップコートです。

〈共通色見本〉

・高反射色は、日塗工色見本帳等の色票番号に合わせた特注色対応はできません。 ※高反射色の特注色対応は、No.17タンブラウン、No.96ブラウン、No.97ライトブラウンのみ調色可能です。

厚塗りタイプ

HGコート

高耐久な無機質調アクリルシリコン樹脂(水系)で、飛び火や飛来物からウレタン塗膜防水層を守ります。
※HGコートはウレタン塗膜防水との接着には専用のエポキシ樹脂プライマー W-1が必要となります。

印刷のため、多少現物と色目が異なる場合があります。決定の際は各トップコートの色見本をご参照ください。

高反射色はすべて受注生産となります。受注生産色及び特注色の納期は、ご注文後約 1 週間となります。

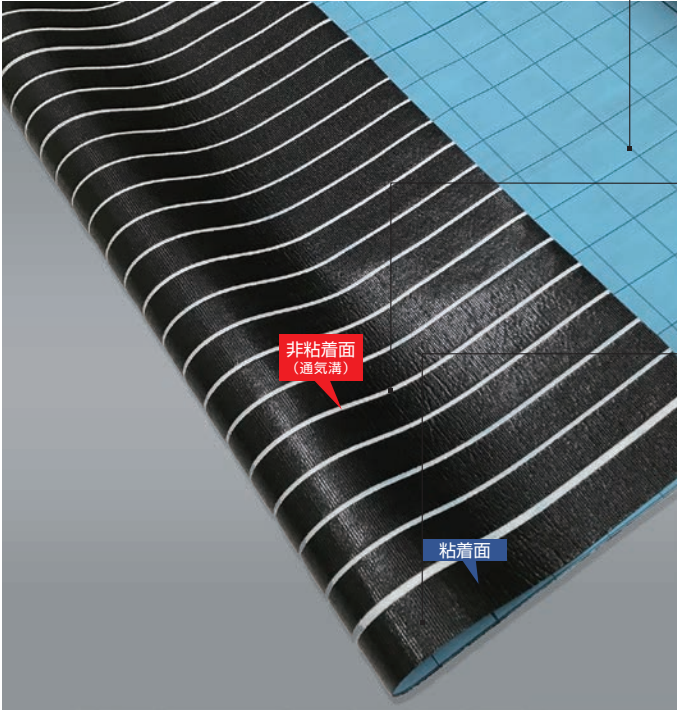
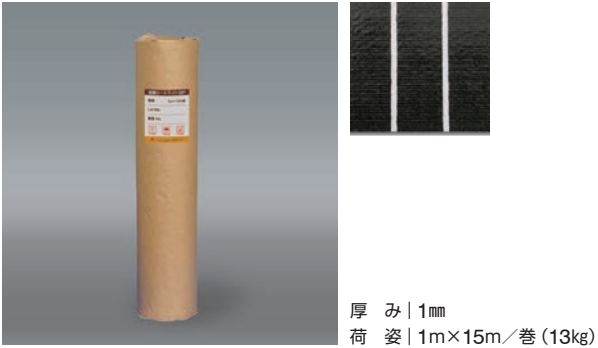
〈トップコートの仕上りについて〉

- 既存防水が外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
- 高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーフバルコニーなどの居室付近での塗布は避けてください。
- 粗面仕上げにする場合は「粗面仕上材」「エストップ #20」「エストップ #40」のいずれかを添加してください。
ただしいずれも防滑性能を保証するものではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- 現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
- 各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
- 各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。仕上りに特段のご要望がある場合は事前にご相談ください。

製品情報 | 通気緩衝シート

自着層付ポリエステル不織布系通気緩衝シート
自着シートライトSP

『自着シートライトSP』は、通気機能やセルフ接着性といった機能を有する、軽量化タイプの通気緩衝シートです。



立上りとプライマー共用で作業性アップ

粘着層の自着性に優れるため、立上りに用いるプライマーを平場にも共用可能。平場と立上りとで使い分けが必要がないため作業性が向上します。

※ ただし、平場の下地が立上りと異なる場合は下地に合わせたプライマーが必要です。

水を切ればすぐに施工可能な撥水フィルム加工

表層に撥水フィルム加工を施しているため、シート上の水を拭き取ればウレタン防水材の施工が可能。これまでのような表層基布の乾燥養生が不要なため、施工生産性が向上します。

防水層のふくれを防止する優れた通気性

シート裏面の不織布に帯状に粘着層が施されており通気効果(防水層のふくれ防止効果)を得られるよう設計。脱気筒と組み合わせることで防水層のふくれを防止します。

下地処理を簡便化するセルフ接着力

シート側に粘着ブチルをプレコーティングすることでシート界面の接着力を向上。許容範囲の凹凸であれば清掃+プライマー等の簡便な下地処理で防水施工が可能です。また、下地処理を省力化できるため施工生産性が向上します。

■ 仮固定用接着剤

断熱材の仮固定や、ランスロックシートの仮張りなどに使用します。

1成分形アクリル系接着剤 (水系)
SPLエマルジョン100



入 目 | 18kg / 缶



本製品は仮固定用の接着剤です。

使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	30～60分
	15～25℃	20～30分
	25～35℃	10～20分

■自着シートライトSP施工時の下地別適用プライマー

下 地	適応プライマー	塗布量	タイプ／荷姿	使用方法	下地処理	備 考
コンクリート	オープライマー	0.15kg～／㎡	水系 16kg／缶	1：1混合・攪拌	清掃	—
	DSプライマー・エコ	0.15kg～／㎡	弱溶剤系 16kg／缶	そのまま使用	清掃	—
	プライマー PW-F	0.15kg～／㎡	溶剤系 12kg／セット	1：1混合・攪拌	清掃	—
露出アスファルトシート	ダイナベース	0.8～ 1.2kg／㎡	溶剤系 20kg／缶	そのまま使用	清掃	—
ゴムシート	オープライマー	0.15kg～／㎡	水系 16kg／缶	1：1混合・攪拌	清掃	—
塩ビシート	層間プライマー E	0.15kg～／㎡	弱溶剤系 14kg／缶	そのまま使用	表面活性化処理 (溶剤拭き)	乾燥時間が長いので溜まりを作らないように注意して塗布する
FRP (ポリエステルトップ)	FUプライマー	0.15kg／㎡	溶剤系 8kg／セット	1：1混合・攪拌	ワックス無：そのまま ワックス有：目荒らし	—
ウレタン	層間プライマー J	0.1kg～／㎡	溶剤系 12kg／セット	1：1混合・攪拌	清掃	—
	層間プライマー E	0.1kg～／㎡	弱溶剤系 14kg／缶	そのまま使用	清掃	乾燥時間が長いので溜まりを作らないように注意して塗布する

・使用可能時間、乾燥時間、接着可能時間の説明はP.56を参照してください。

製品情報 | ランスロックシート・アンカー・その他・補強布・シーリング材

機械的固定工法用改質アスファルト系通気緩衝シート
ランスロックシート



機械的固定工法用の改質アスファルト製シート。アンカーピンを保持できる十分な強度を表面基布に備えています。
※シートジョイントをラップさせるため、有効幅は0.95mです。

厚み | 1.3mm
荷姿 | 1m×15.8m (20kg)

ランスロックシート固定用ネジ
ハードエッジドライブHDF



入目 | 65本/バック (45mm)
45本/バック (60mm)
40本/バック (75mm)
25本/バック (90mm)
23本/バック (100mm)
100本/箱 (120mm)
100本/箱 (150mm)
100本/箱 (180mm)
寸法 | 45mm・60mm・75mm
90mm・100mm・120mm
150mm・180mm
穿孔径 | 5.3mm
アンカー埋め込み深さ | 40mm以上

※プラグは必要ありません

固定用金物
Tルーフスリーブ



材質 | アルミニウム
入目 | 300個/箱
寸法 | 長さ 5mm 20mm 25mm
30mm 35mm 40mm
外径 10mm
内径 8mm

TルーフプレートA型



材質 | アルミニウム
寸法 | 高さ 3.3mm
長さ 2.0m
幅 30mm

固定用アンカー穴
両端から50mmのところに2ヶ所及び380mmピッチで
4ヶ所/合計6ヶ所

ランスロックシート固定用アンカーピン
Tルーフアンカー



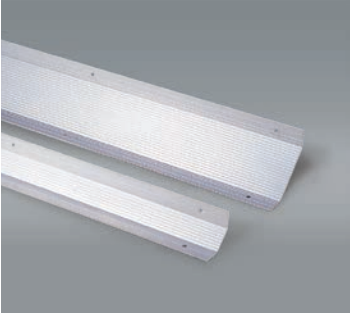
入目 | 300本/箱
寸法 | 40mm・70mm
穿孔径 | 6.4～6.5mm
アンカー埋め込み深さ | 24mm以上

ハードエッジドライブHDF用ワッシャー
Tルーフワッシャー



入目 | 300枚/袋
寸法 | 径30mm

ランスロックキャントN



ランスロックシートによる機械的固定工法や自着シートで砂付き露出アスファルト防水等を改修する場合に、立上りの防水層撤去後の入隅部をウレタン塗膜防水の塗布下地として成形します。

材質 | アルミニウム
寸法 | 厚さ 1.3mm
長さ 2.0m
幅 30×40×30mm
30×100×30mm

固定用アンカー穴
両端から50mmのところに2ヶ所及び380mmピッチで
4ヶ所/合計6ヶ所×上下2ヶ所 径6.5mm

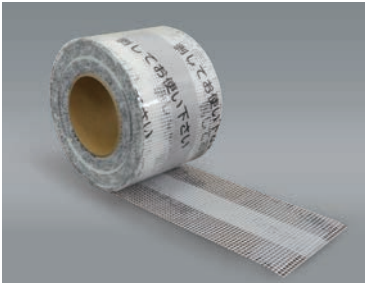
ランスロックキャントN、TルーフプレートA型用固定アンカーピン
アルミサスアンカー



入目 | 100本/箱
寸法 | 26mm・40mm・70mm
穿孔径 | 5.4mm
アンカー埋め込み深さ | 20mm以上

通気緩衝シート用ジョイントテープ
ジョイントテープTM

補強効果が高く、防水材が流れ込まない通気緩衝シート用ジョイントテープです。
粘着タイプです。



材質 | PETフィルムガラス繊維
荷姿 | 幅100mm×50m/巻

ランスロックキャントN、TルーフプレートA型用
絶縁テープ金属屋根接合部絶縁用テープ
FJテープ

耐溶剤性絶縁テープです。



材質 | ブチルゴム・ポリエステル不織布
荷姿 | 幅50mm×20m/巻
幅70mm×20m/巻
幅100mm×20m/巻
幅150mm×20m/巻
幅200mm×20m/巻

1成分形ポリウレタン系シーリング材
速乾タイプ

シーカフレックス® 11FC Quick

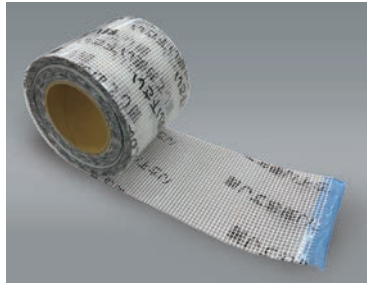
速いタックフリータイムを有します。
(40分/23℃)
通気緩衝シート端部処理、雨仕舞、防水下地処理、クラック補修、ドレン廻り、コーナー目地に適用できます。



入目 | カートリッジ
320ml ×10本/箱 (2箱PP掛け)

ランスロックシート用ジョイントテープ/
通気緩衝シート用端末補強テープ
DFメッシュテープ

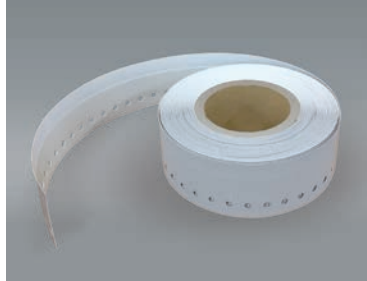
補強効果の高い、ランスロックシート用ジョイントテープ兼、通気緩衝シート用の端末補強テープです。補強効果が高く、金物等の取り合いにも使用できます。粘着タイプです。



材質 | ガラス繊維
荷姿 | 幅100mm×50m/巻

バラベットアゴ部用粘着層付水切りテープ
キレールテープ

水切りの無いバラベットアゴ部や、施工の省力化がはかれる水切り用テープです。



材質 | ストーンベーパー
荷姿 | 幅55mm×30m/巻

通気緩衝シート用 (PASシート#180のみ)
端末補強布

ダイワテープS

補強効果の高い通気緩衝シート (PASシート#180のみ)端末用の補強布です。ウレタン塗膜防水材で張り付けます。



材質 | ガラス繊維・ポリエステル繊維
荷姿 | 幅100mm×100m/巻
幅200mm×100m/巻

骨材
パワークロンG
パワークロンG3号

耐摩耗性に優れた防滑用骨材です。



材質 | 自然石 (玄武岩)
入目 | 25kg
粒度 | 0.3～1.18mm (パワークロンG)
0.6～1.7mm (パワークロンG3号)

新築
工法仕様
施工条件と注意事項

改修
工法仕様
施工条件と注意事項

製品
ウレタン塗膜防水材
プライマー/トッポコート/その他
通気緩衝シート
ドレン設置機
下地/地処理材
使用材料一覧
製品取り扱い

資料
消防関連
使用上の注意事項
メンテナンス
納まり図

新築
工法仕様
施工条件と注意事項

改修
工法仕様
施工条件と注意事項

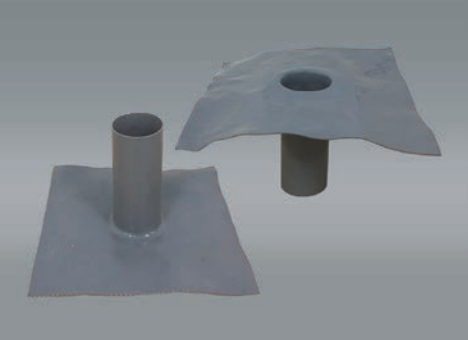
製品
ウレタン塗膜防水材
プライマー/トッポコート/その他
通気緩衝シート
ドレン設置機
下地/地処理材
使用材料一覧
製品取り扱い

資料
消防関連
使用上の注意事項
メンテナンス
納まり図

LF改修ドレンU（非鉛製）

- 改修用二重ドレンです。鉛を使用していません。鉛の代わりに伸縮自在のアルミエキスパンドメタルをウレタンゴムで包んだシート素材を使用しています。環境に優しい新しい改修用ドレンです。
- ウレタンゴムの中にアルミエキスパンドメタルを入れることで、鉛と同様の形状保持性を確保しています。重さは改修ドレンN（鉛製）の30％程度で約800gと非常に軽く、取り扱いが容易です。
- 優れた接着性：ウレタンゴム製の為、ウレタン防水層と優れた接着性があり、一体化します。
- 改修ドレンNよりも柔らかい：ウレタンゴム＋エキスパンドメタルの組み合わせで出来ているシート部は、鉛よりも下地に追従しやすく、ハンマーを使用しなくても転圧ローラーで下地に馴染みます。
- ヨコ型ジャバラホースの先端にはVカットが施しており、ホースが縦樋に入りやすくなっています。

LF改修ドレンU タテ型



品名	外径 (mm)	内径 (mm)	筒長さ (mm)	ツバ部 [ウレタンシート] (mm)
タテ型 40φ用	φ35	φ30	180	300×300
タテ型 50φ用	φ49	φ44		
タテ型 65φ用	φ64	φ59		
タテ型 75φ用	φ74	φ69		
タテ型 90φ用	φ89	φ84		
タテ型 100φ用	φ99	φ94		
タテ型 125φ用	φ120	φ115		
タテ型 130φ用	φ129	φ124		
タテ型 150φ用	φ140	φ135		

LF改修ドレンU ヨコ型



品名	外径 (mm)	内径 (mm)	ホース 長さ (mm)	ツバ部 [ウレタンシート] (mm)
ヨコ型 40φ用	φ39.8	φ29	400	300×300
ヨコ型 50φ用	φ45.9	φ35		
ヨコ型 60φ用	φ53.5	φ41		
ヨコ型 70φ用	φ65	φ52	500	400×400
ヨコ型 80φ用	φ72.6	φ61	700	
ヨコ型 90φ用	φ85.8	φ74		
ヨコ型 100φ用	φ98.6	φ86		
ヨコ型 120φ用	φ112	φ100		
ヨコ型 130φ用	φ125.3	φ113		
ヨコ型 140φ用	φ137.2	φ126		

構成素材



材 質（シート部） |
アルミエキスパンドメタル入り
ウレタンゴムシート

材 質（パイプ部） |
タテ型＝ウレタンゴム
ヨコ型＝塩ビ製ジャバラホース

LF改修ドレン用ドレンキャップ

LFドレンキャップ タテ型



商品種別	適用配管	サイズ（mm）	入目
LFドレンキャップ タテ型（大）	60φ～140φ配管	190φ×155	2ヶ入り
LFドレンキャップ タテ型（中）	50φ～100φ配管	130φ×125	2ヶ入り
LFドレンキャップ タテ型（小）	40φ～80φ配管	105φ×35	2ヶ入り

材 質 | アルミダイキャスト
色 調 | ブラック／ライトグレー

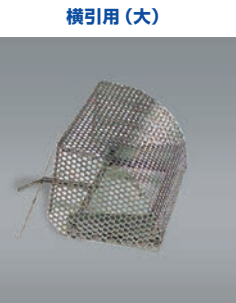
LFドレンキャップ ヨコ型



商品種別	適用配管	サイズ（mm）	入目
LFドレンキャップ ヨコ型（中）	60φ～140φ配管	150×136	2ヶ入り
LFドレンキャップ ヨコ型（小）	40φ～80φ配管	110×91	2ヶ入り

材 質 | アルミダイキャスト
色 調 | ブラック／ライトグレー

ドレンキャップ 横引用



商品種別	適用配管	サイズ（mm）	入目
ドレンキャップ 横引用（大）	50φ～140φ配管	270×196	1ヶ入り

材 質 | ステンレス（大）
色 調 | シルバー（大）

新築

工法仕様

施工条件と注意事項

改修

工法仕様

施工条件と注意事項

製品

ウレタン塗膜防水材

プライマー／トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン脱気管
下地目地処理工材

使用材料一覧

製品取り扱い

資料

消防法関連

使用上の注意事項

メンテナンス

納まり図

新築

工法仕様

施工条件と注意事項

改修

工法仕様

施工条件と注意事項

製品

ウレタン塗膜防水材

プライマー／トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン脱気管
下地目地処理工材

使用材料一覧

製品取り扱い

資料

消防法関連

使用上の注意事項

メンテナンス

納まり図

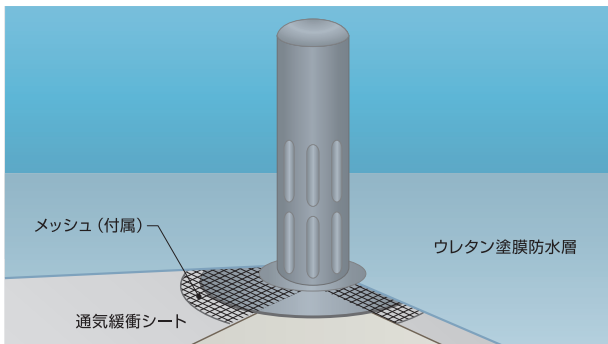
製品情報 | 脱気装置

ステンレス製脱気装置 床面設置用 ステンレスベントN

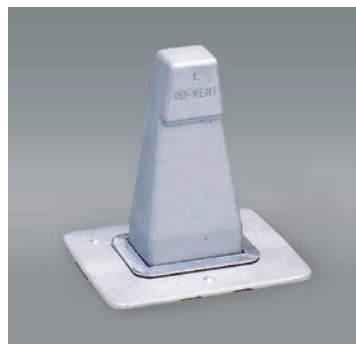


ステンレス製の床面設置用脱気装置。
錆びにくいステンレスで構成されているため耐久性に優れています。

設置割合 |
改修：100㎡に1箇所以上
新築：50㎡に1箇所以上

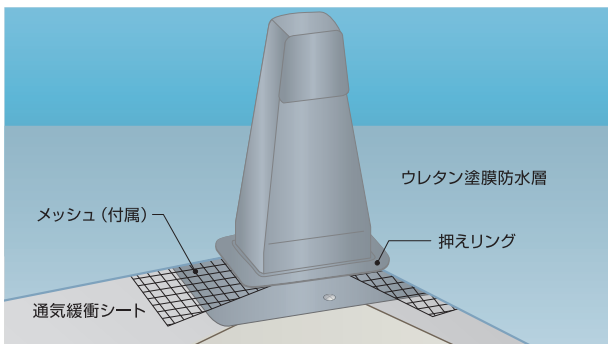


アルミダイキャスト製脱気装置 床面設置用 DDベントLA型

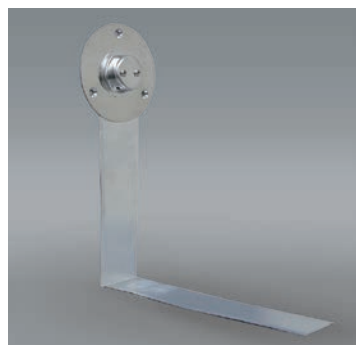


アルミダイキャスト製の床面設置用脱気装置。
最もご採用の多い脱気装置のスタンダードです。

設置割合 |
改修：100㎡に1箇所以上
新築：50㎡に1箇所以上



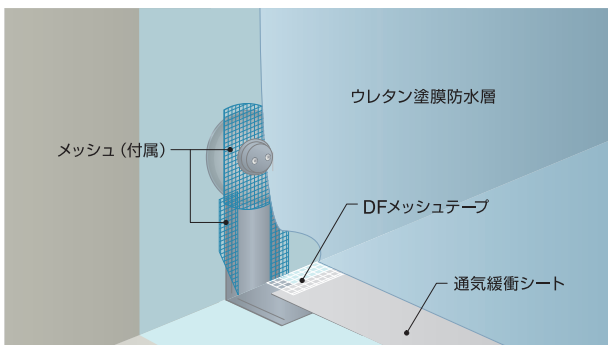
ステンレス製脱気装置 立上り設置用 ウォールベント



ステンレス製の入隅設置用脱気装置。
屋上使用上床面への脱気装置の設置が障害となる場合に効果的です。

設置割合 | 50㎡に1箇所以上

・設置する立上り（アゴがある場合はアゴ下）は、120mm以上の高さが必要です。



・金属製の脱気装置を設置する場合、避雷導線が1.5m以内に接近しないように注意してください。（建築基準法・施工令）

製品情報 | 下地処理材・目地処理材

下地調整系 エポキシ系ポリマーセメント ダブルテックスNEO

- エポキシ系だから最も高い接着力を保持し、多くの下地に対応できます。
- 鉄部の防錆処理にも使用でき、鉄部と取り合う防水面の下地処理にも使えます。
- 優れた吸水防止効果で、仮防水材としても使用可能です。



入 目 | 20kg/缶
(主材14kg/袋：A液5kg/袋：B液1kg/袋)

標準使用工具	ローラー、刷毛、左官ゴテ
塗 厚	ノロビキ～1.0mm
調合方法	硬化液A 5.0kg+硬化液B 1.0kg +主材14kg+水0～0.8ℓ 調合した材料は1時間以内で使用してください。

下地調整系 1材型カチオンフィラー（コテ・ローラー兼用） Dワン・カチオン

- セメント系粉体とカチオン系粉末樹脂を予め適量混合した1材型で、各種の下地に対して安定した接着力を発揮します。
- 現場で使いやすい1材型。ノロビキから2.0mm程度まで対応可能です。



入 目 | 20kg/袋

標準使用工具	ローラー、刷毛、左官ゴテ
塗 厚	ノロビキ～2.0mm
調合方法	コテ塗り:主材20kg+水5～6ℓ 刷毛・ローラー塗り:主材20kg+水8～9ℓ 調合した材料は1時間以内で使用してください。

伸縮目地処理材 ガラス発泡骨材入りポリマーセメントモルタル MGタイト

MGタイトは、樹脂モルタルにガラス発泡骨材を配合した通気緩衝工法専用の目地処理材です。押えコンクリート層の熱膨張などにより目地幅が狭められると、目地材に混入された骨材が砕け、目地方向に集中した応力を吸収します。このため、新規防水層施工後に起こる目地部での盛り上がりを防止します。
※20mm以上の目地深さが必要です。 ※密着工法には使用できません。

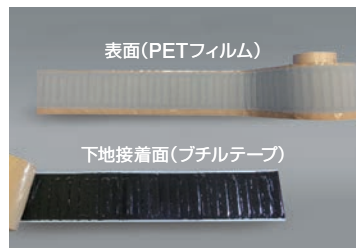


入 目 | A剤4kg/ポリ容器
B材10kg/袋
C材20kg/袋

MGタイト配合表		1セット当たりの施工目安	
材料	配合比	充填サイズ 施工	長さ
MGタイトA剤	2	20mm×20mm	約76m
MGタイトB材	5	20mm×30mm	約50m
MGタイトC材	10	30mm×30mm	約33m
水	2		

伸縮目地処理材 伸縮目地処理用テープ MGテープ

- 既存伸縮目地部のキャップを外し、プライマー塗布後「MGテープ」を張るだけで目地処理が完了します
- テープに組み込まれた金属板によって、伸縮目地を平滑にします
- 裏面の自着層が伸縮目地の動きを緩衝し平滑性を維持します
- テープの裁断は金属板の組み込まれていない任意の部分で、容易に裁断できます
- 通気緩衝シートとの接着が良好です



規 格

寸 法 | 幅100mm×長さ15m /巻

材 質	粘着付きPETフィルム（PET、アクリル接着剤100mm） 自着層（ブチルゴム系粘着材90mm） 金属片（ガルバニウム鋼板70×10×0.4mm） 離型紙（110mm）
厚 み	約1mm
重 量	約3kg/巻
色	グレー

製品情報 | 下地処理材

■ 下地処理適応表

【記号の見方】 ○適用可 ×適用不可 △条件により適用

適用下地	Dシリーズ	ダブルテックスNEO	Dワン・カチオン
	アスファルトコンクリート	△	△
	モルタル	○	○
	コンクリート	○	○
	レンガ	○	○
	ALC	○	○
	プレキャストコンクリート (PCa)	○	○
	スレート	○	○
	大理石	×	×
	花崗岩	○	○
	鉄	○	×
	アルミニウム	×	×
	ステンレス	△	×
	銅	×	×
	鉛	×	×
	エポキシ	○	×
	ウレタン	○	×
	FRP	△	×
	アクリルゴム	○	×
	塩化ビニルシート	×	×
	ブチルゴム	×	×
	加硫ゴム	×	×
	フッ素	×	×
	陶器質タイル	○	○
	磁器質タイル	○	×
	サイディングボード	○	○
	珪酸カルシウム板	○	×
	アスファルト	○	×
	ガラス	○	×

※下地素材の状況により接着強度が変わる場合があります。

新築

工法仕様

施工条件と
注意事項

改修

工法仕様

施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

フライマイン
トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン脱臭機
下地目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消法関連

使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

新築

工法仕様

施工条件と
注意事項

改修

工法仕様

施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

フライマイン
トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン脱臭機
下地目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消法関連

使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

使用材料一覧

製品区分	品 名	荷姿・入目	適 用
プライマー	DSプライマー・エコ	16kg／缶	コンクリート、モルタル下地用1成分形ウレタン樹脂プライマー（弱溶剤系 ^{※3} ）
	層間プライマー E	14kg／缶	既存ウレタン、既存塩化ビニル樹脂シート下地、及び塩化ビニル樹脂被覆鋼板用1成分形ウレタン樹脂プライマー（弱溶剤系 ^{※3} ）
	オープライマー	16kg／缶	コンクリート、モルタル、既存ゴムシート下地用2成分形エポキシ樹脂プライマー（水系）
	プライマー PW-F	12kg／セット	コンクリート、モルタル、及び金属下地用2成分形エポキシ樹脂プライマー（溶剤系 ^{※2} ）
	層間プライマー J	12kg／セット	既存ウレタン下地用2成分形ウレタン樹脂プライマー（溶剤系 ^{※2} ）
	FUプライマー	8kg／セット	ポリエステル樹脂トップコート下地用2成分形ウレタンポリエステル樹脂プライマー（溶剤系 ^{※2} ）
	ダイナベース ^{※2}	20kg／缶	既存砂付きアスファルト下地用1成分形アスファルト系下地活性化剤
	W-1	20kg／セット	HGコート用2成分形エポキシ樹脂プライマー（溶剤系 ^{※2} ）
	プライマー JW ^{※1}	24kg／セット	コンクリート、モルタル下地用2成分形エポキシ樹脂プライマー（無溶剤系）
シート	自着シートライトSP	1m×15m／巻	自着層付ポリエステル不織布系通気緩衝シート
	自着シート	1m×15m／巻	自着層付改質アスファルトシート系通気緩衝シート
	ランスロックシート	1m×15.8m／巻	アスファルトシート系通気緩衝シート
超速硬化ウレタン防水材	エバーコートSP-100	390kg／セット	2成分形超速硬化ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形、高強度形 共用認証品
	スプレートナー		
	エバーコートSP-100（小分け）		
	スプレートナー（小分け）	35.4kg／セット	2成分形超速硬化ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用認証品
	エバーコートSP-200	390kg／セット	
	スプレートナー		
	エバーコートSP-200（小分け）	35.4kg／セット	2成分形超速硬化ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用認証品
	スプレートナー（小分け）		
	ブラマックス500	390kg／セット	2成分形超速硬化ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用認証品
	MQCトナー		
	ブラマックス500（小分け）		
	MQCトナー（小分け）	35.4kg／セット	2成分形超速硬化ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用同等品
	ブラマックス450P（ND）	384kg／セット	
	ブラマックス450P（ND）専用トナー		
	ブラマックス450P（ND）（小分け）	34.5kg／セット	2成分形超速硬化ウレタン防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用同等品
	ブラマックス450P（ND）専用トナー（小分け）		
PM-5000	390kg／セット	2成分形超速硬化ポリウレア防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用同等品	
PM-5000専用トナー			
PM-5000（小分け）			
PM-5000専用トナー（小分け）	35.4kg／セット		
ウレタン防水材	エバーコートZero-1 H	18kg／缶	1成分形ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形平場用認証品
	エバーコートZero-1 H 立上り用	18kg／缶 8kg／缶	1成分形ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形立上がり用認証品
	エバーコートZero-1 H 中粘度	18kg／缶	1成分形ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形平場用認証品
トップコート	DSトップ・ゼロ	15kg／セット	2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（弱溶剤系 ^{※3} ）
	ASTトップ・ゼロ	15kg／セット	2成分形アクリルシリコン樹脂トップコート（弱溶剤系 ^{※3} ）
	フッ素スーパートップ・ゼロ	10kg／セット	2成分形フッ素樹脂トップコート（弱溶剤系 ^{※3} ）
	SQトップ・ゼロ	15kg／セット	2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（弱溶剤系 ^{※3} ）速乾タイプ
	オートップ・ワン	15kg／缶	1成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（水系）
	エクセルトップ	14kg／セット	2成分形ハルスタイプアクリルウレタン樹脂トップコート（溶剤系 ^{※2} ）
	HGコート ^{※2}	20kg／缶	1成分形無機質調アクリルシリコン樹脂トップコート（水系） 厚塗り高耐久保護仕上げ
	粗面仕上材	0.5kg／袋／箱	粗面仕上材
	エストップ#20	1kg／袋	粗面仕上げ用ウレタンチップ
	エストップ#40	1kg／袋	粗面仕上げ用ウレタンチップ

製品区分	品 名	荷姿・入目	適 用
副資材	US環境キシャク剤	12kg／缶	環境対応型ウレタン塗膜防水材用希釈剤
	USキシャク剤 ^{※2}	15kg／缶	ウレタン塗膜防水材用希釈剤
	Tルーファンカー	300本／箱	ランスロックシート固定用アンカーピン（40mm・70mm）
	ハードエッジドライブHDF	65本／バック（45mm） 45本／バック（60mm） 40本／バック（75mm） 25本／バック（90mm） 23本／バック（100mm） 100本／箱（120mm） 100本／箱（150mm） 100本／箱（180mm）	ランスロックシート固定用ネジ （45mm・60mm・75mm・90mm・100mm・120mm・150mm・180mm）
	Tルーフワッシャー	300枚／箱	ハードエッジドライブHDF用ワッシャー
	Tルーフスリーブ	300個／箱	固定用金物（5mm・20mm・25mm・30mm・35mm・40mm）
	ランスロックキャントN	2m／本	機械固定工法用周囲補強金物（30-40-30・30-100-30）
	ランスロックキャントN コーナー用	2枚／組	機械固定工法用周囲補強金物コーナー材（40mm・100mm）
	TルーフプレートA型	2m／本	機械固定工法用周囲補強金物（アルミ製フラットバー）
	アルミサスアンカー	100本／箱	ランスロックキャントN、TルーフプレートA型用固定アンカーピン
	シーカフレックス11FC Quick	320ml×10本／箱 （2箱PP掛け）	1成分形ポリウレタン系シーリング材 速乾タイプ
	ジョイントテープTM	100mm×50m／巻	通気緩衝シート用ジョイントテープ
	DFメッシュテープ	100mm×50m／巻	通気緩衝シート用端末補強テープ、 ランスロックシート用ジョイントテープ
	ダイワテープS	100mm・200mm×100m／巻	通気緩衝シート用（PASシート#180のみ）端末補強布
	FJテープ	50mm・70mm・100mm・150mm・200mm ×20m／巻	ランスロックキャントN、TルーフプレートA型用絶縁テープ、 金属屋根接合部絶縁用テープ
	キレールテープ	55mm×30m／巻	パラベットアゴ部用粘着層付水切りテープ
	ドレンキャップ 横引用	1個／箱	LF改修ドレンU用ストレーナキャップ（大）
	LF改修ドレンU タテ型・ヨコ型	2個／箱	非鉛製改修工事用ドレン
	LFドレンキャップ タテ型・ヨコ型	2個／箱	LF改修ドレンU用ストレーナキャップ（中・小）
	ステンレスバントN	2個／箱	ステンレス製脱気装置 床面設置用
	DDベントLA型	1個／箱	アルミダイキャスト製脱気装置 床面設置用
	ウォールベント	5個／箱	ステンレス製脱気装置 立上り設置用
	ソーラーベント	1個／箱	ソーラー稼働型脱気装置
	パワークロンG	25kg／袋	骨材
	パワークロンG 3号	25kg／袋	骨材
	SPLエマルジョン100	18kg／缶	仮固定用1成分形アクリル系接着剤（水系）
下地処理材／ 目地処理材	ダブルテックスNEO	20kg／缶	防水下地調整用エポキシ系ポリマーセメント
	Dワン・カチオン	20kg／袋	防水下地調整用1材型カチオンフィラー
	MGタイト	34kg／セット	ガラス発泡骨材入りポリマーセメントモルタル
	MGテープ	100mm×15m／巻	伸縮目地処理用テープ

※1 プライマー JWの適用条件については、担当営業までお問い合わせください。
※2 エチルベンゼン、メチルイソブチルケトン、スチレン、ジクロロメタンのいずれかが含まれているため屋内で使用する場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。（HGコートには含まれていませんが、HGコート用プライマー「W-1」にエチルベンゼンが含まれています。）
※3 弱溶剤系とは、トルエンやキシレンの他、有機溶剤中毒予防規則の対象物質を配合していないことを言います。

新築

工法仕様

施工条件と
注意事項

改修

工法仕様

施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー／
トップコート／
通気緩衝シート
その他

ドレン・脱気装置
下地・目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消防法関連

使用上の
注意事項

メンテナンス

納まり図

新築

工法仕様

施工条件と
注意事項

改修

工法仕様

施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー／
トップコート／
通気緩衝シート
その他

ドレン・脱気装置
下地・目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い
注意事項

資料

消防法関連

使用上の
注意事項

メンテナンス

納まり図

新薬	
工法仕様	
施工条件と注意事項	
改修	
工法仕様	
施工条件と注意事項	
製品	
ウレタン塗膜防水材	
プライマー／トップコート／その他	通気緩衝シート
下地／自己処理材	ドレン部装置
使用材料一覧	
製品取り扱い注意事項	
資料	
消防法関連	
使用上の注意事項	
メンテナンス	
納まり図	

■ 製品の取り扱いに関する注意事項

使用製品については事前にSDS※（安全データシート）や製品説明書を入手の上よく理解し、運搬や貯蔵・保管、危険性または有害性の情報が確実に作業者に伝達され、適切な管理と取扱いによって事故を防止するように周知徹底を心掛けてください。

※SDSについては、当社ホームページよりダウンロードいただけます。

く 使用材料・機器の保管および取扱い

- 労働安全衛生法特定化学物質障害予防規則（特化則）対象の特定化学物質が含まれている製品を取り扱う場合は、同規則に従って施工を行ってください。なお具体的な対応は一般社団法人建築防水安全品質協議会著「特定化学物質障害予防規則に対応したウレタン塗膜防水工事指針」をご参照ください。
- 労働安全衛生法およびその関連法規に健康管理上の規制が定められています。
とくに通風・換気条件の悪い場所での取り扱いに関しては、機械的換気を行う等の措置をとる必要があります。
- 消防法およびその関連法規に火災安全上の規制が定められています。
各規制を十分に調査し必要な手続きをとる一方、火災予防のため施工中に近接した箇所での火気を使用する作業は避け、また使用材料は密封状態で貯蔵・保管し、火気に充分注意してください。（消防法で規制される保管量につきましては次頁をご参照ください。）
- 使用材料は変質劣化を防止するために直射日光や風雨に晒される場所を避け、密封した状態で冷暗所にて貯蔵・保管してください。
- 材料の貯蔵・保管場所へは作業者以外の立ち入りを禁止し、また荷崩れ防止（縦積み3段まで）や火気厳禁等の安全対策を講じてください。
- 不織布シートや断熱材、紙包装・段ボール入りの製品は水に濡れないように注意してください。
- 開封後残った材料は確実に閉栓し、その後は速やかに使い切ってください。
- エマルション形の製品は凍結する恐れがあるため、5℃以下の低温にならないように貯蔵・保管してください。
- 使用材料の運搬および揚げ降しの際は落下事故を防止するよう充分に注意してください。
また容器の取っ手に極端な負荷を掛けると外れる恐れがあります。電動ウィンチ等で揚げ降しを行う場合は必ずキャリー等を使用してください。
- 吹付け機や攪拌機、計量台秤等の機器は使用する前に正常に作動することを確認してください。
- コテ・ハケ・ローラー等の道具に異物や異種材料等が付着していると不具合発生の原因となります。使用後は廃棄またはよく洗浄するようにしてください。

く 作業環境

- 施工時の気象条件には充分注意し、降雨・降雪時またはこれらが予想される場合は施工しないでください。
- 著しく気温が高い場合、とくに直射日光のあたる部位では下地表面の温度が気温より高くなる場合が多いため作業を中止するか、材料の硬化状況に充分注意しながら施工してください。
- 著しく気温が低い場合、とくに長時間日陰となる部位では下地表面の温度が気温より低くなる場合が多く、材料の反応硬化が著しく遅くなることもあるため作業は避けてください。
- 著しく湿度が高い場合や通風・換気条件の悪い場所での施工は、材料の乾燥状況と結露の発生に充分注意しながら施工してください。
- 施工の際には周囲への飛散・汚染の防止に必要な養生を確実に行ってください。
- 強風時は充分な養生ができないだけでなく、周辺を汚染する恐れがあるため作業は避けてください。
- 施工時にはヘルメット・保護手袋・安全靴・保護メガネ・防塵・防毒マスクの防護対策を確実に行之、さらに安全帯を着用してください。
- 施工用の装置・機器等はできるだけ施工箇所付近に設置し整理・整頓を心掛け、また作業者以外が立入らないようにしてください。

く 防水層の損傷防止

- 施工中また施工直後は防水層の損傷を防止するために硬化状況をよく確認するとともに、以下のような状況では適切な保護養生を行うよう、関連工事関係者への注意を徹底してください。
 - ・火花の散る恐れのある作業
 - ・運搬車の通過や梯子・脚立等の使用
 - ・器具・設備等の取付け

く その他

- 施工で発生する残材および廃材・廃液は整理・分別をし、所定の手続きを行った上で公認の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理してください。

資料

Reference materials

消防法関連

■ 消防法における危険物の取り扱いについて

- 指定数量以上の危険物を作業現場で臨時に貯蔵したり取り扱う場合には、所轄の消防本部または消防署長に、また消防本部等のない市町村では市町村長に申請して、仮貯蔵や取扱いの承認を受ける必要があります。
- 危険物品名を異にする2以上の危険物を同一の場所で貯蔵したり取り扱う場合にも、品名ごとの数量をそれぞれの指定数量で除して、その商の和が1以上になるときは、指定数量以上危険物を貯蔵し、または取り扱っているものとみなされます。
- 危険物品名を異にする2以上の危険物の貯蔵も、類別毎にまとめて、それぞれ1m以上の間隔を置けば同時に貯蔵することができます。
- 指定数量の1/5以上、1未満の危険物の貯蔵取扱い、市町村の火災予防条例により規制の対象となるため、所轄の消防署に届け出る必要があります。
- 指定可燃物とは、「わら製品、木毛その他の物品で火災が発生した場合にその拡大が速やかであり、又は消火の活動が著しく困難となるもの」として政令で定めるもの」をいいます。
- 指定可燃物が指定数量1以上の場合には、市町村条例により、所轄の消防本部または消防署長に届け出る必要があります。

種 別		指定数量
第4類 第1石油類		200リットル（非水溶性）
		400リットル（水溶性）
第4類 第2石油類		1,000リットル（非水溶性）
		2,000リットル（水溶性）
第4類 第3石油類		2,000リットル（非水溶性）
		4,000リットル（水溶性）
第4類 第4石油類		6,000リットル

＜ 危険物の計算例 ＞

SPM-200工法・1,000㎡相当で使用する材料を施工現場にて貯蔵する場合

(1) 材料積算にて各使用材料の数量(缶)を出した後、下記のようにそれぞれの貯蔵量(ℓ)を算出します。

使用材料		区分		数量 (缶またはドラム)	入目(kg) ①	液比重 ②	貯蔵量(ℓ) 数量×①÷②
プライマー PW-F	主剤	第4類 第1石油類 非水溶性		13	6	1.0	87
	硬化剤	第4類 第1石油類 非水溶性		13	6	0.9	98
エバーコートSP-100	A剤	第4類 第4石油類		6	200	1.1	1,090
	B剤	第4類 第3石油類 非水溶性		6	175	1.0	1,050
	スプレートナー	第4類 第4石油類		6	15	1.0	90
SQトップ・ゼロ	主剤	第4類 第2石油類 非水溶性		14	6	0.9	94
	硬化剤	第4類 第2石油類 非水溶性		14	9	1.2	105

(2) 上記(1)の貯蔵量(ℓ)を危険物区分ごとにまとめ、それぞれの指定数量で除した(割り算)数値の合計を算出します。
合計の数値が「1以上」である時は指定数量以上の危険物を貯蔵し、または扱っているものとみなされます。

第4類 第1石油類 非水溶性	185	÷	200	=	0.925
第4類 第2石油類 非水溶性	199	÷	1,000	=	0.199
第4類 第3石油類 非水溶性	1,050	÷	2,000	=	0.525
第4類 第4石油類	1,180	÷	6,000	=	0.197
合計	1,846				

上記の例では指定数量の合計が「1以上」となるため、指定数量以上の危険物の貯蔵となります。

指定数量以上の貯蔵・取扱いは甲種または乙種4類危険物取扱者を任命し、危険物の取扱いに関し保安監督させる必要があります。

※詳細については、所轄の消防本部または消防署長にご確認ください。

■ 消防法区分・特化則対象一覧

製品名		入目(kg) ①		消防法関係		特化則対象
		通常	小型	危険物区分	液比重 ②	
エバーコートSP-100	A剤	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	B剤	175	16	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	スプレートナー	15	1.4	第4類第4石油類	1.0	
エバーコートSP-200	A剤	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	B剤	175	16	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	スプレートナー	15	1.4	第4類第4石油類	1.0	
ブラマックス500	A剤	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	B剤	175	16	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	MQCトナー	15	1.4	第4類第4石油類	1.0	
ブラマックス450P (ND)	A剤	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	B剤	170	15.3	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	専用トナー	14	1.2	第4類第4石油類	1.0	
PM-5000	A剤	200	18	第4類第4石油類	1.1	対象外
	B剤	175	16	第4類第3石油類 非水溶性	1.0	
	専用トナー	15	1.4	第4類第4石油類	1.1	
エバーコートZero-1 H		18	－	第4類第3石油類 非水溶性	1.3	対象外
DSプライマー・エコ		16	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.0	対象外
層間プライマーE		14	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.0	対象外
オープライマー	主剤	8	－	非危険物	1.1	対象外
	硬化剤	8	－	非危険物	1.0	
プライマー PW-F	主剤	6	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	室内工事は対象 (主剤：エチルベンゼン)
	硬化剤	6	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
層間プライマーJ	主剤	6	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	対象外
	硬化剤	6	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
FUプライマー	主剤	4	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.8	室内工事は対象 (硬化剤：スチレン)
	硬化剤	4	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
ダイナベース		18	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.6	室内工事は対象(エチルベンゼン)
W-1	主剤	10	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	室内工事は対象 (主剤：エチルベンゼン)
	硬化剤	10	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
DSトップ・ゼロ	主剤	6	－	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
	硬化剤	9	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
ASトップ・ゼロ	主剤	6	－	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
	硬化剤	9	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
フッ素スーパートップ・ゼロ	主剤	4	－	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
	硬化剤	6	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
SQトップ・ゼロ	主剤	6	－	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
	硬化剤	9	－	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
オートップ・ワン		15	－	非危険物	1.1	対象外
エクセルトップ	主剤	6	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	室内工事は対象(エチルベンゼン、※メチルイソブチルケトン (グリーン系のみ))
	硬化剤	8	－	第4類第1石油類 非水溶性	1.2	
HGコート		20	－	非危険物	1.5	対象外
SPLエマルジョン100		18	－	非危険物	1.0	対象外
US環境キシャク剤		12	－	第4類第1石油類 非水溶性	0.8	対象外
USキシャク剤		15	－	第4類第2石油類 非水溶性	0.8	室内工事は対象(エチルベンゼン)
通気緩衝シート、メッシュ、テープ類		消防法の危険物に該当しません。				

※上記の数値は予告なく変更する場合がございます。必ず最新版のSDSをご確認ください。

※グレーおよびライトグレーのみ第4類第2石油類非水溶性になります。

新築
工法仕様
施工条件と 注意事項

改修
工法仕様
施工条件と 注意事項

製品
ウレタン 塗膜防水材
プライマー／ トップコート
その他 通気緩衝シート
ドレン 脱臭機
下地 自己処置材
使用材料一 覧
製品取 扱い

資料
消防法関連
使用上の 注意事項
メンテナンス
納まり図

新築
工法仕様
施工条件と 注意事項

改修
工法仕様
施工条件と 注意事項

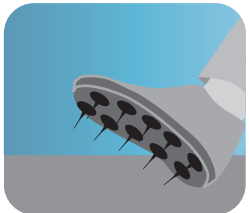
製品
ウレタン 塗膜防水材
プライマー／ トップコート
その他 通気緩衝シート
ドレン 脱臭機
下地 自己処置材
使用材料一 覧
製品取 扱い

資料
消防法関連
使用上の 注意事項
メンテナンス
納まり図

使用上の注意事項

防水施工後の使用について注意事項が記載されています。
コピーの上、建物管理者様にお渡しください。

■ 次の行為は避けてください。(禁止事項)



スパイクシューズ等接地面の鋭利な履き物で歩行しないでください。



防水層は可燃性なので、火気を使用しないでください。(タバコや花火等)

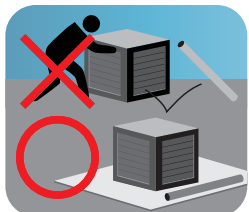


溶剤、ガソリン、不凍液等溶解力のある液剤をこぼさないでください。

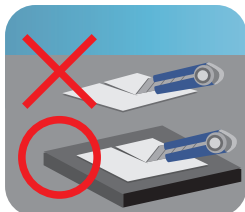


防水層を損傷してしまうため、ゴルフの練習等は行わないでください。

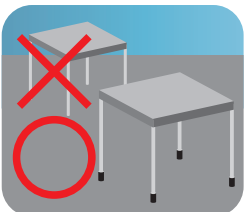
■ 次の場合は対策を打ってください。(対策必要事項)



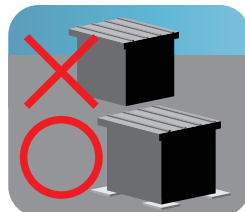
重量物を引きずったり、鉄パイプ等角の鋭利な物を落とさないでください。



カッターナイフ等鋭利な物で作業する際は合板等で十分養生し、防水層を傷付けないようにしてください。



接地面にパイプ状のイスやテーブルを置く場合は、脚先をゴムキャップ等でカバーしてください。



角のある物を置く場合は、間にゴム板等を敷いて養生してください。

■ 次の点には注意してください。(注意事項)



表面が濡れていると滑りやすいので、雨天および降雨後の歩行は注意してください。



クーリングタワーの防藻剤や殺菌剤の種類によっては、防水層を痛める恐れがあるため、薬剤メーカーに確認の上ご使用ください。



防水層を清掃する際は、中性洗剤以外は使用しないでください。モップ等のやわらかい清掃用具で行ってください。

植木鉢を置く場合は鉢下に水が溜らぬよう設置してください。長時間の水溜りは防水層の劣化を促します。

設備工事の際、設置の都合で防水層を切断したり、あるいは傷付けて漏水事故につながるケースは少なくありません。設備工事や増設工事を実施される場合は、施工業者あるいは弊社にご相談ください。

防水層の上で犬や猫などのペットを飼わないでください。

定期的なメンテナンス・点検のお願い

防水層を良好に維持することが建物を長持ちさせるポイントです。
ここでは、建物を管理される方におすすめする維持管理の方法をご紹介します。

■ 定期的にドレンを清掃してください。 目安 2回以上/年

飛来した砂塵や枯葉がドレンに詰まってプール状になることがありますが、この状態で放置しておくと防水層の劣化を促進させてしまいます。
お客様にとって大切な資産だからこそ、定期的な清掃をおすすめします。
立地環境により一概には言えませんが、梅雨前の6月、枯葉が飛来する11月に確認するのがよいでしょう。
ただし、建物の周辺に公園や田畑がある場合は飛来物が多量になるため、お客様の建物に合わせて清掃回数を増やしてください。



■ 定期的に防水層の状態を確認してください。 目安 1回以上/年

防水層の定期点検は、人間に例えると定期検診と同じです。
定期的に健康状態を確認し、万一、病状にかかっている場合でも早期発見・早期治療で健康を確保できます。
定期清掃に合わせて、次のポイントをお確かめください。

- 防水層に破断が生じていないか。
- 防水層の端末が剥がれていないか。
- 防水層にフクレが生じていないか。
- シーリングの口開きが生じていないか。
- トップコートが消失していないか。

万一、不具合が発見された場合は、営業担当までご連絡ください。
お電話で内容を確認させていただいた上、必要に応じて点検員がお伺いいたします。



■ 防水保証の考え方

- 施工に起因する場合は、工事を請け負った元請業者ならびに施工業者の責任とします。
- 材料品質に起因する場合は、材料製造業者の責任とします。
- 但し、次の場合は免責とします。
 1. 天災地変、火災、爆発、飛来物、地盤の変動等、その他の不可抗力による場合。
 2. 使用者が善良な管理者としての管理維持を行わなかった場合、また契約時の使用目的と異なる使用方法を採った場合。
 3. 防水施工業者以外の作業員の作業によって生じた場合、または火災、爆発、飛来物等防水施工者側に原因せぬことが明らかである場合。
 4. 発注者が防水施工業者の提案を拒否して採用させた設計、施工方法、資材等による工事の場合。
 5. 故障部分について、防水施工業者(防水施工業者が認めた業者を含む)以外の者が補修を行った後に生じた場合。
 6. 故障の原因究明が、通常の方法によっては困難と認められる場合。
- P.73「使用上の注意事項」を守らず、それが原因で生じた漏水事故については、責任を負いかねますので、ご注意ください。
- 防水保証の詳細については当社営業にお問合せください。

■ 防水層のメンテナンスについて

防水層は紫外線の影響により劣化進行します。早めの改修対策により経済的に防水層を維持することができます。
参考に防水層の劣化のしかたと劣化度を示します。

〈 防水層の劣化のしかたと劣化度 〉

劣化度1
トップコートの表面が紫外線劣化により白垂化。
防水層の保護塗料であるトップコートがその機能を発揮することで、トップコート表面が粉化する現象。劣化の初期症状といえますが、ひび割れもしくは磨耗にてウレタン層が露出するまでは防水機能に大きな影響はありません。

劣化度2
表面のトップコートに微細な亀裂が発生。
防水層の劣化が急激に進行するシグナルともいえる時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。

劣化度3
亀裂幅が広がり亀裂の数も増加。
ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。

劣化度4
トップコートが磨耗してウレタン層が露出。
ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。

劣化度5
トップコートが消失し、ウレタン層の紫外線劣化が進行してクレター状に。
ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。

劣化度6
ウレタン層が消失し、通気緩衝シートが露出。
この症状が床面積の高割合を占めるとオーバーレイ改修が不可能です。 機械的固定工法あるいは既存防水撤去後に改修することになります。

新築

工法仕様
施工条件と
注意事項

改修

工法仕様
施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー/
トップコート/
その他

通気緩衝シート

ドレン脱装機
下地自地処理材

使用材料一覧
製品取り扱い

資料

消防法関連
使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

納まり図

新築

工法仕様
施工条件と
注意事項

改修

工法仕様
施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー/
トップコート/
その他

通気緩衝シート

ドレン脱装機
下地自地処理材

使用材料一覧
製品取り扱い

資料

消防法関連
使用上の
注意事項

メンテナンス
保証

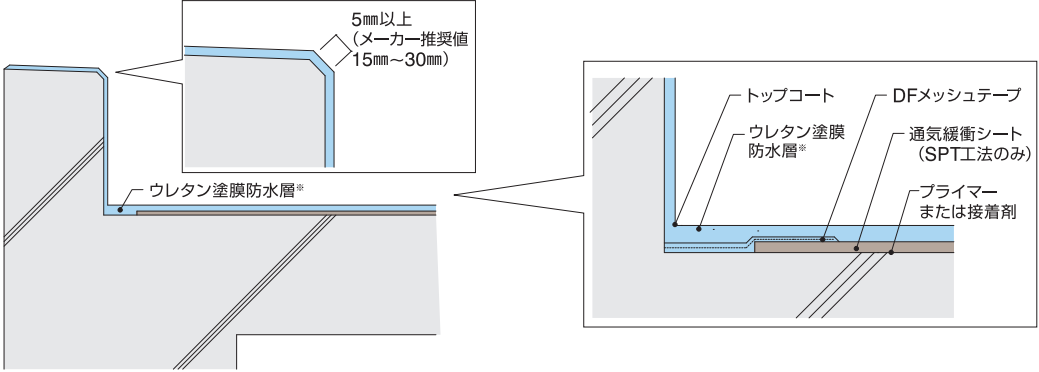
納まり図

納まり図

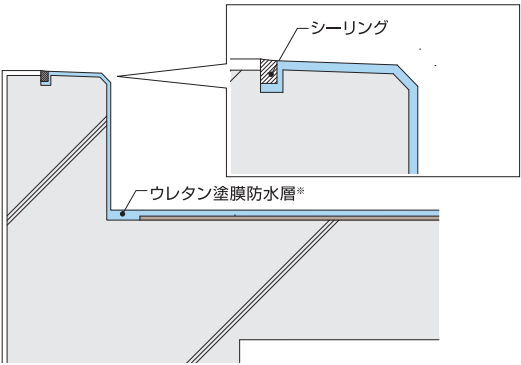
ここに掲載する納まりは一般的な代表例です。
現場の諸条件や下地の状況に応じた納まりの検討が必要となります。

※ウレタン塗膜防水層
[SPT/SPM] エバーコートSP-100
[UPM] エバーコートZero-1H+ブラマックス500
[V-UF] エバーコートZero-1H+PM-5000

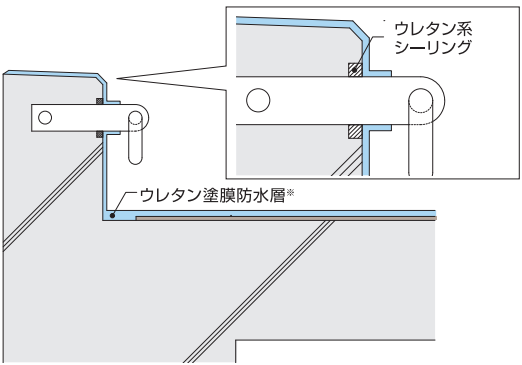
パラペット



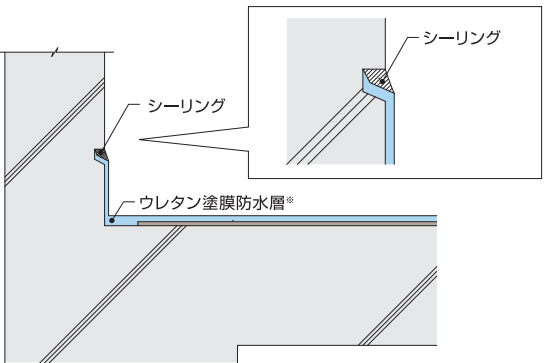
パラペット タイル取り合い



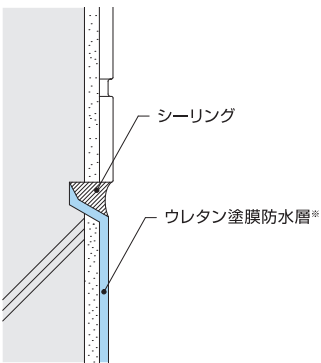
パラペット 丸環まわり



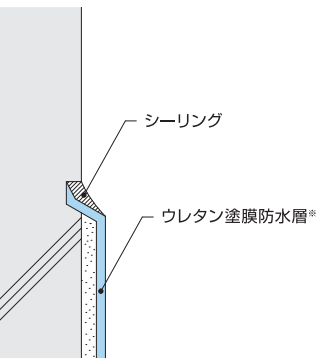
立上り 目地設置



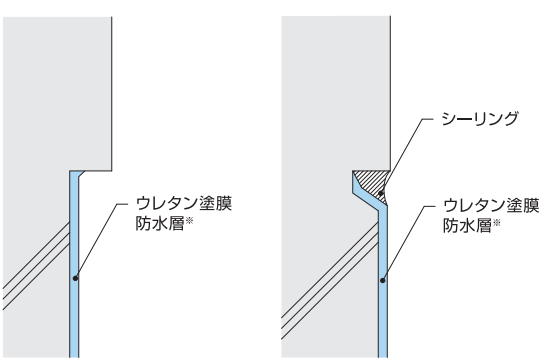
タイル壁取り合い



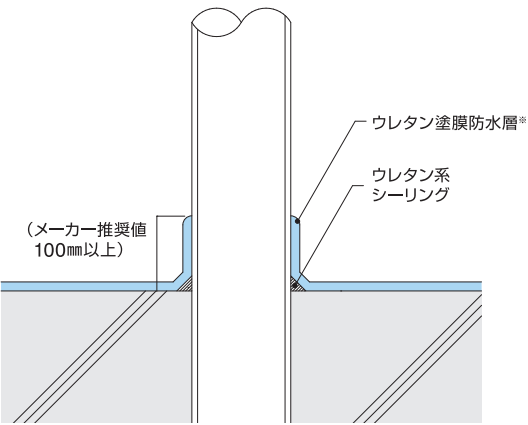
出巾木



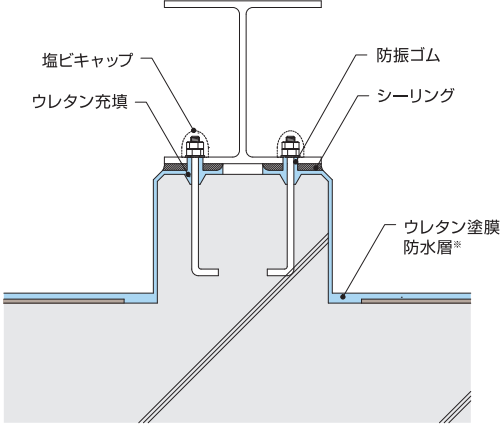
入巾木



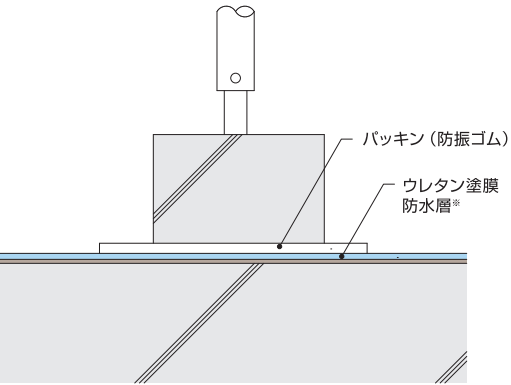
貫通パイプ



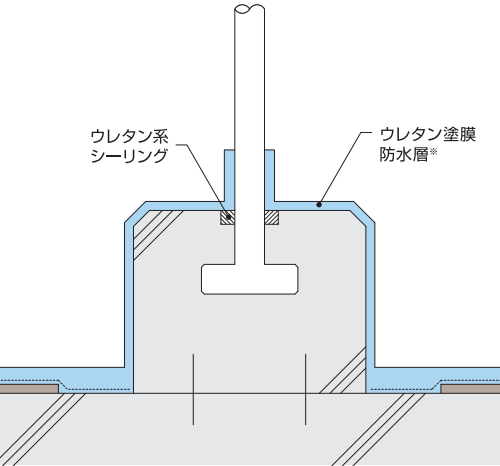
基礎架台



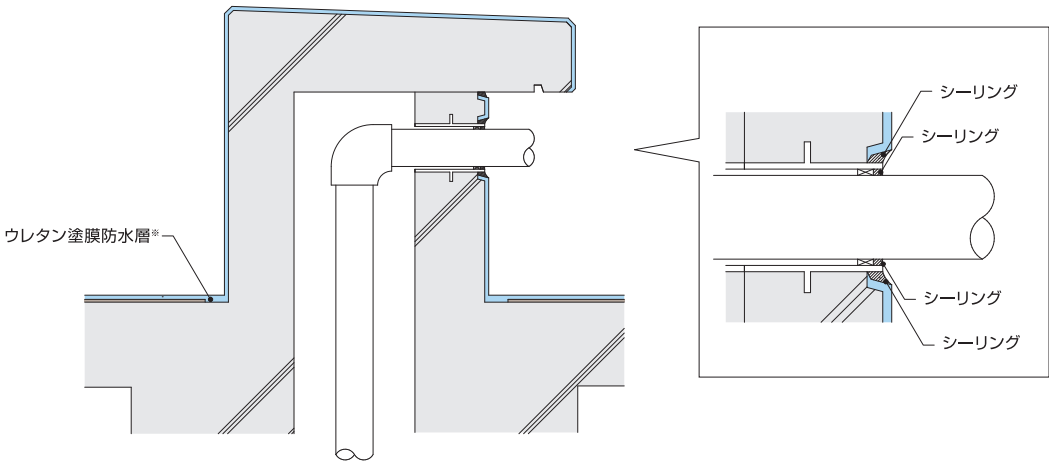
置基礎



フェンス基礎



ハト小屋



新築

工法仕様

施工条件と
注意事項

改修

工法仕様

施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー
トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン
下地目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い

資料

消防関連

使用上の
注意事項

メンテナンス

納まり図

新築

工法仕様

施工条件と
注意事項

改修

工法仕様

施工条件と
注意事項

製品

ウレタン
塗膜防水材

プライマー
トップコート

通気緩衝シート
その他

ドレン
下地目地処理材

使用材料一覧

製品取り扱い

資料

消防関連

使用上の
注意事項

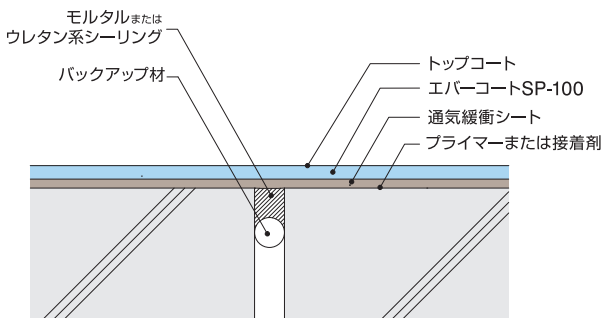
メンテナンス

納まり図

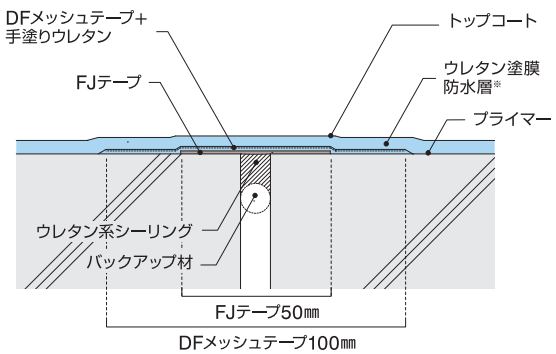
納まり図

ここに掲載する納まりは一般的な代表例です。
現場の諸条件や下地の状況に応じた納まりの検討が必要となります。

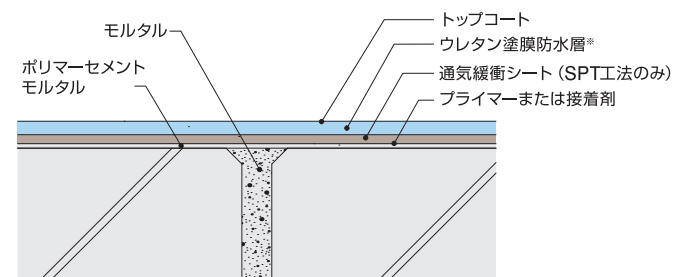
PCa板取り合い（通気緩衝工法の場合）



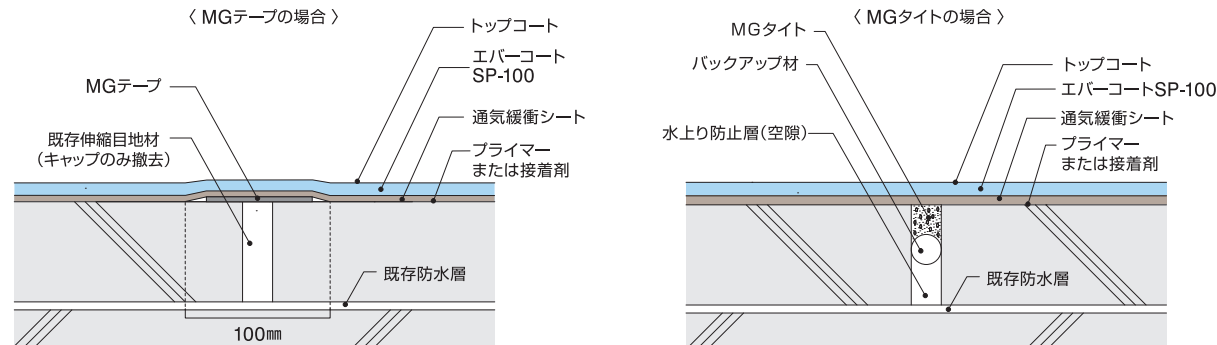
PCa板取り合い（密着・複合密着工法の場合）



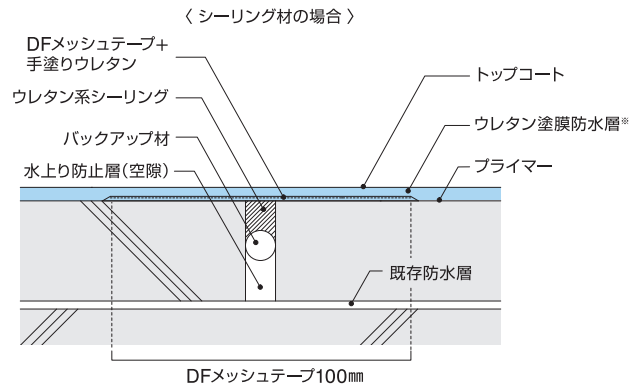
ALC板取り合い



押えコンクリート伸縮目地部（通気緩衝工法の場合）

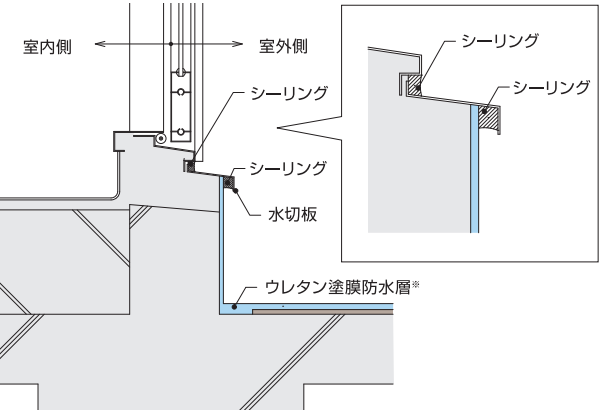


押えコンクリート伸縮目地部（密着・複合密着工法の場合）

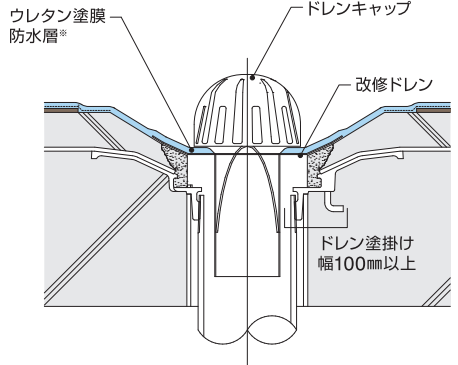


※ウレタン塗膜防水層
[SPT/SPM] エバーコートSP-100
[UPM] エバーコートZero-1H+プラマックス500
[V-UF] エバーコートZero-1H+PM-5000

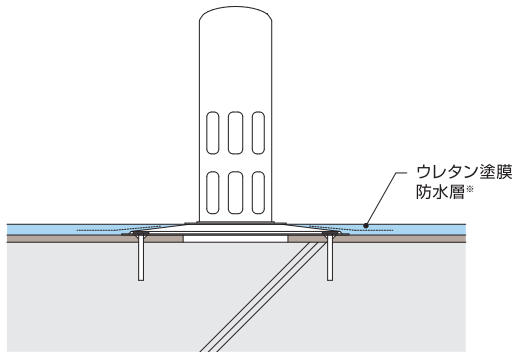
開口部



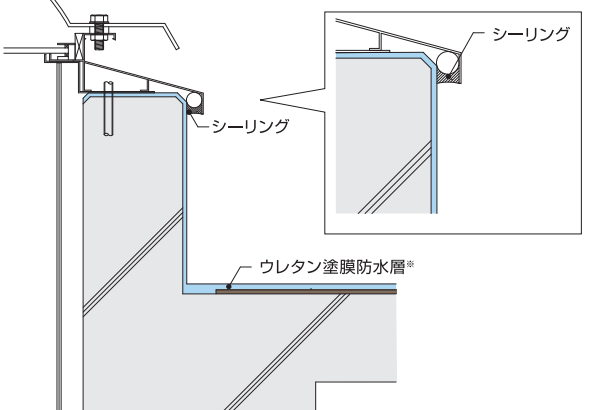
LF改修ドレンU タテ型



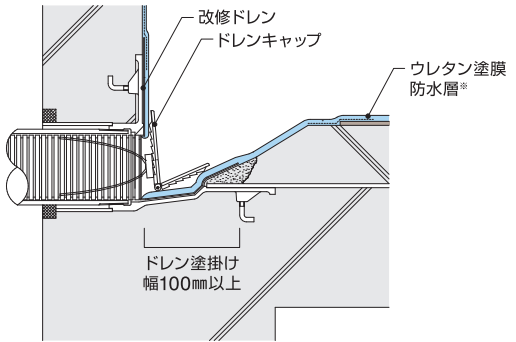
ステンレスベントN



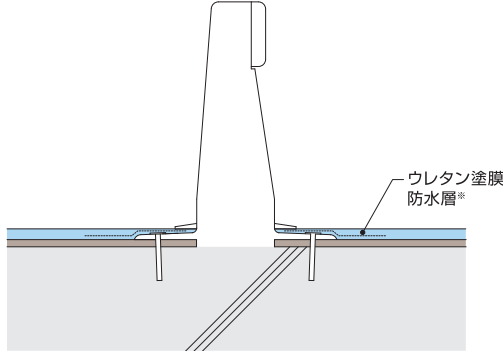
トップライト



LF改修ドレンU ヨコ型



DDベント



新築
工法仕様
施工条件と注意事項
改修
工法仕様
施工条件と注意事項
製品
ウレタン塗膜防水材
プライマー/トップコート
通気緩衝シート/その他
ドレン/排水装置/下地/自地処理材
使用材料一覧
製品取り扱い
資料
消防法関連
使用上の注意事項
メンテナンス保証
納まり図

新築
工法仕様
施工条件と注意事項
改修
工法仕様
施工条件と注意事項
製品
ウレタン塗膜防水材
プライマー/トップコート
通気緩衝シート/その他
ドレン/排水装置/下地/自地処理材
使用材料一覧
製品取り扱い
資料
消防法関連
使用上の注意事項
メンテナンス保証
納まり図

MEMO

MEMO

新築	
工法仕様	施工案件と 注意事項
改修	
工法仕様	施工案件と 注意事項
製品	
ウレタン 塗膜防水材	
プライマー／ トップコート	
通気緩衝シート その他	
ドレン脱装機 下地自地処理材	
使用材料一覧	製品取り扱い 注意事項
資料	
消防法関連	使用上の 注意事項
メンテナンス 保証	
納まり図	

新築	
工法仕様	施工案件と 注意事項
改修	
工法仕様	施工案件と 注意事項
製品	
ウレタン 塗膜防水材	
プライマー／ トップコート	
通気緩衝シート その他	
ドレン脱装機 下地自地処理材	
使用材料一覧	製品取り扱い 注意事項
資料	
消防法関連	使用上の 注意事項
メンテナンス 保証	
納まり図	

MEMO

MEMO

新築	
工法仕様	施工案件と 注意事項
改修	
工法仕様	施工案件と 注意事項
製品	
ウレタン 塗膜防水材	製品取り扱い 注意事項
プライマー／ トップコート	
その他	
通気緩衝シート	
ドレン脱装機 下地自地処理材	
使用材料一覧	
製品取り扱い扱い	
注意事項	
資料	
消防法関連	使用上の 注意事項
メンテナンス 保証	
納まり図	

新築	
工法仕様	施工条件と 注意事項
改修	
工法仕様	施工条件と 注意事項
製品	
ウレタン 塗膜防水材	製品取り扱い 注意事項
プライマー トップコート	
その他	
通気緩衝シート	
ドレン脱装機 下地自地処理材	
使用材料一覧	
資料	
消防法関連	使用上の 注意事項
メンテナンス 保証	
納まり図	